

41246

教科書文庫

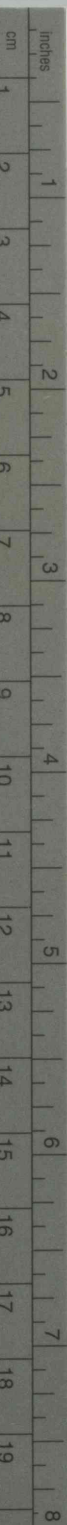
4
910
42-1943
2000080802

Kodak Gray Scale



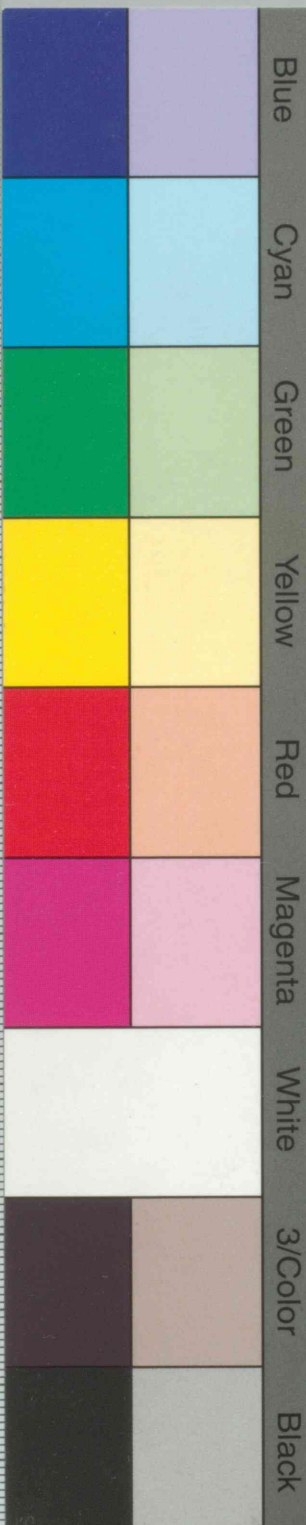
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫  
4  
910  
42-1943  
2000080802

新日本家事教科書

下卷





資料室

教科書文庫

4

910

42-1943

2000080802

日二十月七年八十和昭  
濟定檢省部文

用科事家校學女等高  
用科辭裁及事家校學業實

本日新  
書科教事家

授教校學範師等高子女京東

二 犀 崎 山

士 博 學 醫

郎 太 邦 本 有

著 共

広島大学図書

2000080802



卷 下



本書 大正八刷定規給印判

46  
900  
冊18



我等國民は全一體となつて生活すべきことに思を輸いさなければならぬ。今や新日本にの黎明の鐘は鳴り響いた。舊き個人主義の殻から脱却して、新しき全體主義の社會觀に基づきて生活しなければならぬ時である。もはや個人の利益、個人の自由などと自己中心にのみ考へては居られない。舊き家庭生活はこの觀點に於て修正せらるべきものが少くない。本書が新日本に家事教科書と題する所以は、聊なりともこれに貢獻せんとするが爲である。



新日本家事教科書 下卷・目次

第一篇 看護……………〔一七五〕

第一課	病氣と看護……………	一
第二課	病人の衣食住……………	六
第三課	病狀の觀察……………	一四
第四課	手當……………	一九
第五課	危篤者の看護と死後の處置……………	二六
第六課	藥の用法……………	二七
第七課	病人の手當……………	三三
第八課	應急手當……………	三九
第九課	傳染病……………	五二
(一)	傳染病の種類と豫防……………	五二



(二) 主な法定傳染病……………五八  
 (三) 主な非法定傳染病……………六五  
 第十課 家庭用藥品と看護用具……………七三

第二篇 養老……………〔七六一—八〇〕

第一課 慰安……………七六  
 第二課 身體の保護……………七八

第三篇 育兒……………〔八一—一四八〕

第一課 妊娠……………八一  
 第二課 分娩……………八五  
 第三課 乳兒の養護……………八八  
 第四課 乳兒の榮養……………一〇一  
 第五課 幼兒の養護……………一一五

第六課 乳幼兒の教育……………一二一  
 第七課 小兒の養護……………一三三  
 第八課 子供の疾病……………一三六

第四篇 家庭管理……………〔二四九—二五五〕

第一課 家務の處理……………一四九  
 第二課 交際……………一五三

第五篇 家事經濟……………〔二五六—二八七〕

第一課 家事の基本……………一五六  
 第二課 収入……………一五七  
 第三課 収入の安定……………一六〇  
 第四課 生計費……………一六九  
 第五課 家計簿……………一八四



# 新日本家事教科書 (下巻)

## 第一篇 看護

### 第一課 病氣と看護

#### 一 病氣と看護

人體諸器官の機能は時として正調を失ふことがある。かやうな状態を病氣といふ<sup>①</sup>。けれども身體には一面病氣や傷が自然に回復する力を持つてゐる。醫療は主としてこの自然的回復力を助成するものであり、看護は病人に慰安を與へ、かつ醫療の効果をあげて自然的回復を速かならしめるものである。昔からの諺に、二に看護、二に藥といふのはこの故である。

<sup>①</sup> 人體の各器官は獨立して機能を営むことを得ず相互に關聯し、調和を保つて生きてゐるのであるから、一器官の故障は他の器官に波及し、全身の健康を害ふ。故に輕微な傷痍も放置してはならない。

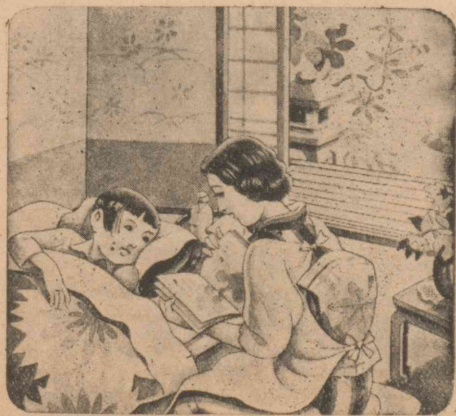


四 看護人の心得

看護人は能く醫師の指圖を守り、我意を挟まず、厚き同情心と忍耐  
力と、細<sup>さい</sup>緻<sup>ち</sup>の注意を以て看護に當らなければならぬ。病氣に罹  
ると著しく短氣になり、憂鬱になるものであるから、常人に對する  
やうな氣持で接してはならない。次に看護人の心得べき事項の  
大要を述べることにしよう。

(A) 病室に於ける心得

- (1) 成るべく看護服など清潔な上衣を着用し、動作を靜かにすること。
- (2) 耳語<sup>じご</sup>・高談及び病人に不安の感を引きさせる言動を慎むこと。
- (3) 傳染病の看護人は室外に出るとき必ず手を消毒すること。



看護

(4) 病床日誌をつけること。

(B) 病人に對する心得

- (1) 病人の顔貌病狀に異變なきかを常に注意すること。
  - (2) 傳染病の病人に對しては恐怖の態度を示さないこと。
  - (3) 病人の希望に依り哀情をそゝらず慰安になるやうな新聞雜誌などを讀み聞かせること。
  - (4) 病人の要求は機敏に處理すること。
  - (5) 病人の悲觀するやうな病狀は話さないこと。
- (C) 醫師に對する心得
- (1) 病狀の急變を發見したときは、深夜と雖も直ちに醫師に通知すること。
  - (2) 醫師に對しては細大となく病狀を告げること。
  - (3) 看護上の疑問はよく質<sup>たず</sup>し置くこと。



〔設問〕

1 看護人が病氣見舞客に接する心得を問ふ。

2 病氣見舞をなす際の心得を述べよ。

3 醫師を招く場合の心得を問ふ。

- (4) 診察が終れば消毒液・石鹼・手洗湯・タオルを差出すこと。
- (D) 見舞客に對する心得

- (1) 見舞客は妄りに病室に通さないこと。
- (2) 傳染病のときは見舞客を絶対に通さないこと。
- (3) 病人の疲勞を防ぐ爲、見舞客を長く談話しないやう取計ふこと。

目 醫 療

(A) 醫師の選び方

- (1) 平素近所に適當な醫師を主治醫と定め置くこと。主治醫は患者の身體の狀況既往症などを能く心得てゐるから、治療上の効果があがるばかりか、良き相談相手になる。
- (2) 病症に依つては直ちに専門醫にかけること。専門醫は設備がよく、また信頼し得る者を平素から選び置き、その住所電話番号などを記した紙を壁その他見易い場所に貼付し置くがよい。病症

に依つては、綜合病院が最もよい。

(B) 受診の心得

- (1) 病症に依つては深夜でも受診を遠慮しないこと。
- (2) 來診を乞ふときは病狀の大體を告げること。これは醫師が應急の準備をして來る爲に必要である。
- (3) 診察を受ける際は、既往及び現在の症狀と診察を受けるまでの處置とを精細に告げること。
- (4) 他の醫師の診察を受けるときは、一應現在の醫師の諒解を得るのが禮儀である。

(C) 治療を受けてゐる間の心得

- (1) 醫師に祕して妄りに素人療治を行はないこと。
- (2) 醫師の見放した重病でも最後まで最善を盡すこと。
- (3) 最も完全な治療は入院であること。

③ 一回の受診で病名を決定することは困難な場合が多い。



## 第二課 病人の衣食住

### 〔設問〕

1 病衣に最も適する織物二種を述べよ。

### ■ 病衣

(A) 病衣の選び方 病衣は(1)寛かなこと、(2)吸湿性少きこと、(3)軟かきこと、(4)軽きこと、(5)皮膚を刺戟しないこと、(6)洗濯消毒に適することが要件である。これに適するものは、夏は白地の木綿単衣、冬は綿ネルの単衣などがよい。

(B) 更衣 (1)病衣は度々洗濯するがよい。(2)冬の更衣は、豫め温める。(3)發汗が終れば身體を乾布で拭うて後に更衣する。(4)重症者は横臥のまま、片側から更衣するがよい。

### ■ 飲食物

(A) 飲食物の選び方 病人の食物は病氣の回復に至大の影響があるから、深く注意しなければならない。如何なる食物が適當かは

2 食物が病氣の回復に至大の關係を有する所以を

説け。

3 病人の食餌選定方針を述べよ。

4 重湯の作り方を述べよ。

④ スープは肉や野菜類を煮て汁にしたものをいひ、肉汁は単に肉の汁を搾つたものをいふ。

5 スープの作り方を述べよ。

6 肉汁及び果物汁のとり方を述べよ。

7 白身の魚肉は何か。故病人に適するか。

病氣の種類や程度に依つて異なるが、その方針は次の如くである。

(1) 病氣の種類に依り攝つて悪い飲食物はこれを避け、その他は出来るだけ各種の營養素に缺けないやう、かつ特に病氣の回復に効果的な營養素を多量に含む食物を選ぶこと。

(2) 如何なる病氣でも消化器は平素のやうに健全でないのが常であるから、出来るだけ消化の良好なものを選び、かつこれを消化の良い調理法に依つて食べさせること。

(3) 病人の嗜好に應じ、努めて食慾をそゝるやう獻立竝に調理法を工夫すること。尤も例外として病氣の種類に依り、一定期間食物の攝取を差控へ、または禁じなければならぬ場合がある。

病人の食物には流動食、易消化食、通常食の區別がある。(a) 流動食とは牛乳、重湯、葛湯、スープ、肉汁、果物汁の類、(b) 易消化食とは粥、食パン、オートミール、牛乳、半熟卵刺身(成るべく白身のもの)、脂肪の少い魚肉、豆腐、軟かな野菜の類、(c) 通常食とは



特に消化の困難な物を除いた一般の食物をいふ。

(B) 飲食物の與へ方

(1) 食事の介添 食事は病人が起きて食べる場合の外は看護人が介添し、頭部をもたげさせるか、またはこれを横向にして與へる。流動物には吸呑みを用ひる。

(2) 食事の度数 これは三回と限定せず従つて睡眠中や高熱時などには適宜に差控へる。間食は悪い。

(3) 急性の熱性病 この場合には、身體の組織の重要成分を爲す蛋白質の消耗が甚だしいから、これを補充する爲蛋白質の多い食物を與へ、脂肪分や鹽分の多い物



吸呑みとその用ひ方

8 急性の熱性病とは如何なるものか例示せよ。

9 結核病者に対する食品の選び方を具體的に述べよ。

は差控へる。尤も高い熱の出てゐるときは、水または滋養分の少ないものゝ方がよい。流動食には牛乳が最もよい。スープは食慾をそゝる飲物として賞用されてゐる。

(4) 慢性の熱性病(結核) この場合には身體の組織が漸次消耗して衰弱するから、榮養を十分にして抵抗力を増大しなければならぬ。従つてなるべく消化の良い、榮養豊かな食物を與へることゝし、調理法を研究する。特に脂肪、蛋白質、無機質、ビタミンを十分に與へる必要があり、無機質中では燐、カルシウム、鐵、銅など、ビタミンではA・Dを多量に與へるがよい。これには小魚類、軟かい葉菜類、バター、卵黄、肝油などが適する。

食慾を増進させる手段としてはエキスを與へるがよく、流動食としては牛乳が最もよい。食鹽は一般に少くする方がよい。

(C) 食餌療法



10 腎臓病者に對する食品の選び方を具體的に説明せよ。

11 糖尿病者に對する食品の選び方を具體的に説明せよ。

④ 野菜は炭水化物含有量五%以下のもの、即ち葉菜類でなければならぬ。水分は出来るだけ制限する。

12 病室が病氣の回復に重要な役割を有する所以を述べよ。

⑤ この病室では風の強弱・有無に應じ換氣窓の開き方を適宜調節することが出来るし、日光の射入も十分でありカーテンによりその調節も自由である。

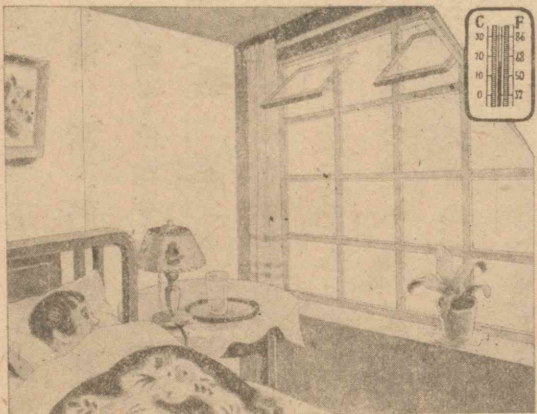
(1) 腎臓病 これには腎臓の機能を弱めるやうな飲食物を避ける。従つて蛋白質を含む食品や、香辛料、アルコール飲料の如き刺激物は悪い。食鹽や醬油の分量も制限しなければならぬ。

(2) 糖尿病 これには炭水化物(糖分)食品を避ける。従つてこれを節し、カロリーは脂肪、蛋白質から得るやうに心掛け、主として肉類をとる。但し、他の營養素の缺乏に因り營養不全を來してはいけぬから、少量の野菜その他に依りこれを補ふ。この場合に用ひる野菜は主として葉菜類である。香辛料は避ける方がよい。アルコール飲料は少量ならば差支ない。

(3) 高血壓症(動脈硬化) これは食量を制限して肥滿することを避ける。特に脂肪、蛋白質(主として肉類)を抑制し、纖維多き葉菜類を用ひる。

### 目病室

(A) 病室の定め方 病室は(1)晴れやかなこと、(2)閑靜なこと、(3)採光通風のよいこと、(4)床下の能く乾燥してゐるところがよい。また



⑥ 病室のよい

室の廣さは六疊乃至八疊位が適當である。これに控室のあるのが望ましい。

(B) 採光換氣 採光通風が良いと病體の新陳代謝を旺んにし、快感を與へて自然的回復を促進する。それ故室は南向のものを選ぶ。夜間電燈は乳色または艶消硝子のグローブを用ひて強い光線の直接に眼に當るを防ぐ。

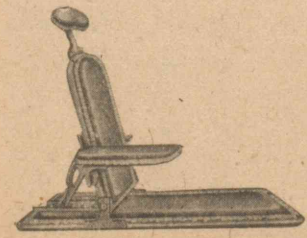
(C) 温度湿度 病室の温度は大體十六度から二十度が適當であるが、病氣に依つては一様でないから醫師と相談の上調節する。



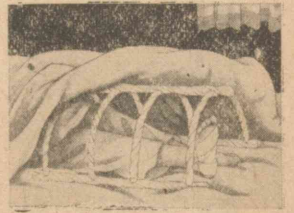
湿度は病氣の種類及び室温にもよるが、六十乃至七十度位がよい。炭火を用ひて病室を温めることは、空氣を汚す點に於て缺點がある。電熱を用ひれば理想的である。  
(D) 清潔 病室は毎日二回位は靜かに掃除する。その際は病人の顔を白布で覆ふがよい。

四病 床

(A) 病床の位置 これは廣い室では中央に設けるが、狭い室では片寄せて枕元を入口から遠ざける。  
(B) 病床の整へ方 病床は水平にするが通例であるが、咳嗽の頻發する病症では、凭れ物を用ひて病床の上半部を高くしてもよい。寢臺を用ひない場合は、綿蒲團の下に藁蒲團を敷くか、綿蒲團を二枚重ねて病褥とするがよい。病褥の



物れ凭



方ひ用の架被離

汚れる虞ある場合は、敷布の下に油紙か防水布を挿入する。掛蒲團は軽いものがよいが、必ず白布を以て覆ふ。局部に氷嚢を用ひるとき、または掛蒲團の直接に觸れるのを避ける所には、離被架を用ひる。

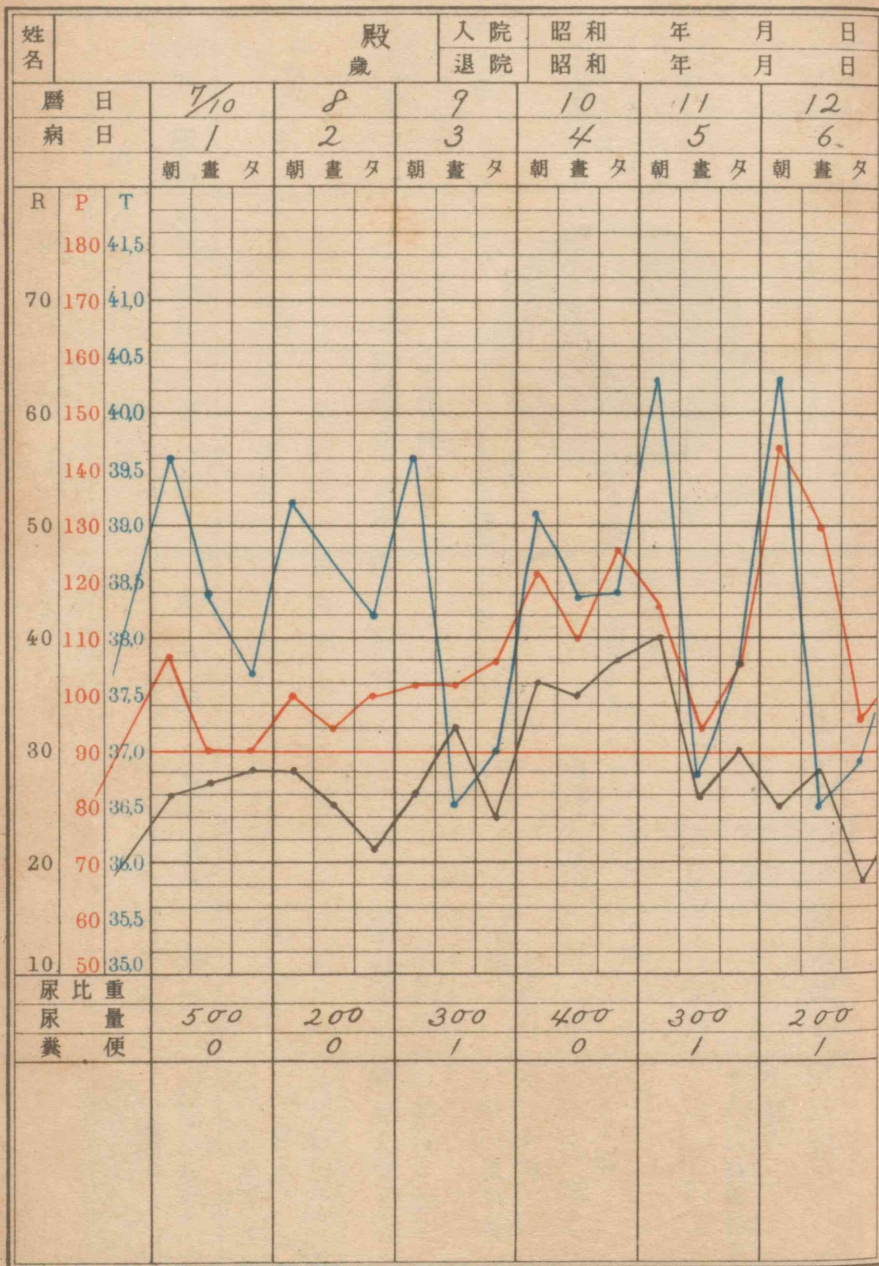
(C) 病褥の取替 蒲團は度々日光に曝らし、敷布枕覆などは度々洗濯するがよい。冬季に病褥を取替へるときは、豫め温めて置く。敷布を取替へるときは下圖のやうに舊い布を巻き、新しい布をその下まで擴げ、病人をもたげて他の側に移した



方へ替取の布敷



體 溫 表



R—呼吸 P—脈搏 T—體温

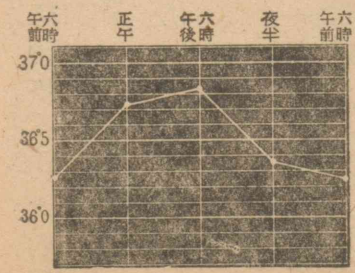
① 體温表中尿量は c.c. (即ち立方糎) を用ひる。故に五〇〇は〇・五に當る。

看護人の任務

第三課 病狀の觀察

後、新しい布を完全にのべる。  
 動かし得ない病人には足先から舊い布を巻き、新しい布をのべ腰部を持ち上げ、次第に上體に及ぶ方法もある。

(A) 健康者の體温 體温は季節に依つて變化がない。しかし、一日には攝氏五分乃至一度の變  
 極めて微細な症狀の變化も、悪い轉向の前兆となることがあるから、病狀は精細に觀察し、これを體温表<sup>①</sup>または病床日誌に記入し、醫師に差出さなければならぬ。これは看護人の重要な任務である。



表温體の日一者康健



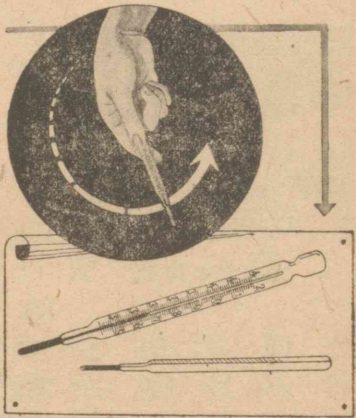
何某病床日誌

昭和〇年〇月〇日

時刻	體温	脈搏	呼吸	服藥	飲食物	便通	利尿	處置	備考
午前 五時半	三八・二	一一〇	三〇					水枕	午前五時過ぎより頭痛甚だしく發熱嘔吐云々
午前七時	三八・七	一一〇	三〇	午前七時半散藥 午前八時水藥	正午過ぎ牛乳			全胸部 温濕布	胸痛を訴ふ 何醫師を迎ふ
正午	三九・三	一一〇	三〇	午後零時半過ぎ散藥 午後一時水藥	重湯コップ一杯宛			頭部 氷巻法	何時何先生来 診注射
午後六時	四〇・〇	一二〇	二九	午後七時半頃散藥 午後八時水藥	七時頃アイスクリム 牛乳一杯	本日 ナシ	本日 ナシ		終日不眠 午後十一時頃譫言を發す

③ 三十六度以上三十七度までを平熱といひ、三十六度未満または三十七度を超えるときは病熱といふ。

〔設問〕  
1 検温器の種類とその用ひ方につき述べよ。



検温器の振り方

である。検温するには先づ検温器が三十五度以下に下つてゐることを確かめ、腋下を軽く乾拭かわきしてこれを挿入し、水銀槽を上膊じやうたに密着させ、約五分間の後、取出して目盛を読み、更に直ちに約二分間ばかり挿入して後、再び目盛を讀む。これが前の目盛と同一のときは、完全に體温を示してゐるのである。検温器の使用後は水銀柱を三十五度以下に振下げて、成るべく

化があつて、朝は低く、晩は高い。その平均温は腋下で成人攝氏三十六度五分、子供及び青年女子はこれより幾分高く、老年は幾分低い。  
(B) 體温の測り方 これは病症に依つて違ふが、朝晝晩の食前に測るが通例



検温器の測り方



2 誤差ある検温器は如何にして體温を知るか。

④ 子供脈搏數

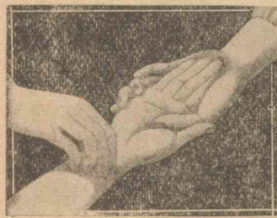
初生兒	一三〇—一四〇
一歲	一〇〇—一〇五
二歲	九〇—一〇〇
三歲	八〇—九〇
四歲	七〇—八〇
五歲—十歲	六〇—七〇

アルコールを以て拭うて置く。傳染病者に使用したときは、〇・一(千)の昇汞水で消毒しなければならぬ。檢温器には概ね柱があるから、時々藥局などで標準檢温器に對照して、その誤差を調べて貰ふがよい。

### 目脈搏

(A) 健康者の脈搏 これは成年男子一分間六十五乃至七十二、成年女子はこれより少し多く、子供は年齢に依り異なるが、成年女子よりも更に多い。熱のある時は多くなり、衰弱すれば弱くなる。また立つたときと臥したときとは回數が異なる。

(B) 脈搏の測り方 脈搏は手頸を圖の如く指頭を以て軽く觸れて一分間測る。その數を測るばかりでなく、不整結滯の有無強弱にも注意しなければならぬ。



脈搏測の方

### 四呼吸

(A) 健康者の呼吸 これは成年に在りては一分間に十六乃至十八で、脈搏四に對し呼吸一の割合となる。子供はその數が多い。そして熱のある時は増加し、睡眠中は減ずる。

(B) 呼吸の測り方 呼吸は胸または腹部の上に掌を置いて測る。呼吸が微かなときは絲端に羽毛を吊るし、鼻孔で測るがよい。

### 五皮膚

症狀は皮膚の色でも知ることが出来る。貧血は蒼白、黄疸は黄色、發熱は紅潮を呈する。また猩紅熱痘瘡麻疹などは發疹を生ずる。

### 六顔貌

病症の輕重は能く顔貌に現はれる。眼に光澤がなく、顔色に生氣がないのは重病の徴である。腸チフス、腦膜炎などの如き高熱の者の顔貌が、遲鈍狀を呈するのは意識が昏迷してゐる證である。

④ 子供の呼吸數

初生兒	三〇—四〇
一歲	二五—三〇
二歲	二〇—二五
三歲	一五—二〇
五歲	一〇—一五

3 運動後・食事後に於ける體温・脈搏・呼吸の變化を問ふ。

4 貧血狀態を最も能く觀察し得る部位はいづこか。

5 麻疹などの發疹を初期に於て發見し得る部位はいづこか。



七 睡眠

① 便通は一日一回が普通であるが乳児の便通は出生後一二箇月は一日三四回、成長するに従ひ減少する。

② 尿は發熱・發汗・下痢・心臓衰弱・腎臓病のときはその量も回数も減少して濃厚になり、糖尿病・萎縮腎などのときはその量も回数も増加する。

③ 痰に血を交へたものを血痰といひ主として血を咯出するものを咯血といふ。

睡眠の状態に症状の現はれることがある。重病の者甚だしく衰弱した者等が、餘りうとくと眠り續けるのは嗜眠状態といつて危険な症状であり、知覺を失つて無意識に眠るのは昏睡といつて一層危険な症状である。嗜眠性腦炎も嗜眠が特徴の一つである。

八 便通と尿利

大便は下痢か、便秘か、粘液血液または膿を交へることはないかを調べる。血液といつても黒色や珈琲色のこともある。

尿は容量・回数・色・臭氣を注意する。

九 咯痰・咯血及び吐血

① 血痰は鼻咽喉・氣管・支肺などの病氣のときに出で、咯血は肺結核や肺デストマに罹つたときに起り、また吐血は食道や胃腸の潰瘍に罹つたときに起る。咯血は概ね鮮血であるが、吐血は概ね暗赤色である。

第四課 手 當

一 發熱

① 發熱は身體を侵す病原菌に對して、或程度の防禦機能を有するかから、妄りに解熱劑を用ひず、醫師の指圖を待つのが肝要である。高熱のときは、頭部乃至心臓部を冷すがよい。

【設問】

① 解熱劑の濫用は何故戒めなければならぬか。

二 發汗

汗は、發熱・解熱劑服用・衰弱の爲に發する。しかし、病人は氣溫や濕度に敏感な爲常人よりも發汗し易い。衰弱の爲に發するのは冷汗であつて、睡眠中に發するから寢汗ともいふ。衰弱の爲發汗する場合は體力の回復に努め、發熱するか、または解熱劑を用ひた爲に發汗する場合は、冷さないやう十分に發汗させる。いづれにし



ても發汗後は全身をよく拭うて更衣させなければならぬ。

### 目 睡眠

睡眠は病症の自然的回復を助けるから、看護人は努めて病人の安眠を圖るがよい。これが爲には(1)周囲を静かにし、(2)室内を暗くし、(3)便通を良くし、(4)興奮飲料を避けなければならぬ。

### 四 嘔吐

嘔吐を催すときは氷片を與へるか、または胃部に氷嚢を置くこと効果がある。度々嘔吐するのを防ぐ爲には半日間冷水、氷片の外食物を與へないがよい。嘔吐後は冷水を以て含嗽させ、嘔吐物は密閉して室外に出し、醫師に示す。重症者が嘔吐するのは好くない症状であるから、直ちに醫師を招かなければならない。

### 五 便通・利尿

便が腸内に長く停滞すると、酸酵して自家中毒を起し、病氣の回復

力を弱めるから、便秘しないやう食物に注意し、もし便秘したときは緩下劑を服用させるか灌腸を行ふ。

床を離れ得ないか、または絶対安靜を要する病人の用便には差込便器を用ひ、男子には

同時に尿器を用ひる。

使用前には温湯を注

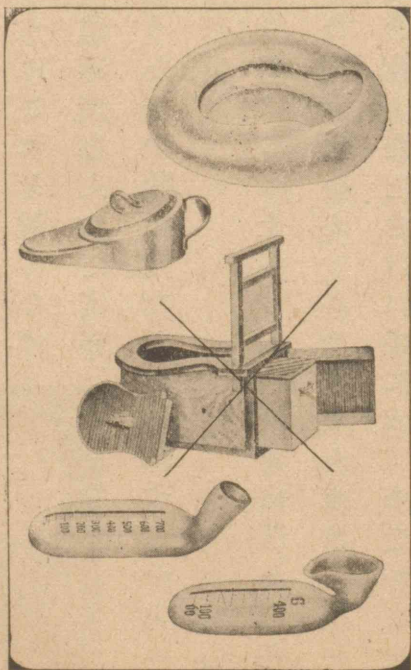
ぐなどの方法で、冷く

感じさせぬやうにし

身體に接する部分に

は布片を卷く。婦人

に尿器を用ひる場合は、尿の飛散せぬやう紙などを以て上から覆ふがよい。傳染病やその疑ある病人の汚物は消毒する。排便排尿は必要に依り醫師の検査を受ける。



器 便



㊦ 咳嗽・喀痰

咳嗽が頻發するときには枕を高くし、咽喉部胸部に温罨法を施すがよい。傳染病者が咳嗽するときには、目立たぬやうにこれを避けなければならぬ。喀痰は消毒液を入れた痰壺に吐出させる。痰を拭うた紙や脱脂綿などは焼却するがよい。



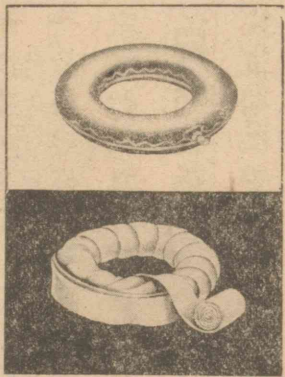
痰壺

㊧ 痙攣 (けいれん) (つげ)

痙攣とは齒は喰ひしぼり、眼はつり上がり、顔色は蒼白となり、甚だしきは身體強直となつた症状をいふ。かやうなときは衣服を緩めて安らかに寝させ、舌を出したときは口中にガーゼをかませ、頭部に冷罨法を施し、醫師を迎へる。大聲で呼びまたは身體を揺り動かすやうなことは有害である。

㊨ 「とこずれ」

「とこずれ」は身體の一部を長く壓迫してその部分の血行や榮養に



褥 環 狀

障碍を起し、次第に「ただれ」を生ずる状態をいふ。これは永く寝てゐる病人や神經系の麻痺病の病人などによく出来る。これを豫防するには、(1)出來さうなところを乾燥させるやうにし、(2)屢、病床を取

替へ、(3)寝巻・寝具に皺の出來ないやうにし、(4)必要に應じ環狀褥(圓座)を用ひ、(5)また更衣などの際にその徴候を認めるときは、屢、アルコールを以て摩擦し、血液の循環を良くする。

既に「とこずれ」が出來たときは、アルコールを以てよく拭ひ、硼酸軟膏などを貼る。

㊩ 清潔

(A) 清潔 顔や手を清潔にし、含嗽させ、髪を梳るときは心氣を爽

2 痙攣を起したときの看護法を述べよ。



かにするものであるから、病氣に障らない限り毎日實行させるがよい。

3 病氣の自然的回復を圖るに必要な條件を知つてゐるだけ述べよ。

4 病人を入浴させるときの心得を述べよ。

(B) 入浴 これは身體を清潔にするほか新陳代謝を助け、心身を爽ならしめ病症の自然的回復を促進する効果がある。病人を入浴させて良いか否かは醫師に謀り、その指圖に従つて溫度時間などを定める。衰弱した病人に熱い湯や長い入浴は有害である。入浴が終れば乾いたタオルで手早く拭ひ、乾いた寢卷を着せて速かに寝かせる。全身浴の外に半身浴、座浴などの方法がある。いづれも閉ざした室で行はなければならぬ。

回復期

回復期に安心して不攝生をすれば、病勢は逆轉することが少くない。食物や運動は度を過さず、また夜更かしなどしないやう注意

が肝要である。

轉地療養は病氣の種類に依つては回復を速める効果があるから、家庭の事情が許せば醫師に謀つてから行ふがよい。



病人の運び方



第五課 危篤者の看護と死後の處置

■ 危篤者の看護

【設問】  
回復の見込みなき病人に對する看護と前後處置とにつき考究せよ。

病人が危篤に陥ると呼吸は淺く、緩やかになつて、喘鳴ぜんめいを發し鼻翼びよくを動かし、脈搏は數へ難いほどに弱く不整になつて、眼は力なく半開となり、顔面は蒼白または暗紫色に變り、手足は冷える。かうした徵候が現はれかけたときは、時を移さず醫師を迎へると共に親族や昵懇者ちこんしやに知らせる。臨終となれば冷水を以て唇を潤すのが慣例である。病症に依つては臨終まで精神が確かであるから、かやうな病人には力づけて最後まで回復の希望をもたせ、かりそめにも病人の失望するやうな態度を示してはならない。遺言は病人が自ら進んで爲す場合はよいが、さもないときは本人が臨終の近づいたことを感知しないやうにさせ、最後まで回生の希望を失はせないやうにするがよい。

■ 死後の處置

いよゝゝ息が絶え、醫師が死亡の斷定を下したときは衣服を解きアルコールまたは昇汞水を以て全身を淨め、鼻口・肛門などに綿栓をなし、眼瞼まぶたや口を閉ぢさせて、温容を整へ、顔に白布をかけ、衣服や寝具を更めて靜かに寝させる。傳染病者の死亡したときはそれぞれ法規に従つて處置しなければならぬ。死亡届は醫師の診斷書を添付して市(區)町村長に差出し、埋葬認可書が下つてから二十四時間を経なければ埋葬または火葬を爲すことが出来ない。

第六課 藥の用法

■ 服藥の心得

醫藥は用ひ方を誤れば効果がないばかりか、却つて有害で生命に

① 法律上効果を生ずる遺言を爲すには、自筆證書に日附・氏名を自書し、これに捺印するか、そうでなければその他の複雑な手續をとらなければならぬ。

② 爵位・位階のある者が死亡したときは宮内省宗秩寮に、勳等のある者が死亡したときは賞勳局に届出でなければならぬ。

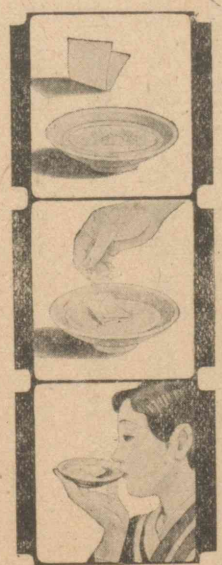


【設問】  
1 服薬には如何なる心得が必要か。

も危険な場合もある。醫薬には、内用薬と外用薬とあるが、内用薬は食前空腹時に服用を要するものもあり、食後満腹時に服用を要するものもあり、また特別な服用時刻を定められるものもある。けれども病人の睡眠中は、指定時刻が来たとして起してまで服用させる必要のないものが多い。薬には必ず用ひ方を明記してあるから一覽して後に用ひ、不審の點は豫め醫師に質して置くがよい。

■内用薬

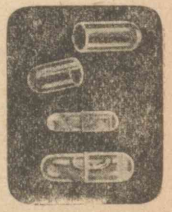
(A) 散薬 こなぐすり これは舌の上に乗せ、冷水または微温湯で飲む。飲みにくい薬はオブラートに包むか、またはカプセルに入れて飲む。オブラートに軟性のものと硬性のものがあるが、軟性で品質優良な品を選ぶがよい。<sup>①</sup> 乳児には乳頭につけて飲



方ひ用のトーラブオ

① 品質不良のオブラートは胃中に於て數時間も溶解しないから、殆んど薬用の効果がないことになる。

② 乳酸菌製劑などは年がたつと無効になる。ヒマシ油も永く空気に曝すときは異臭を生じ、飲みにくくなる。

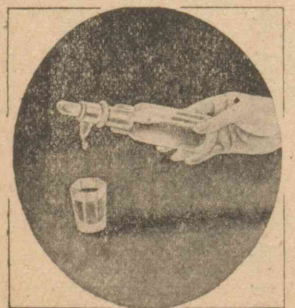


ルセブカ

ずい冷水または微温湯と共に一氣に飲み下す。大形錠劑は嚙んでもよいやうに出來てゐる。

(C) 水薬 これは薬劑を蒸溜水に溶解させたものであるから、能く振つて盃などに注いで服用する。上體を起し得ない病人には急須などを用ひ、幼兒には匙を以て少量宛飲ませる。夏季には冷たい暗い所に置くがよい。

(D) 油劑 これは概ね臭氣があつて飲みにくいから番茶砂糖水などに浮べて飲み、後に含嗽または口中を脱脂綿などで拭ふ。  
(E) 滴劑 これは滴瓶から水中に滴下し



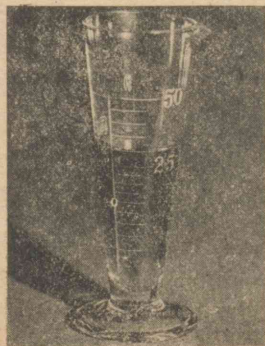
方ひ用の瓶滴



③「げん」のしょう  
この如きは煎  
劑であり、「せん  
ぶり」の如きは  
浸出劑である。

④一%といふは清  
水一〇〇瓦に薬  
一瓦をいふ。  
水一〇〇瓦は容  
量にすると一〇  
〇立方センチ  
(100 c.c.)に當る。  
メートルグラス  
を使用すれば便  
利である。

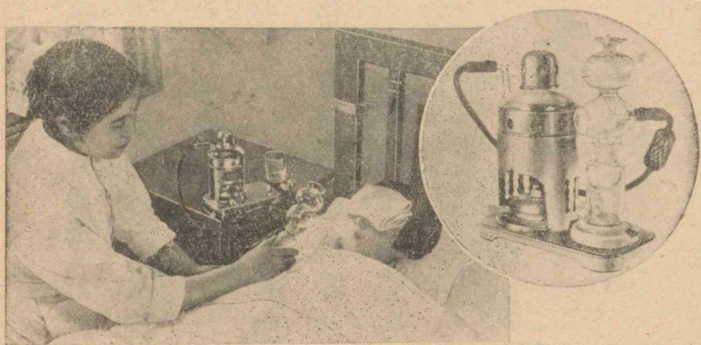
て飲む。醫師から指定された滴數を誤つてはならない。  
(F)煎劑浸出劑<sup>ゼンブツ</sup> 煎劑はとろ火で三十分間煎じてその汁を飲み、  
浸出劑は熱温に約五分間浸出させてその汁を飲む。  
**目外用薬**  
(A)塗布薬 これに毛筆または綿に浸み込ませて塗る。場合に依  
り、塗る部位にガーゼまたは油紙を當て、軽く繃帶<sup>はうたい</sup>する。  
(B)塗擦劑 これに軟膏と油劑とがある。指頭に薬をとり、皮膚面  
に軽く擦り込む。後でガーゼまたは油紙を當て、繃帶する。  
**四 蒸氣吸入法**  
蒸氣吸入は呼吸器の治療に施行する。吸  
入薬は約一%の重曹水、食鹽水または硼酸  
水とし、これを吸入器で約五分間宛一日數  
回吸入する。吸入器<sup>⑤</sup>を使用する際は次の



スラグルトーマ

⑤吸入器使用の心  
得を述べよ。

注意が必要である。



吸入器と使用法

- ①吸入器の瓶には三分の二以下の湯を  
入れること。
- ②蒸氣が噴出するやうになつた最初は  
大粒の熱い霧が出るから、それが止つて  
後に吸入を開始すること。
- ③子供や衰弱者は呼吸困難を起さない  
やう適當に離すこと。
- ④アルコールランプ吸入器には薬用ア  
ルコールを用ひるのが治療上有効であ  
ること。
- ⑤吸入の際は吸入者の鼻孔以外を蔽ひ  
衣類の濡れることを防ぐ爲、前掛を施す



こと。

㊦ 含嗽薬の用法

① 口腔または咽喉の疾患に施用するのであるが、健康者も外出から歸つたときはこれを行ふがよい。鼻や口から侵入する病原菌を洗出すことが出来る。

薬液の含嗽は口腔または咽喉を洗ふ爲に行ふ。含嗽薬には一%の硼酸水・食鹽水または鹽酸カリを用ひる。うすい過酸化水素水もよい。咽喉の含嗽は口を廣く開いて上方に向けてなし、喉頭の含嗽は薬液を成るべく深く吸込み置きて「ア」といふ音を發すると同時に頭を少し後上方に引く。これは薬液を替へて二三回行ふがよい。



方しきの薬眼と瓶眼點

㊧ 眼薬の用法

眼薬は眼瞼を開いて滴下し、眼瞼を閉ぢる。この際成るべく眼頭に滴下しないやうにするがよい。

㊨ グリセリン座薬の用法

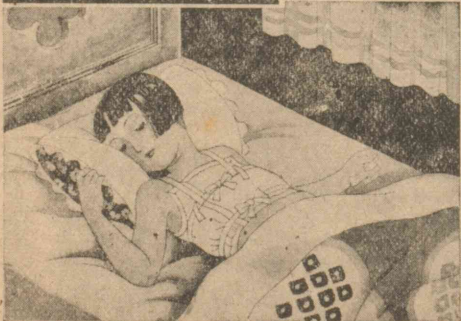
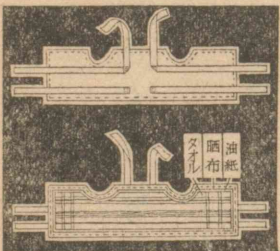
グリセリン座薬は排便の爲に用ひる。これは病人を横臥せにして口を開かせて腹壓を減じ、薬の包紙の先を破つて肛門内に手早く挿入する。

第七課 病人の手當

㊩ 罨 法

(A) 温罨法 これは主として患部を温め、血行を良くして深部に於ける軽度の炎症を除き、または疼痛をやはらげる爲に施す。

(1) 温湿布 (プリスニツツ) タオル、木綿ガーゼなどを温湯または温薬液に浸し、適度に絞つ



法罨氏ツッニスリブ



④ プリスニツツ氏  
薬法を内科的疾  
患に用ひる場合  
に濕布の上を油  
紙またはゴム布  
を以て覆ふのは  
不適當であるが  
外科的疾患には  
からするものが適  
當であるとされ  
てゐる。

⑤ バツプは濕布薬  
よりも有効であ  
る。

〔設問〕  
1 濕布を用ひる  
べき場合と冷濕  
布を用ひるべき  
場合との大體の  
區別標準を述べ  
よ。

(溫冷何れの薬  
法を施すべきか  
に迷ふときは必  
ず醫師の指圖を  
受けるべきであ  
る。)

2 溫巻法と冷巻法  
を施す症状二三  
を例示せよ。

③ 空氣があると水  
が早く溶ける。

① 芥子粒の代りに  
芥子粉を用ひて  
もよい。この場  
合は熱湯を注い  
でかきませ、火  
にあぶり能く練  
る。

て患部に密着するやうに當て、その上を布を以て包む。濕布は二  
三時間毎に取替へて乾燥しないやうにする。

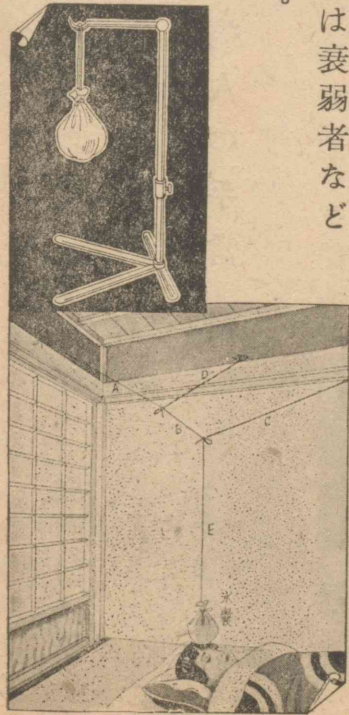
(2) バツプ これは米・大麥・小麥などを搗碎き、熱湯を加へて粥狀に  
練つたものか、または米飯、麹、蕪などを布片に包んだものをいふ。

その用法は患部に火傷を起さないやう布片を敷いた上に當てる。  
この代りに濕布薬を用ひることがある。

(3) 湯たんぼ熱鹽懷爐 これも布に包んで患部に當てる。胃腸カタ  
ルの起つたとき、または衰弱者など

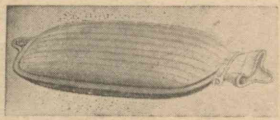
に用ひて有効である。

(B) 冷巻法 これは  
主として患部を冷  
す方法に依り高度  
の炎症や充血を除



水 嚮 の 掛 け 方

き、または疼痛をやはらげる爲に施す。



水 嚮

(1) 冷水巻法 手拭・タオルなどを冷水または硼酸水  
などに浸し、軽く絞つて患部に密着するやうに當て  
五分乃至十分毎に取替へる。また冷水をゴム枕・水  
嚮などに入れて用ひることもある。

(2) 水巻法 これは水の細片をゴム枕や水嚮などに  
入れて冷す方法であつて、これをつくるには水と共に水を少し入  
れ、空氣を出して口を締める。水巻法は強度の冷却を要するとき  
に用ひる。

### 芥子泥

芥子泥は深部の炎症・充血を外部に誘導する目的を以て用ひる。  
その方法は芥子粒を磨潰して熱湯を注ぎ、よくかきませ、泥狀と  
なし、紙または布片にのべて患部に貼る。皮膚が赤くなつたとき



は除き温濕布を以て拭ふ。長く貼つて置けばただれる。

目水 蛭

水蛭は炎症充血を除く爲に用ひる。先づアルコールを以て患部をよく拭ひ、砂糖水を塗り、水蛭を吸着させる。これが十分に血液を吸収して落ちるのを待ち、消毒ガーゼを以て傷口を押へる。血が止つたとき硼酸ガーゼを貼つて置く。もし水蛭が落ちないときは食鹽を振りかける。

四 通利灌腸と洗腸

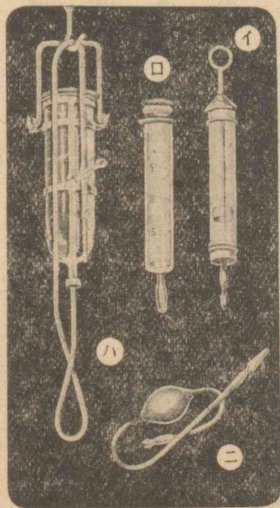
(A) 通利灌腸 これは消毒した灌腸器に、成人に對しては水〇三—〇五立に薬用石鹼末五—八瓦を溶かしたものを、またはグリセリン二十一—四十五瓦を水で二倍に薄めたものを入れ、病人を仰向に寝させ、



灌腸の仕方

④ 薬液多量るときは「イルリガートル」の類を使用し、それが少量のときは水銃またはスポイトを使用する。  
⑤ 子供には薬用石鹼末またはグリセリンを成人よりも薄い水溶液にして少量に用ひる。

臀部の下に油紙を敷き、灌腸器の嘴管にワセリン類を塗つて肛門から靜かに挿入し、管内の薬液を注ぐ。嘴管を抜取る際には脱脂綿を以て肛門を押へ、兩脚を伸ばさせる。



リルイ(ハ)銃水用腸灌(イ)器腸灌トイボス(ニ)ルトーガ

便臭の無くなるまで洗ふ。疫痢に對してはこの方法が賞用される。

五 繃帯

(A) 施用の目的 繃帯は患部を保護したり、傷口を押へて出血を止めたり、外用薬を支へたり、骨折などの際患部を動かぬやうに固定



① 龜甲帶・麥穗帶  
蛇行帶・折轉帶  
交叉帶。

② 卷軸帶を巻き終つたときは端を二つに裂いて解けないやうに結ぶ。小さい繃帯は端を折り「留め金」で止める。

させたりする爲に用ひる。

(B) 卷軸帶 これは晒木綿ガーゼなどを切つて細長くしたものを圓柱狀に巻くものを總稱し、下圖の如き巻き方がある。そして局部に巻くときは一と巻毎に繃帯の三分の一乃至二分の一を覆ひながら進む。



方き巻の帶繃

第八課 應急手當

醫師の來るまで

病人の容體に急變があつたり、不慮の遭難があつたときは、醫師を招くまでの間適當の手當を施して、急場を救はなければならぬから、私達は平素これらの急變に處するだけの手當方法を心得て置かなければならない。

外傷

(A) 打撲傷 これには冷罨法または温罨法を施す。腹部の打撲は内出血などを起し、重體に陥ることがある。いづれにしても甚だ

〔設問〕  
1 應急手當の心得は何故に必要なか。



① 市販のオキシ  
ルは三%の過酸  
化水素水であ  
る。  
② アンモニア水の  
なきときは一時  
重曹水で間に合  
はず。

しいときは、直ちに医療を受けなければならぬ。  
(B) 切傷、刺傷 この小傷は沃度チンキの類を塗り、消毒ガーゼを貼  
つて繃帯を施し、大傷は止血の爲ガーゼ白布などを以て血管を壓  
迫し、直ちに医療を受ける。刺傷は異物や細菌が筋肉に深く入り  
込むから、軽々しく取扱つてはならない。傷の周囲が不潔のとき  
は、アルコールまたは過酸化水素水で拭ふ。  
(C) 咬傷、螫傷 むかて蜂、いら、蟲の如き毒蟲に螫されたときは、手早  
くアンモニア水を以て洗ひ、刺毛が残つてゐるときは抜き取る。  
毒蛇、家鼠などに咬まれたときは、先づ傷口の上部を紐で緊縛し、掌  
で毒物をしぼり出すか、または口を以て吸出し、焼火箸で傷口を焼  
く。狂犬に咬まれたときは、數ヶ月内に狂犬病を起すから、速かに  
豫防注射を施す。犬の咬傷は一應醫師の手當を受ける必要がある。

目 骨折・脱臼

③ 成るべくは整骨  
専門醫がよい。

骨折には折れた場合と龜裂を生じた場合とがある。そのいづれ  
かは大體のところ患肢が使へるか否かで判る。折れた場合は動  
搖せぬやうに副木して繃帯を施し、龜裂の場合は單に繃帯して直  
ちに医療を受ける。  
脱臼は關節がはづれるのであるから疼痛があり、患部が腫れて運  
動障碍を起す。これも骨折と同様に副木して繃帯を施し、直ちに  
医療を受ける。

四 火 傷

(A) 皮膚が赤色になつたものは冷罨法を施し、油類を塗り、ガーゼを  
以て覆ふ。  
(B) 皮膚に火ぶくれを生じたものは冷罨法を施し、漿液は消毒針を  
以て出し、ガーゼを當て、繃帯を施す。  
(C) 表皮が剥脱したときは、硼酸軟膏を塗り、ガーゼを當て、繃帯を

④ 火傷後直ちにピ  
クリン酸水を塗  
布すれば疼痛が  
起らない。



施し、醫療を受ける。

凍傷

2 凍傷の起るは何か。

(A) 局部凍傷 この豫防には皮膚を濡れたまゝ寒氣に曝らさぬやうにし、入浴後凍傷に罹り易い部分にアルコールカンフルチンキまたはベルツ水などを塗り、血行を良くするやうに心掛けるが最も肝要である。

軽度の凍傷には、入浴して局部を擦り、浴後に沃度チンキカンフルチンキなどを塗る。壞疽が出来たときは硼酸軟膏デルマトール軟膏などを塗つて繃帯を施す。

(B) 全身凍傷 長時間寒い大氣に曝され、運動しないで居るか、または疲勞睡眠不足空腹状態にあるときに起る。

全身凍傷に罹つたときは血行障礙を起し、皮膚は蒼白となり、知覺を失ひ、遂に假死状態に陥る。かやうな場合には急に火または湯

を以て温めず、全身を摩擦すると共に一方では人工呼吸を施し、感覺を回復し温かくなつたときは、漸次に室を温かくし、衣類を着せ、赤酒などの興奮劑を與へる。

溺没

溺没者を救助したときは先づ衣服を脱がせ、圖の如く胸部を低く俯伏せにし、背部を壓して肺部及び胃部の水を吐かせ、人工呼吸を行ふ。かうして呼吸を營むやうになつたときは赤酒などを與へ、身體を温める。



溺没者の水を吐かせる方

窒息

有毒瓦斯の爲窒息したとき、屋内ならば直ちに戸を開放し、全身を摩擦して刺戟を與へつゝ一方では人工呼吸を施す。復活したと



きは赤酒などを與へる。

感電

感電者を救助するときには自ら感電せぬやう、ゴム靴をはき、ゴム手袋をはめ、地上から絶縁して後、電線をはづさなければならぬ。

出血

(A) 外傷出血

(1) 毛細管からの出血 これは小傷から出るもので小出血に過ぎないから、自然のままに放置するか、または局所にガーゼを當て、置けば自然に止血する。

(2) 静脈出血 これは暗色を呈し、血の出かたが緩やかであるから、小出血は放置しても自然に凝固するが、大出血は傷口と心臓との間に傷口に近く、心臓には遠い部位を手拭などで強く縛る。しかし、多くは傷口の上面から壓迫繃帯を施す程度で止血する。

(3) 動脈出血 これは鮮血であつて、止血も稍困難であるから、絶對安靜にして心臓に近い部位を手拭などを以て緊縛し、醫療を受ける。

(B) 皮下出血 これは概ね自然に止血するが、冷罨法を施すのが最良の方法である。

(C) 鼻血 これは頭部を高く仰向に寝させ、脱脂綿を鼻孔に詰め、頸鼻に冷罨法を施す。鼻血は完全に止るまで拭うてはいけない。鼻血は往々大出血になることがある。

(D) 喀血、吐血 この場合は衣服を緩め、仰向に寝させて絶對安靜にし、喀血に對しては胸部に、吐血に對しては胃のあたりに冷罨法を施しつゝ、醫師を迎へる。喀出物は消毒しなければならぬ。喀血の場合には温かい飲食物を嚴禁する。吐血の場合には清水、氷の破片を少量に與へてもよいが、食物は醫師の命ずるまで絶つ。

① 傷口に汚物の附着する場合は、消毒ガーゼまたは消毒脱脂綿を以て拭うやうにし、直接に手指で觸れてはならない。また傷口の凝血は除いてはいけない。

② 救助者が地上から絶縁されて居れば竹や木の棒を以て電線をはづしてもよい。濡れたものは絶縁の効果が無い。

③ 毛細管から出る血は静脈出血と動脈出血との中間の色を呈してゐる。

④ 毛細管出血に各種の賣藥や軟膏類を塗布するときは、化膿して有害なことがある。



## ■ 卒 倒

これは原因に因つて手當も亦異なる。

(A) 腦貧血 これは多量出血、病後衰弱時の精神激動などに因つて起り、顔色が蒼白になつて卒倒する。そして人事不省になることがある。この病氣に對しては頭部を低くして仰向に寝させ、衣服を緩め、アンモニア、エーテルのやうな刺戟劑を鼻せ、赤酒<sup>①</sup>を與へるがよい。

(B) 腦充血 これに罹るときは顔色が赤くなつて卒倒し、脈搏は強けれども數は少いのが特徴である。この病氣に對しては頭部を高くし、絶對安靜を旨として仰向に寝させ、衣服を緩め、頭部や心臓部には冷罨法を施し、足部は溫め、醫師を迎へる。灌腸を施すのは良法である。

(C) 腦溢血 これは腦充血の重症で、腦血管が破れて血が溢出する

① 赤酒のなきときは綠茶。

のであつて、軀を發することが多い。この病氣は全身或は半身不隨意となり、言語は不明瞭になるが、経過がよいときは追々これらの症狀が消失する。手當は腦充血と同様である。但し、入院などの爲に動かせば溢血を多くし、助かる筈のものも助らないことになる。

(D) 腦震盪 これは頭部を強く打撲したときに起るもので、顔色が蒼白となつて卒倒し、甚だしきは人事不省に陥る。また鼻や口腔の出血を伴ふことがある。手當は衣服を緩め、頭部を高くして絶對安靜に仰向に寝させ、かつ頭部には冷罨法を施し、刺戟劑を鼻せ、覺めないときは人工呼吸を施しつゝ、一方では醫師を迎へる。

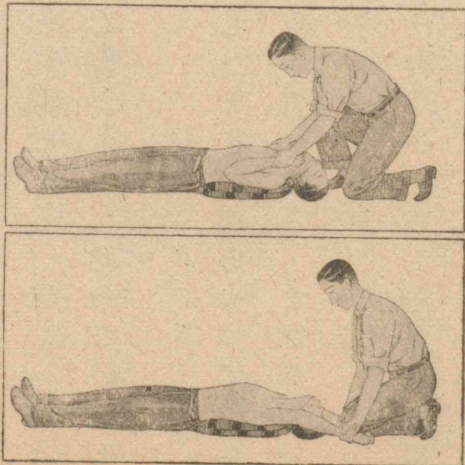
(E) 日射病 これは炎天下に長時間曝されて過勞と渴とを覺えたときに起るもので、顔色が赤くなつて遂には卒倒する。これに罹つたときは衣服を緩めて涼しい場所に移し、頭部を高くして安靜



に仰向に寝させ、頭部・胸部には冷罨法を施し冷水を與へ、醫師の來るのを待つ。人事不省に陥つたときは全身を摩擦し、覺めたとき冷水を與へる。

人工呼吸法

(1) 假死者を仰向に寝させ、(2) 軟かい枕を胸の背部に挿し入れて胸を張らせ、(3) 頭を稍下方に垂れさせ、(4) 兩脚を伸ばす。 (5) 舌は口外に引出し、布片で引込まぬやう括りつけておく。 (6) かうして施術者は頭の上の方に跪き、(7) その兩手首を持ち、兩臂を徐に力強く頭上に伸ばして胸廓を張り、(8) 息ひと吸ひの後、これを胸の兩側に徐に力強く屈げて胸廓を狭めるやうにし、息ひと吐きの時間を置く。この方法は幾回も繰返し、假死者が自ら呼吸し、顔に赤味を呈すれば、施術が効を奏したのである。



人工呼吸法

人工呼吸には相當の力を要するが、餘り暴力を加へると假死者の肋骨を折ることがあるから注意を要する。

人工呼吸は、長時間施した後に漸く効を奏することもあるから氣長に心をこめて行ふ。

異物

(A) 眼の中の異物 これは手を以て眼瞼を開き、暫く一方を凝視すれば涙と共に流れ出る。これで出ないときは眼瞼を裏返して取除き、なほ出ないときは顔面を清水の中に浸し、眼瞼を開閉し、後で硼酸水を點眼すればよい。何れにしても擦つてはならない。



昆虫の誘出法

(B) 耳の中の異物 耳の中に昆虫が飛込んだときは、暗い所で燈火を急に耳に照せば誘ひ出すことが出来る場合もある。もし

出ないときはオリブ油かグリセリンを耳の中にさせばよい。豆などは頭を横にし、その這入つた耳を下にして掌で叩けば出る。



⑩ 爪の伸びた指で  
撫さまはしては  
ならない。

【設問】

1 中毒に對する應  
急處置を問ふ。

(C) 咽喉の異物 餅や飴が咽喉に引かゝつたときは、直ちに二本の指を口中に入れて除くことが出来る。俯伏せにし背を叩いて吐出させてもよい。

【中 毒】

中毒は種々の原因から來るが、有毒物を嚥下したときは、醫師の來るを待たず直ちに、食鹽水・白湯・牛乳・卵白のいづれかを多量に吞ませ、俯伏せにして背を叩くか、または指先・羽毛・筆先などで咽喉を刺戟して吐出させる。既に腸に入つたものは、ヒマシ油などの下劑を多量に吞ませて排泄させる。いづれにしても速かに醫師を迎へなければならぬ。

【齒 痛】

齒痛は食物の殘滓がむし齒に入り、腐敗して起る場合があるからこれを除き、微温の硼酸または重曹水を以て屢含嗽し、冷罨法を施す。

2 齒の衛生につき述べてよ。

アスピリンの頓服も効果がある。

【急性胃腸カタル】

(A) 急性胃カタル これは胃部に壓迫膨滿の感があつて、胃痛を起す。手當は胃部を熱鹽熱蒟蒻などで温めると同時に、重症のときは成るべく内容物を吐出し、一日か二日間絶食し、軽いときは二三次回食事を止め、流動食から漸次通常食に移る。

(B) 急性腸カタル これに罹れば腹痛腹部の膨滿腹鳴りがあり、下痢を起して瘦る。本病は急性胃カタルを伴ふ場合が多い。手當としてはヒマシ油の如き下劑を頓服し、腸内容物を出し、胃カタルと同様に絶食療法を行ひ、腹部を温める。

【蟲様突起炎】

蟲様突起炎は盲腸に續く蟲様突起が炎症を起し、この爲右下腹部に劇痛が起り、



蟲様突起の位置



⑧ 胃腸カタルなどと考へて、腹部に温器法を施し、または下劑をかけるときは速かに重症に導く虞がある。腹部に劇痛のあるときは、本病または腹膜炎の疑があるから、下劑などを服用せず、直ちに醫師を迎へなければならぬ。

高熱を發する。病人の右下腹部を軽く壓するときは他の部分よりも固く、かつ特に痛みを感じる。この病氣の疑あるときは素人療治をやめ、時を移さず外科醫の診療を受けなければならぬ。時機を失すれば一命を失ふこともある。

第九課 傳染病

(一) 傳染病の種類と豫防

■ 傳染病の種類

⑨ 急性傳染病と慢性傳染病との區別は、傳染病が急激な経過をたどるものと否との區別である。

傳染病は病原體が人體を侵す爲に起る病氣で、その種類は甚だ多いが、大別すれば急性傳染病と慢性傳染病となる。急性傳染病中には傳播力が強く特に公安を害する爲、法令により嚴重に取締られるものと、それ程猛威を現はさない爲、個人各自の衛生に任されてゐるものがある。前者を法定傳染病といひ、後者を非法定傳染病といふ。また慢性傳染病中でも國民保健上特におそろしいものは法令を以て取締られてゐる。次に主要な傳染病を擧げて見よう。

急性傳染病

法定傳染病

腸チフス、バラチフス、發疹チフス、コレラ、赤痢、疫痢を含む、デフテリア、ペスト、猩紅熱、痘瘡、流行性腦脊髄膜炎など。

非法定傳染病

麻疹、風疹、百日咳、流行性感冒、嗜眠性腦炎、流行性耳下腺炎、再歸熱、マラリア、狂犬病、丹毒、飛火など。

慢性傳染病

特殊法定傳染病

肺結核、喉頭結核、癩、黴毒、淋病、慢性トラホームなど。

非法定傳染病

アミイバ赤痢、たむしなど。

■ 傳染病の傳染徑路と豫防

(A) 傳染の徑路と豫防 傳染病は左の如き徑路を辿る。

〔設問〕

1 我が國に多き急性傳染病と慢性傳染病とを擧げてその多き所以を説明せよ。



② 間接の接觸傳染とは、病人の使用した物を使用して傳染する場合などをいふ。

③ 稀には眼から浸入することもある。

- (1) 直接間接に病人の接觸する爲(接觸傳染)
  - (2) 病人の鼻汁・唾液・痰の飛沫や、空中に飛散してゐる病原體を吸収し、またはこれが皮膚に附着する爲(空氣傳染)
  - (3) 病原體の附着してゐる飲食物を飲食する爲(飲食物傳染)
  - (4) 土壤や不潔物に觸れる爲(寄生物體接觸傳染)
  - (5) 蚤・蚊・蠅・南京蟲鼠などが媒介する爲(媒介傳染)
- 以上の各場合に病原體が主に鼻孔・口腔・皮膚から體內に侵入して發病する。従つてこれに對抗する爲には平素から、臺所・庖廚具・食器などを清潔にし、用水・飲食物・手指などに衛生的の注意を拂ひ、空氣傳染の虞ある病人に接するとき、または空氣傳染病の流行時期に外出するときにはマスクを用ひ、傷口に對しては相當の保護を加へなければならぬ。媒介傳染の豫防には蠅・蚊・蚤・鼠などの如き傳染病媒介物を徹底的に驅除する必要がある。

2 平時に於ける傳染病豫防の心得を問ふ。

3 傳染病流行時期に於ける特別の心得を述べよ。

4 免疫方法とは何か。

④ 現在、免疫方法の行はれるのは腸チフス・バラチフス・赤痢・コレラ・デフテリア・痘瘡などである。

- (B) 病人の隔離 傳染病者は適當に隔離しなければならぬ。法定傳染病者は豫防上の必要に依り、傳染病院または隔離病室の設備ある普通の病院に入院せしめられる。隔離といふは單に室を別にして一般人と區別するばかりでなく、食器・衣類・便所なども一般人と混同しないことをいふのである。
- (C) 免疫の方法 ひと度或種の傳染病に罹つた者は、體內に自ら抗毒素が成生して、或期間または永久的にその病氣に對し、免疫性を得る。この事實に基づき、人爲的に一定の抗毒素を成生させて免疫性を得させる方法に、豫防注射・種痘・内用ワクチン服用がある。しかし、これらの免疫方法はあらゆる傳染病に行はれる譯ではない。
- (D) 抵抗力の増進 傳染病を豫防する根本的方法は、平素抵抗力を増進して置くことである。身體に抵抗力さへあれば病原體が



5 傳染病に對する最も根本的な抵抗力につき述べよ。

④ クレゾール水は薬品が沈澱するから使用の都度能く振らなければならぬ。

体内に侵入しても蕃殖が困難であつて、特に濃厚な病原體か悪性の病原體かが侵入しない限り、發病を抑へることが出来る。抵抗力を養ふには、暴飲、暴食を戒めて胃腸を健全にすると共に、夜ふかしをせず、適度の運動を行ひ、身體を鍛錬しなければならぬ。

### 目 消毒の方法

(A) 法定傳染病の消毒の方法 これには法令上、燒却消毒、蒸氣消毒、煮沸消毒、藥物消毒などがあり、物品に依り、この内適當な消毒方法が用ひられる。藥物消毒の主要なものは次の通りである。

(1) 石炭酸水 これは石炭酸三、水九七の割合を以てつくる。  
(2) クレゾール水<sup>④</sup> これはクレゾール石鹼三、水九七の割合を以てつくる。

(3) 昇汞水 これは昇汞一、食鹽一、水一、〇〇〇の割合を以てつくる。傳染病研究所の檢定に合格した代用消毒薬は、以上三種の消毒薬

と同様の效力がある。

(4) 石灰乳 これは使用の都度、煨性石灰一に水四を徐々に加へてかき交ぜ、粥狀にする。

(5) クロール石灰水 これはクロール石灰(即ち 晒粉)五、水九五の割合を石灰乳の例に依つてつくる。

(B) 一般消毒法 一般病原體の消毒法には法定傳染病のやうな制限がないから、以上列記した消毒方法の外に次のやうな方法を用ひてもよい。

(1) 藥品消毒 これには六〇%乃至七〇%の藥用アルコール、過酸化水素水、ホルマリン、瓦斯、ホルマリン水などを用ひる。

(2) 日光消毒 これは太陽の紫外線の殺菌力を利用するもので、晴天の日に四時間以上物品を表裏共に曝らす。

6 煮沸消毒に適するものと日光消毒に適するものとを區別し、數種を例示せよ。  
7 日光消毒の良き點を問ふ。  
8 燒却消毒に依るを適當とするものを例示せよ。  
9 消毒に關する各種藥品の特色を述べよ。

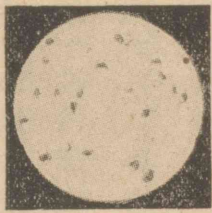


(二) 主な法定傳染病

腸チフス

(A) 傳染 これは患者や保菌者の大小便などに存する腸チフス菌が飲食物を介して口から入り、一週間乃至二週間の後發病する。

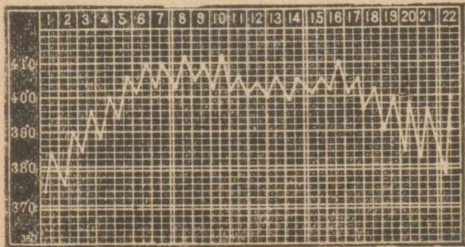
(B) 症狀 通例惡寒があつて後發熱し、約一週間で多くは四十度に達する。



腸チフス菌

かくて凡そ二週間はこの高熱を持續し、第四週の後になり、第五週になつて平熱に復し、やがて回復するのが標準的の経過である。

(C) 看護 病人に對しては心身を安靜にさせ



腸チフスの熱型

〔設問〕  
1 腸チフス看護上必要な心得について述べよ。

る。第二週の後から第三週にかけては腸出血の虞があるから、特に安靜を要する。但し、時々寝かたを變へ、「とこずれ」を防ぐ必要がある。高熱の時は頭部に氷罨法、胸腹部に冷水罨法を施す。本病にはアスピリン、アンチピリン、キニーネなどの解熱劑を用ひてはならない。食物は營養價の多いもので消化し易く、腸を刺戟しないものを與へる。但し、よく醫師の指圖を受けるがよい。

パラチフス

(A) 傳染 これはパラチフス菌が腸チフスと同様の徑路を以て體內に入り、約三日乃至六日の後發病する。

(B) 症狀 惡寒、戰慄の後發熱し、多くは熱に弛緩がある。

(C) 看護 これは腸チフスに準ずる。

發疹チフス

(A) 傳染 この病原體は未だ不明であるが、恐らくは毛蝨、頭蝨な



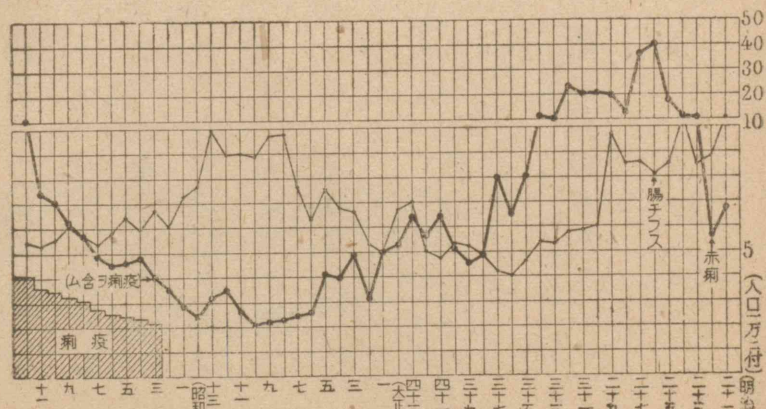
2 野菜及び井水を  
消毒するに適す  
る薬品を問ふ。

どに刺されて傳染するもので、十日乃至十四日間の潜伏期を経て發病する。  
(B) 症 狀 惡寒戰慄に次ぎ三十九度以上に發熱し、惡心、嘔吐、頭痛、腰部及び四肢の疼痛がある。脈搏數は増加し、結膜は充血し、精神朦朧となる。かうして發病後數日を経過すれば全身に紅疹を發し、第二週の終りから熱が下つて回復期に入る。

四 赤 痢

(A) 傳 染 これは患者や保菌者の大  
小便にある赤痢菌が飲食物を介し、口

(C) 看 護 これは腸チフスに準ずる。



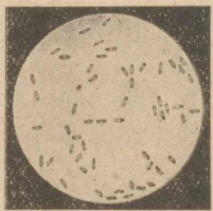
比較年累生發スフチ腸・痢赤

第一節 看 護 六〇

① 赤痢病も時として白米のとき汁様のものを下痢するやうになるのがある。これを白痢といふ。

に入つて發病する。

(B) 症 狀 潜伏期間は概ね二日乃至五日で、最初水様下痢があり、



赤痢菌

それが頻繁となるに連れて漸次血液と粘液とを混じ、血液の多いときは深紅色となる。一回の排便量は極めて少く、しぼり腹といつて、頻繁に便意を催すが、概ね二三週間の後に回復する。

(C) 看 護 醫師を迎へるまでに長時間を要するときは、下劑としてヒマシ油を與へる。身體は安靜にし、下腹部に溫罨法を施す。病人が強壯者ならば二三日絶食させるがよいが、虚弱者には流動食を與へる。かくて大便が常態に復してから、二三週間を経て通常食にする。

五 コレラ

(A) 傳 染 これはコレラ菌が赤痢同様の徑路で浸入し發病する。



3 腸チフス・赤痢・コレラ傳染の徑路及びこれが豫防上特に留意すべき點につきて述べよ。

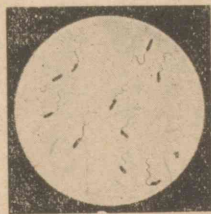
4 保菌者とは何ぞや。

③ コレラの死亡率は五十乃至六十%である。

5 デフテリアに對する心得を述べよ。

(B) 症 狀

潜伏期間は數時乃至三日で、最初は通常無痛の下痢が起り、嘔吐と共に病勢が進行し、体内の水分が減じて眼凹み、舌乾き、甚だしく口渴を訴へる。また脈搏は微弱となり、體温は著しく下る。腹部は陥没するが腹痛は起らない。回復期には嘔吐は止み、排便も漸次正常となる。



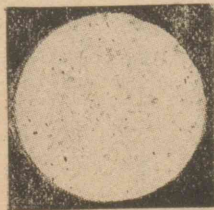
菌ラレコ

(C) 看 護 病人は絶対安靜にし、腹部に溫罨法を施し、流動食・番茶・麥湯・珈琲・葡萄酒などを熱くして與へる。

④ デフテリア

(A) 傳 染 これは小兒に多く、デフテリアの菌が患者や保菌者との接觸または飛沫吸入に因り、鼻孔や咽喉などを侵して發病する。

(B) 症 狀 潜伏期間は三日乃至七日で、最初頭



菌アリテフヂ

痛と、三十九度内外の發熱があつて、咽頭部には扁桃腺の周圍に灰白色の皮膜が出来る。もし喉頭部だけに發病したときはこの皮膜は出来ないで、聲嘎れ、犬の吠えるやうな咳嗽を發する。かくて病勢が進行すれば呼吸は困難になつて窒息する。また鼻孔が侵されるときはそれが特に赤くなるのに氣付く。

(C) 看 護 本病の疑があるときは直ちに醫療を受ける。時期を過ぎると醫師の施す血清注射も奏効しない。病人の衣類やその觸れた物は特に十分に消毒しなければならぬ。

⑤ 猩紅熱

(A) 傳 染 この病原體は今尙不明であるが、デフテリアと略同様の徑路で傳染する。傳染力は強大である。

(B) 症 狀 潜伏期間は四日乃至八日で、發病すると最初には戰慄が起り、頭痛や咽喉の痛みがあつて、四十度内外に發熱し、第二日に



腎臓炎を併發すれば尿量が減少し、顔面・脚などに先づ浮腫を生じ、チフテリアを併發すれば前項に述べたやうな症状を呈する。

④ 本病の初めは診断が困難である。

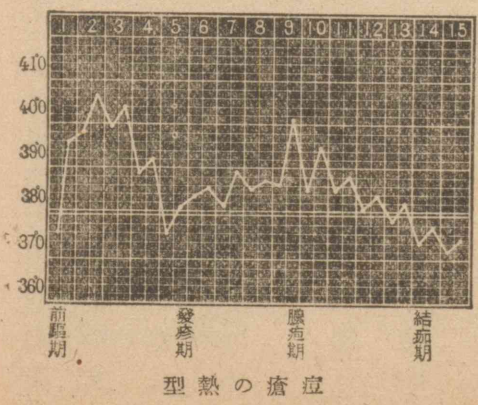
なつて全身に鮮紅色の斑點を生ずる。數日を経過すればこれが漸次消失し、熱は下る。経過中に腎臓炎やチフテリアを併發し易い。

(C) 看護 病室を温かくすると共に空氣の乾燥を防ぎ、發熱に對しては頭部及び心臟部に氷罨法を施す。

痘瘡 (天然痘または痘瘡)

(A) 傳染 この病原體は未だ確證されないが、微生物であることだけは明らかに、接觸傳染または空氣傳染である。

(B) 症状 潜伏期間は十日乃至十三日である。本病は重症の眞痘と輕症の假痘とに區別されてゐる。眞痘は惡寒・戰慄に次ぎ甚だしい腰痛・頭痛・嘔吐・めまひ



が起り三十九度乃至四十度の高熱を發し、この高熱は三日間續く。脈搏は多くなり、舌は乾く。發病後三日を経ると發疹し、紅斑が出來て、この中央に水泡を生じ、これが陥没して膿となる。假痘は第三日に僅かの發疹があつて熱は下る。

(C) 看護 病室は直射の光線を遮斷し、空氣の流通を良くし、病人は常に温め、皮膚には油脂類を塗る。食物は流動食とし、熱の下るに従ひ、易消化食に移る。

(三) 主な非法定傳染病

肺結核

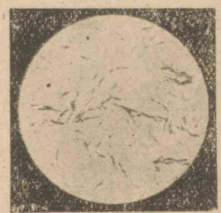
(A) 感染と發病 この病原體は結核菌であつて、結核患者の喀痰・咯血・糞尿などに存する。しかし、結核の感染は主として患者の喀痰の乾燥して飛散するものを吸收するか、または喉頭結核患者や肺

〔設問〕  
1 肺結核が國民病と謂はれるほどに國民の多數が冒されてゐるのは如何なる原因に基づくか。



2 肺結核は治癒し易き病氣なりといふに、年々死者の多きは何故か。

① 我が國一ヶ年の死者は十餘萬人である。



結核菌

結核患者が談話咳嗽くしゃみやみなどの際に飛散する「しぶき」を吸収するに因るのであつて、これらのうちに存する結核菌が通常口腔氣道を経て肺に達し、終に肺結核を發するのである。②

然るに子供時代既に結核に感染し、体内には或程度の結核菌が潜伏してゐる者も少くないのであつて、結核性素質を有するか、または過勞などの爲身體の抵抗力の弱つた者が不攝生をするときは、この菌は勢力を得て發病する。また濃厚な病毒の感染を受けたときにも發病する危険がある。従つて結核の豫防には成るべく感染の機會を少くすると共に、日常に攝生を守り、保健に留意するのが肝要である。

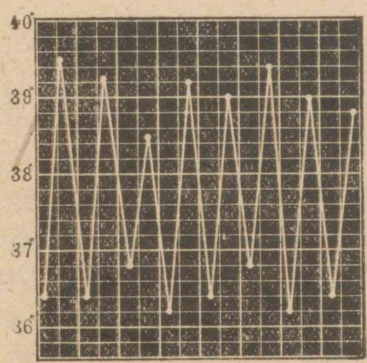


飛沫傳染

3 肺結核初期の徴候を述べよ。

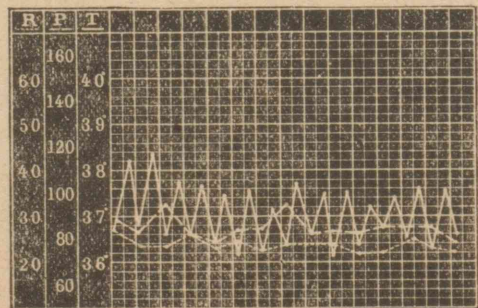
4 肺結核の發病豫防に關する注意事項を述べよ。

(B) 症狀 本病は初期には、食慾不振、全身倦怠、全身衰弱、寢汗などがあつて、多くは軽い咳嗽と微熱を伴ふ。そして病勢は徐々に進行し、喀痰、咯血のやうな胸部症狀を訴へる。しかし、病人が病氣を自覺しないうちに相當に進行してゐるときも稀ではなく、またときとしては病勢が速かに進行して高熱を發し、再起不可能になることもある。いづれにしても高熱を發する間は病勢が進行しつゝあることを物語るものと謂はなければならぬ。初期の結核は極めてなほり易いものである。これは他の病氣で死亡した者も解剖の結果全數



肺結核の急性進行性熱型

自覺しないうちに相當に進行してゐるときも稀ではなく、またときとしては病勢が速かに進行して高熱を發し、再起不可能になることもある。いづれにしても高熱を發する間は病勢が進行しつゝあることを物語るものと謂はなければならぬ。初期の結核は極めてなほり易いものである。これは他の病氣で死亡した者も解剖の結果全數



肺結核の潜伏進行性熱型



5 結核の療養法を問ふ。

の九十%以上は嘗て罹り、既に治つてゐる形跡が残つてゐるのを見ても明らかである。  
(C) 療養看護 療養の要訣は(1)胃腸を健全にして、十分な栄養をとること、(2)身體の安静を旨として攝生を守り、少しの無理もしないこと、(3)新鮮な空氣及び日光の恩恵に浴することである。しかし、有熱者は日光浴を行つてはならない。外氣療法は無風の日に戸障子や窓を開放するか、または戸外で行ふがよい。轉地療養は必要缺くことの出来ないものではない。

嗜眠性腦炎

6 非法定傳染病は人體に對し常に法定傳染病よりも危険の少ないものであるか。

(A) 傳染 此の病原體は微生物と考へられるが、未だ確認されないから、傳染の徑路についても定説がない。蚊の發生時に流行し、長く炎天下に身を曝らし、疲勞したときに發病することが多い。  
(B) 病 狀 發病狀態は最初に頭痛、めまひ、全身倦怠があつて概ね

三十九度から四十度に發熱し、遂に本病特有の嗜眠狀態に入り、後には筋肉が強直になる。

(C) 看護 此の病氣は身體を安靜にし、筋肉の強直に對しては溫罨法を施して弛緩を圖り、高熱のときは頭部に氷罨法を行ふ。

流行性感冒

7 流行性感冒に對する心得を述べよ。

(A) 傳染 此の病原體は未だ十分に確認されてゐないが、接觸傳染、空氣傳染に因つて發病する。

(B) 病 狀 本病の病型は數種あるが、最も定型的なものは二日乃至三日の潜伏期を経、惡寒・戰慄があつて三十八度から四十度の高熱を發する。これと同時に頭痛、全身倦怠、背痛、腰痛、關節痛などが起り、また嘔吐を催し、食慾の缺乏を來す。かくて四日から七日の後に解熱する。しかし時としては二三週間高熱を持續し、チフス類似の症狀を呈することがあり、また眼、鼻孔、咽喉、氣管、氣管支など



が侵されて、流涙、鼻の分泌物増加、扁桃腺腫脹、咳嗽、喀痰など、主として呼吸器カタルの症状を呈することなどもあり、更にまた四肢痛、關節痛が激甚で、ロイマチスに類する症状を呈することもある。本病は肺炎を併發する危険があるから、決して輕視してはならない。

肺炎を併發すると三十九度以上の高熱を發し、時々脈搏著しく増加し、呼吸困難となる。

この病症の特徴として、喀痰は多量で血を含むが、往々膿を含むこともある。老人、子供、虚弱者などは危険である。

(C) 看護 病人は空氣の流通、日光の射入が共に宜しき室に隔離して安靜にし、高熱に對しては冷罨法を、また呼吸器症状に對しては胸部、咽喉部に溫罨法、蒸氣吸入を施し、食物は易消化食を與へる。病人が使用した物品は消毒しなければならない。

この種の病氣にも成るべく速かに醫療を受け、素人療法は行はないがよい。

#### 四 トラホーム

(A) 傳染 これには急性と慢性とがある。病原體は未だ確認されてゐないが、一種の微生物が結膜の分泌物に含まれてゐるらしく、患者の使用した手拭洗面器などを使用するときは傳染することが多い。急性のものを放任して置けば、終には慢性となつて治療が困難になる。

(B) 症状 急性のものは充血して帶黄灰白色の繸粒を生じ、膿が出て羞明を感じる。慢性のものは涙の分泌が減じ、結膜や眼球は乾燥して「にがり」が出來、時としては潰瘍が出來て失明することさへある。

(C) 手當 これは度々硼酸水を以て冷罨法を施し、洗眼薬で洗つ

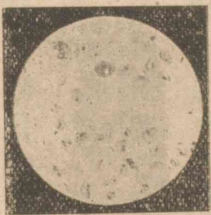


8 マラリア病は如何なる地方に發生し易いか。

9 ハマダラ蚊の特異點を擧げよ。

て清潔に保つ。早期に専門醫の治療を受けるときは治癒し易い

五 マラリア(りおこ)



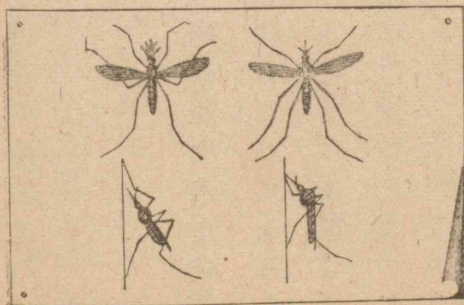
病原菌アリラマ

(A) 傳染 この病原體はマラリア、ブラズモヂウム原蟲であつて、これが患者の血液中に存しハマダラ蚊がその血を吸うて、次に健康者を刺した場合に傳染する。

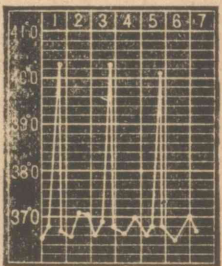
(B) 症 狀 潜伏期間は六日乃至二十一日

で、悪寒戰慄を以て發病し、次いで四十度から四十一度の高熱を發する。これは一概には謂はれないが、毎日乃至三日置き毎に定刻に至り發熱するのが通例で、發熱は二時間から五時間續き、發汗して解消する。

(C) 看護 病人は蚊帳に入らせて傳染を



(左 蚊ラダマハと(右 蚊の通普



型熱アリラマ

防ぐ。悪寒を催す際は身體を温かくし、熱い湯を飲ませる。本病の特効藥としては、鹽酸キノネを服用させるのであるが、醫師の指圖を受けるがよい。

第十課 家庭用藥品と看護用具

藥品

(A) 内用藥

(1) 解熱及び鎮痛藥 アスピリン……感冒の解熱、齒痛の鎮痛などに用ひる。服用量は成人は一回〇・五瓦、子供は半量以内。

(2) 下劑 ヒマシ油……服用量八歳以上は一回十五瓦―二十五瓦、二歳以上八歳未満五瓦―二十瓦。速かに便通をつける爲には成人は三十瓦を一度に服用してもよい。



① 薬用無水アルコール(酒精)は蒸溜水を以て六〇—七〇%に薄めて用ひるがよい。

(3) 灌腸薬 グリセリン

(4) 興奮劑 葡萄酒またはブランデー

(B) 外用薬

(1) 含嗽薬 洗眼薬 寒法薬 硼酸

(2) 火傷・腫物用薬 硼酸軟膏

(3) 傷創薬 齒痛薬 沃度チンキ

(4) 毒蟲用薬 刺戟用薬 アンモニア水

(C) 消毒薬 昇汞水 リゾール 石鹼薬用アルコール<sup>①</sup> 過酸化水素水

目 看護用具

(A) 灌腸洗腸器 イルリガートル 灌洗腸器 スポイト 灌腸器など

(B) 便器 硝子製丸形便器または金属性挿込便器 男子用及び女子用尿器

(C) 計量器 グラム秤 メートルガラス

(D) その他 検温器<sup>②</sup> 寒暖計 湯たんぼ ビンセットなど

目 看護用材料

繃帯 ガーゼ 沃度チンキ 沃度ホルム ガーゼ 脫脂綿 絆創膏 亞麻仁油 紙など。

② 検温器には棒型と平型とある。棒型は平型に比し高價である。



## 第二篇 養老

### 第一課 慰安

#### 老人の心事と慰安

① 敬老孝養の俗は家族制度に密接の関係がある。

老者を敬ひ、家族がこれに奉養の誠をつくすのは我が國古來の美德<sup>①</sup>であつて、養老の道の克く守られてゐる家庭はなごやかで、ゆかしく感ぜられる。高齡になれば舊友や知己の多くはこの世を去り、身體は不自由になつて社會の第一線から遠ざかる爲に、日々世事には疎<sup>こ</sup>くなり、世の淋しさを感じ勝である。それ故家庭上のことには心配事は別として、老人を重んじ、敬愛の誠を以て仕へなければならぬ。老人は兎角、子や孫の爲すことを心許<sup>こ</sup>なく思ふものであるから、謂ふことに迂遠なことを、間違のことがあつても少し

も反抗することなく、心を休めるやうに心掛けるがよい。世間には老人に職業上のことや家計上のことを聞かせまいとして、一切祕密主義をとる者もあるが、これは老人をして疎<sup>こ</sup>んぜられるやうな感を起させる場合もあり、さなくとも却つて心配を増すやうな場合もあるから、特に心配をかけるやうなことは別としても、成るべく祕密主義を廢するがよい。

#### 慰安の方法

活動場裡から隱退した老人は終日無聊に苦しむものであるから、暇ある毎に新聞雜誌を讀み聞かせ、世間話を爲し、その日の出來事を語り、また老人の趣味嗜好に應じた娛樂をさせるやうにするがよい。そして夕食後など家族一同が打集うて歡談<sup>②</sup>するときは老人を中心にするやうにありたい。

〔設問〕  
老人に最も適する慰安法を問ふ。

② 老人は過去のことを語り勝になるから、家族はその心事を解して置かなければならない。



第二課 身體の保護

日常生活

〔設問〕

1 老人の衣服地は如何なるものを選びべきか。

(A) 老人の保護 老人は身體の諸機能が衰へてゐるので、一旦病氣に罹れば回復は容易のことでないから、特別に保護しなければならぬ。

(B) 衣服 これは成るべく軽くして軟かな物を選ばなければならぬ。老人は身體が冷え勝であるから、壯者の着るものよりも温かにし、特に肌着は洗濯に堪へるものを選んで度々洗濯し、清潔にして少しでも皮膚の新陳代謝を助けるよがい。頭巾襟卷などはその好みに任せて供するがよい。

(C) 飲食物 老年になると生理的に蛋白質の需要も減じてゐるし、また一般に消化吸収力が衰へてゐるから、副食物は消化し易い野菜類を主にして蛋白質を少量にし、しかも鳥獸肉のやうにエキス

2 老人の飲食物に關する心得を問ふ。

分多くして刺戟の強いものよりも、魚肉豆類の如きものを選ぶがよい。

茶・コーヒー・酒類は大體嗜好に任せる外はないが、老人は腎臟が幾分か萎縮し、また動脈が硬化して不眠性に襲はれ勝であるから、刺戟性の強い飲料を多量に供するのは宜しくない。殊に動脈硬化に對して酒類は有害であるから、老人自らこれを差控へるやうに仕向けるがよい。

(D) 部屋 隱居部屋を設ける場合は閑靜で、夏涼しく冬暖かい南向の所を選定するがよい。老人は身體が不自由であるに加へて排尿の度數が多いから、便所は近いところが望ましい。

(E) 運動 老人も消極的の攝生ばかりしてゐると、少しのことでも感冒に罹つたり、胃腸を害ふやうになるから、成るべくラヂオ體操

3 老人の部屋に關する注意を問ふ。

4 老人に適する運動を舉げよ。



5 老人の入浴の影  
響につきて述べ  
よ。

のやうな運動や、神社佛閣の参拜、園藝など老人にふさはしい運動をすゝめるがよい。  
(F) 入浴 入浴は運動と同じやうに、新陳代謝を促進する効果もあるから怠らないがよい。しかし、熱い湯や長湯は血圧を高めるから宜しくない。  
(G) 睡眠 老人は朝早く目醒め、睡眠が不足勝になるが、身體が温まれば熟睡出来るものであるから、就寝の際は夜具を温かにし、冬季は湯たんぽを入れるがよい。

老人病

6 老人の罹り易き  
病氣とこれに對  
する看護上の心  
得を述べよ。

老人に多い病氣は萎縮腎と動脈硬化症とである。萎縮腎に罹れば尿量が増加し、時としては全身に浮腫を生ずることがあり、動脈硬化症に罹れば血圧が亢進して、腦溢血を起す危険がある。従つて老人を獨居させて看護の手から離すのは良くないことである。

第三篇 育兒

第一課 妊 娠

妊娠の徴候と身體の變化

○ 妊娠期間は一箇  
月を二十八日と  
し、十箇月(四  
十週)とされて  
ゐる。

- (A) 身體上の變化 妊娠すると身體上に種々な變化が起る。
- (1) 月經の閉止 月經は一般に妊娠した翌月から閉止する。
- (2) つはり 二三箇月頃から食物の嗜好に變化を來して食慾が減じ、屢嘔氣を催すことがある。これは妊娠に伴ふ一つの生理的現象であるが、稀にはその症狀が激しく、かつ長期に亘ることもあるから、かうした場合は一應醫師の診察を受けるがよい。
- (3) 乳房の肥大 四箇月頃から乳房が次第に肥大し、乳暈は黒色を呈する。



- (4) 胎 動 次いで五箇月頃になれば體內で始めて胎兒の運動を感ずるやうになる。これを胎動といふ。
- (5) その他 『めまひ』便秘腰痛心悸亢進などを起し易く、妊娠の末期には四肢に甚だしい浮腫の現はれることがある。これは普通、妊娠の爲に起る現象であるが、時として恐ろしい病氣から來ることもあるから、一應醫師の診察を受けるがよい。
- (B) 精神上の變化 妊娠中はやゝもすれば神経質となり、物事に感じ易く、また沈鬱となることが多い。

【設問】

1 妊娠中の攝生法を簡単に述べよ。

(A) 衣 服 妊娠中は身體を冷さぬやうにし、夏期に於てもこの注意が必要である。衣服は保温性に富んだものを窮屈でないやうに用ひ、帶その他で身體を強く締めつけてはならない。五箇月頃から岩田帶と稱して普通晒木綿を二つ折にした腹帶を巻くが、こ

れは腹部を冷さず、胎兒の位置を正しく保つ爲である。

(B) 食 物 妊娠中の食物は母體の健康の爲にも、胎兒發育の爲にも重大な關係を有するものであるから特に注意し、榮養に富んだ食物を食べなければならぬ。しかし、蛋白質や脂肪分の攝り方が餘り過剰になるのは宜しくない。殊に肉類などのやうに蛋白質の多い食物を食べすぎると却つて腎臓炎などを起す惧がある。そして無機質は骨齒血をつくり、ビタミンA・Dは疾病に對する抵抗力を増し、同じくBは脚氣を防ぎ、同じくEは分娩を容易にし、乳汁の分泌を良くする爲に必要なものであるから、何れも缺けることのないやう、これらを十分に含む食物を攝ることが肝要である。また酒類その他興奮及び刺激性のものはよくない。

妊婦の食慾は胎兒の發育と並行して増進し、食物の分量も自ら増加すべき理である。そして特に五六箇月頃より胎兒の體量は著

② 妊娠中には疾病に對する抵抗力の減ずる傾向があり、またよく脚氣に罹る。

③ 磷・カルシウムは小魚や穀類に、鐵・銅は青野菜・肝臓に、ビタミンA・Dは鰵・鱈に、Bは胚芽米・半搗米・豆類に、Eは青野菜に多く含まれてゐる。



① 下劑を用ひるときは流産・早産の惧があるから、成るべく飲食物に依つて便通を整へるやうにするがよい。

しく増大するから、この頃からは自然相當多量に食べるやうになるが、若し食欲が不振の場合でも努めて食べるやうに心掛けなければならぬ。なほ妊娠中は便秘がちとなるから、野菜その他纖維質の食物を食べて調節するがよく、また適當の分量の水を飲むのもよい。

(C) 起居運動 妊娠中は生活を一層規則正しくし、軽い運動は努めて行ひ、運動不足を避け、健康に注意する。但し、階段の昇降は靜かになし、激しく揺れる乗物などは成るべく避け、長途の旅行は醫師と相談するがよい。

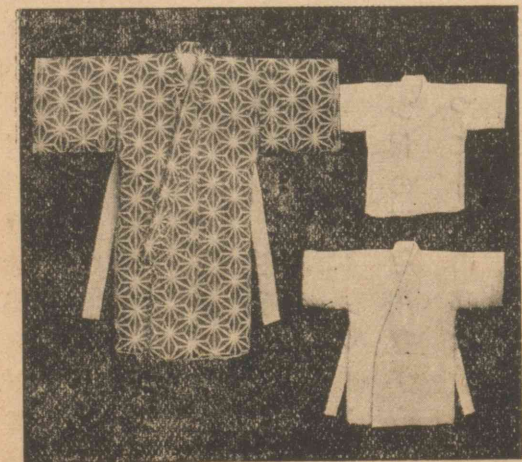
入浴は適度にこれを行ひ、身體各部の清潔を保ち、睡眠は十分とつて過勞しないやうにすることが大切である。

(D) 妊娠中の病氣 妊娠中やゝもすると罹り易い病氣は、腎臟の機能障害や脚氣などである。腎臟の機能障害は主として胎兒發育の爲にこれを壓迫することによつて起り、徴候としては顔手足に軽い浮腫を生ずる。脚氣はビタミンB<sub>1</sub>の不足によつて起り、浮腫を生じ、倦怠を覺える。何れも前述の如く食物に注意しなほ適當な手當をする。

### 第二課 分娩

#### ■ 分娩の準備

胎動を感ずるやうになれば時々産科醫・産婆につき診察を受けるやうにし、産期が近づけばその指示に依り生れ来る兒の衣服・寢具・「むつき」を始め、出産の時に必要な材料や藥品類を洩れなく準備し



衣 履

【設問】  
1 分娩時に如何なる準備が必要か。  
① 油紙(大一枚・中三枚・小二枚)・脱脂綿(十二枚)・入包三―五個・ガーゼ(一―二反)・晒木綿(一反)・普通綿(一―二反)・胞衣容器・麻・挿込便器



・柳行李・灌腸器  
など。

③ ガーゼ・脱脂綿・  
油紙・石鹼・リ  
ゾール水・オリ  
ブ油・デルマ  
トール・亜鉛華  
澱粉など。

出生時の體重  
及び身長  
體重 身長  
男子 三〇〇瓦 四九〇ワ  
女子 二五五瓦 四八〇五種

なければならぬ。これらの必要な器具材料は餘裕を以て整へ、  
何れも嚴重に消毒する。また産室に充てるべき部屋も豫め選定  
して置くことが必要で、これは日當りの良い静かな部屋がよい。

### 分娩の経過

産期が切迫すると、時をおき腹痛を感じる、これを陣痛といふ。こ  
れは出産の前兆であるから直ちに落着いて産褥に入り、醫師もし  
くは産婆を迎へ、一方出産用具を整備し、多量の湯を用意する。陣  
痛は次第にその間隔が短く、かつ強くなつて、分娩の際は最高潮に  
達する。陣痛を感じてから分娩までは、初産にあつては通常十三  
四時間、経産にあつては七八時間、時として二三時間のこともある  
が、産婦は安らかに産褥に臥して、冷靜に忍耐強く経過を俟つこと  
が大切である。

分娩後間もなく再び陣痛があつて胎盤が排出される。これを後

産といふ。

### 産後の攝生

産後の攝生は極めて大切であつて、攝生を誤るときは種々な疾病  
を起し、或は終生不治の病に罹り、一命を失ふことも稀でない。

(A) 安 靜 分娩後は著しく疲勞するものであるから、部屋を薄暗  
くして四邊を靜かにし、或るべく熟睡させる。産後二三日間授乳  
時以外は安靜に寝るやうにし、第二週に入れば食事・授乳・用便など  
の際は床上に座してもよい。二週間を無事に経過すれば少しづ  
つ床を離れ、三週間を経れば始めて簡単な室内の用事をしてもし  
よい。但し、日常の仕事をするのは六七週間を経過しなければなら  
ない。この期間を産褥期といふ。

(B) 食 物 食物は初め一兩日間牛乳・重湯・葛湯・スープ・果汁などを  
與へ、漸次に粥・半熟卵・軟かく煮た「うどん」にし、一週間もすれば消化

2 産後の食養生に  
就いて述べよ。



① 出産直後に餅を食べたり、脂肪の多い魚や肉を食べることがよくない。

のよい通常食にかへつてもよい。但し、脂肪の多い魚肉類は差控へなければならぬ。

(C) 便 通 産後は兎角便秘を起し易いものであるから、適當な食物によつて加減し、必要に應じ灌腸を行ふがよい。

(D) 清 潔 最も恐ろしい産褥熱は、出産用具や局部に當てる物などの消毒不完全、その他の不潔が原因となつて、傷の部分より病原菌が侵入して起るのであるから、これらは必ず完全に消毒した物を用ひ、またこれを取扱ふときは、手や指を百倍のリゾール水などで十分に消毒しなければならぬ。入浴は三週間以後とする。

### 第三課 乳 兒 の 養 護

#### ■ 初生兒の養護

##### (A) 初生兒の注意

胎兒が母體中にある間は、臍帶へいせいたいによつて母體か

① 生れてから離乳を移へる頃まで即ち満一歳頃までを乳兒といひ、この内生後三四週間までを特に初生兒といふ。

#### 【設問】

1 初生兒の取扱上の注意を述べよ。

ら栄養物を攝り、適温の羊水しきよのうのなかのみづの中にあるが、母體を離れると同時に外氣を呼吸し、自ら食物を求めてこれを消化し、また排泄作用を營むなど生活状態が一變する。しかも諸器官は未だ十分に發育せず、抵抗力も甚だ弱く、最初の一二週間は初生兒にとつて最も大切な時期であるから、周到な注意を以て養護に當らなければならぬ。

(B) 臍 帶 臍帶は産婆の手によつて、出産後間もなく搏動の止んだとき、注意深く切斷されるのであるが、この部より種々な恐るべき病原菌が入ることもあるから、残つた部には適當な消毒劑、例へばデルマトールなどを振りかけ、ガーゼまたは脱脂綿を當て、更に繃帶を施すのであるが、その脱落后も暫らくこのやうに處置するがよい。

##### (C) 沐 浴

② 沐浴には普通居室間を使用する。



(1) 温度と時間 沐浴は湯の分量を豊富にし、成るべく日中暖い時に約十分間で浴せ終るやうにする。湯の温度は三十八九度にす  
 るがよい。これは手を入れて(肘で見るともよい) 僅かに暖かさを覚える程度である。沐浴中は湯の冷えぬやうに少しづつ差し湯をする。赤  
 兒は過度の發汗をなすばかりか、尿管(しん)などで汚れるものであるか  
 ら、夏季には一日二回、その他は一日一回づつ沐浴させるがよい。

(2) 浴せ方 沐浴の際は赤兒を乾いたタオルに包み(肌着のまま入るもよい)、左手

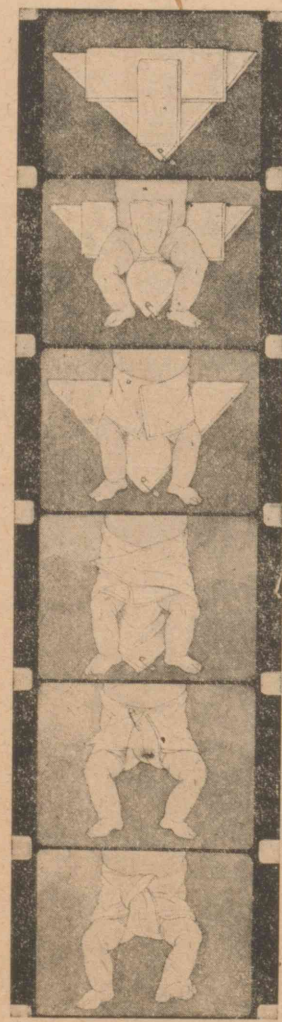


方 せ 浴

を後に廻して頭を支へ、耳に水が入らぬやう指で耳を押へ、靜かに湯に入れる。良質の石鹼で身體各部、特に頸、關節、股など爛れ易い部分をよく洗ひ、別に口及び眼は清潔な湯で洗ふ。

(D) 衣服 これは常に清潔なものを着用させ、肌着は毎日取替へるやうにし、日光消毒の出来るものは必ずこれを行ふ。衣服の材料は木綿が一番適當で、作り方は稍大きめにし、手足をよく被ふことが出来るやうにし、肌着は總べて縫目を表にして着せる。

(E) むつき これは肌着と同様に軟かい綿布がよく、毛織物は污垢



方て當の『きつむ』



の吸着性に乏しく、かつ刺戟があるから適當でない。運動を妨げぬやう、しかも外れぬやうに當て、濕つたときは直ちに取替へなければならぬ。

(F) 便 通 初生兒は最初二三日間胎便といつて、黒色または暗綠色の粘便を排泄するから、脱脂綿を當てたその上から「むつき」を施すがよい。

生れて四五日経てば普通便になる。これは無臭で鮮黄色を呈し、一日二三回排出する。人工榮養の便は淡黄を呈し、一日一回が普通である。もし便に臭氣があつて綠色を帯び、泡を交へて水分が多いか、または白色の粒や粘液を混じてゐれば健康に異状がある。

(G) 睡 眠 初生兒は授乳や「むつき」取替の時に目を醒すだけで、晝夜の別なく眠り續けるものである。安眠しないのは、病氣の徴候である。と心得なければならぬ。

(H) 體 温 生後三四日目には「饑餓熱」といつて、三十八度内外に發熱することがある。この際は薄い砂糖水を一二時間おきに茶匙二、三杯づつ與へると下る。生後三四週間を経過すれば、體温は三十七度以下になるのが普通である。

(I) 泣 聲 初生兒は高聲で泣くものであつて、その低いのは「虚弱」かまたは病氣の爲である。乳兒は生理的に能く泣くものであるが、また何か原因があつて泣くこともある。(1)生理的に泣くときは顔を赤くし、強く泣くかと思へばまた止める。(2)眠くなつて泣くときは眼を細くし、うるみ勝て「あくび」を交へながら泣き、(3)空腹のときは眼を開き、唇を動かしながら、節のある聲で涙を出さず、悲しげに泣き、(4)退屈したときは眼を開き、頭を動かして、手足を踏張りながら泣き、(5)腹痛のときは眼を開き、涙を浮べ、節のある刺すやうな高聲で、兩脚を縮めながら泣くものである。

呼吸

乳兒の睡眠時間は、生後一週間は、生後二週間は二十時間、三週間は二十二時間、四週間は二十一時間、二ヶ月乃至三ヶ月は二十時間、四ヶ月乃至六ヶ月は十八時間を要する。

2 初生兒の泣聲について述べてよ。



(J) 抱き方 背負ひ方 寝せ方 (1) 抱き方は、抱く人の兩手を以て體を支へ、胸や腹を壓さぬやうにし、(2) 背負ひ方は、胸や腹を壓さぬやうにして、臀を支へ、(3) 寝せ方は、仰向きにして全身の運動を自由にする。

(K) 運動のさせ方 這はない間は、衣服をゆるやかにして四肢の運動を自由に、這ふやうになれば長袖の衣服な



の上(適) 當(な) もの  
 (中) 過(ぎ) もる  
 (下) 低(ぎ) もる

枕の高さ



良き背負ひ方

悪き背負ひ方

良き抱き方

悪き抱き方

どを用ひず、自由輕快に動き得るやうにすると共に、床上を清潔にして危険物を取除き、椽側などから墜落しないやうに注意しなければならぬ。  
 夏には日光の直射を避け、裸にして數時間自由に遊ばせるがよい。風の當るのも嫌ふやうな育て方は、却つて乳兒の抵抗力を弱くする。

乳兒の發育

(A) 乳兒期 これは通常生れてから、離乳を終へる頃までの約一箇年間をいふ。

(B) 身長體重から見た發育 出生當時の身長は平均五十糎内外で、これが一箇年後には約五割増して平均七十五糎内外となる。また出生當時の體重は平均男兒約三疋、女兒約二・八疋であつて、生後これが三四日は一時的に減じ、十日目位に出生當時の重量に戻

3 乳兒期とはどの期間を指すか。

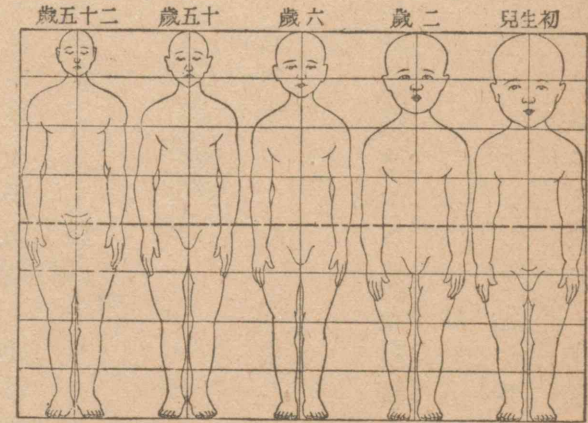


本邦兒童發育表 (醫學博士三島通良氏調査による)

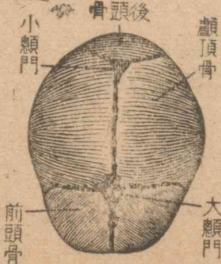
年齢	男			女		
	體重 (kg)	身長 (cm)	胸圍 (cm)	體重 (kg)	身長 (cm)	胸圍 (cm)
初生兒	3.04	49.1	32.4	2.87	48.7	32.3
1 週	3.04	50.6	33.5	2.86	50.2	33.3
2 週	3.30	52.2	34.4	3.20	51.7	33.6
3 週	3.65	54.2	35.2	3.50	53.5	35.0
1 月	4.07	56.5	36.3	3.80	55.5	36.0
2 月	4.82	59.0	38.6	4.60	58.3	38.4
3 月	5.47	60.7	39.6	5.31	59.6	38.6
4 月	6.05	61.8	41.3	5.77	60.8	40.2
5 月	6.59	63.0	41.9	6.18	62.6	41.1
6 月	7.07	64.3	42.5	6.50	63.9	41.6
7 月	7.50	65.7	43.0	7.06	65.3	42.0
8 月	7.88	67.2	43.5	7.30	67.0	42.3
9 月	8.21	68.8	44.0	7.77	68.4	42.9
10 月	8.49	70.4	44.3	8.06	69.8	43.3
11 月	8.74	72.2	44.9	8.35	71.7	43.8
12 月	9.00	73.5	45.7	8.50	72.9	44.4
2 年	10.80	79.5	46.8	9.90	78.9	46.2
3 年	12.40	85.4	48.1	11.50	84.9	47.2
4 年	13.70	91.7	49.5	12.90	91.0	48.6
5 年	15.20	97.4	50.5	14.50	96.5	49.8
6 年	16.50	102.8	52.7	16.00	102.4	51.9
7 年	17.80	108.3	54.1	17.20	107.3	53.0
8 年	19.10	113.8	55.5	18.70	112.0	54.0
9 年	21.00	118.8	57.2	20.50	116.2	56.1
10 年	23.00	122.8	59.2	22.30	120.4	58.0
11 年	25.00	127.0	61.4	24.40	125.9	60.2
12 年	27.20	130.8	63.1	27.80	132.3	62.5
13 年	29.80	135.2	64.9	31.40	139.0	65.0
14 年	33.60	141.5	66.9	36.50	143.2	67.7
15 年	38.70	146.3	69.1	38.20	144.7	71.9

④ 育兒日誌をつくと、身長・體重・言語・動作・病氣などを記し置くときは、後日の思出になりまた後から生れる兒の爲にもよき参考となる

の三を占め、臍が體の中央部に當るが、成人の頭は身長の一、下肢は八分の一、下肢は二分の一を占めてゐる。その他後頭にある小顛門は約六週間で閉鎖するが、前頭部に



(るよに氏クツラトニシ) 較比の分部各體身のと供子と人成



部頭の兒乳

り、以後は一日に二十乃至三十瓦づつ増加して、五箇月後には出生當時の二倍となり、一箇年後には三倍となる。④ その他の發育 乳兒の身體各部の割合は成人と異なり、特に著しい點は頭部が大きく、四肢の短いことである。即ち上圖の如く、初生兒の頭は身長の一、四肢は八分の一、下肢は二分の一を占めてゐる。



一 箇 月



三 箇 月



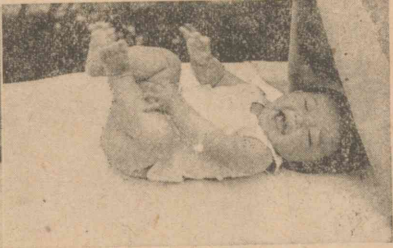
ある大頤門は閉鎖に一箇年半を要する。  
(D) 一箇年間の發育順序

一 箇 月 體 重 {男 四・〇七磅  
女 三・八〇"} 身 長 {男 五六・五釐  
女 五五・五"}  
手を握り、腕をまげてゐる。眼は明るい方へ向ける  
が見えない。頭がすわらず抱き上げるとぐらく  
する。

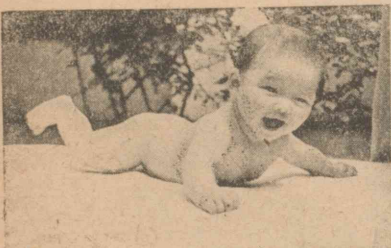
二 箇 月 體 重 {男 四・八二磅  
女 四・六〇"} 身 長 {男 五九・〇釐  
女 五八・三"}  
手指を口の方へ持つてゆくやうになる。眼も見え、  
耳も聞えるやうになり笑ひ始める。

三 箇 月 體 重 {男 五・四七磅  
女 五・三一"} 身 長 {男 六〇・七釐  
女 五九・六"}  
手の運動が活潑になり、玩具などを出せば掴まうと  
する。何か分らないことをいふ。

五 箇 月



七 箇 月



四 箇 月 體 重 {男 六・〇五磅  
女 五・七七"} 身 長 {男 六一・八釐  
女 六〇・八"}  
首はすわつてしつかりして来る。手を伸ばして物  
を取らうとし、寝返りをするやうになる。

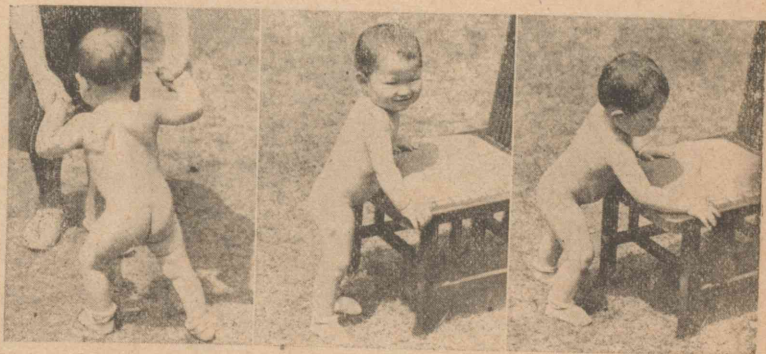
五 箇 月 體 重 {男 六・五九磅  
女 六・一八"} 身 長 {男 六三・〇釐  
女 六二・六"}  
聲を出して笑ふやうになり、音がするとその方へ首  
を向けるやうになる。

六 箇 月 體 重 {男 七・〇七磅  
女 六・五〇"} 身 長 {男 六四・三釐  
女 六三・九"}  
手足を自由に動かすが、まだひとりで坐れない。人  
聲をまね、片言をいふ。物を意識し、見分けるやうに  
なる。

七 箇 月 體 重 {男 七・五〇磅  
女 七・〇六"} 身 長 {男 六五・七釐  
女 六五・三"}  
人見知りをするやうになる。寝返りも、坐ることも  
自由に出来る。



月 箇 九 ← 月 箇 十



八 箇 月 體 重 男 七・八八 趾 女 七・三〇 身長 男 六七・二 糧 女 六七・〇 〃

這ひくゝを始める。齒が生え始め、言語は稍明瞭になる。

九 箇 月 體 重 男 八・二一 趾 女 七・七七 身長 男 六八・八 糧 女 六八・四 〃

後ずさりをし、物につかまつて立たうとする。

十 箇 月 體 重 男 八・四九 趾 女 八・〇六 身長 男 七〇・四 糧 女 六九・八 〃

物につかまれば歩くやうになり、玩具などを壊すやうになる。

十一 箇 月 體 重 男 八・七四 趾 女 八・三五 身長 男 七二・二 糧 女 七一・七 〃

ひとりて立つやうになり、人の顔や聲を覚える。

年 箇 一 滿



十二 箇 月 體 重 男 九・〇〇 趾 女 八・五〇 身長 男 七三・五 糧 女 七二・九 〃

歩き始める。言葉の意味も解し、ものの名前をいふ。齒は上下二本位づつ生える。

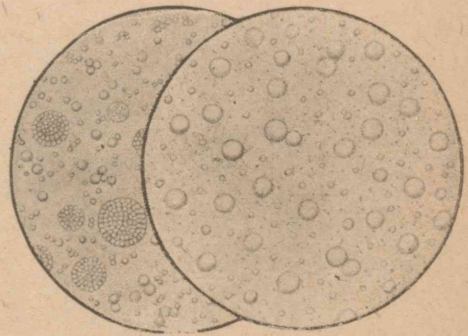
第四課 乳 兒 の 榮 養

■ 母 乳 榮 養

(A) 母 乳 の 成 分 ① 乳 兒 の 榮 養 品 は 母 乳 ほ ど 良 い も の は な い 。 母 乳 には (a) 乳 兒 に 必 要 な 各 種 の 榮 養 素 が 適 當 な 割 合 に 、 か つ 最 も 消 化 吸 收 の よ い 状 態 で 含 ま れ て る ば 可 り か (b) こ れ は 乳 兒 の 發 育 に 伴 っ て 自 然 に 變 化 し 、 (c) ま た 母 體 の 抗 毒 素 が 乳 汁 を 通 して 移 行 す る 爲 、 乳 兒 は 傳 染 病 に 對 す る 抵 抗 力 を 高 め 、 (d) し か も 乳 房 よ り 直 接 哺 乳 さ せ る の で あ る か ら 、 溫 度 も 適 當 で ま た 新 鮮 清 淨 で あ る 。

① 人 乳 の 組 成  
水 分 八 七 五 %  
蛋 白 質 一 五 %  
脂 肪 三 七 %  
乳 糖 七 六 %  
無 檢 質 〇 二 六 %  
産 後 一 週 間 位 ま で を 初 乳 と い っ て 粘 つ こ い が 、 次 第 に 變 つ て そ の 後 に 見 る や う な 成 熟 乳 と な る 。  
初 乳 は 初 乳 球 を 含 む 爲 、 乳 兒 の 下 痢 を 促 し 胎 便 の 排 出 に 役 立 つ 。





成人乳の鏡檢圖 初乳

(B) 授乳回数 授乳の回数は乳兒の發育に伴つて次第に變化すべきであるが、その時期に應じて授乳の回数と間隔を定め、泣く兒に乳といふ習慣はこれを改め、規則的に行ふことが必要である。



母乳の消化する状態

〔設問〕

1 授乳の回数と時間の定め方を述べよ。

③ 夜間睡眠中は身體諸器官の働きが緩慢であるから食物の必要もないのである。母の休息の爲夜間授乳せぬことが必要である。

授乳回数は大體生後二週間は三時間置きに七回、第三週以後三箇月は三時間半置きに六回、四箇月―六箇月以降は四時間置きに五回を標準とし、五箇月以後は夜十時から朝六時までには授乳しないがよい。

(C) 授乳時間 一回の授乳時間は乳の出方、乳兒の吸

2 授乳して悪いのは如何なる場合であるか。

3 乳母選定上の注意について述べよ。

ひ方などによつて異なるが大體乳兒が満足して乳房を離すのを限度とすればよい。普通十五分乃至二十分が適度であつて、飲んで直ぐ吐くやうな時は飲み過ぎのことが多いから量を加減する。

(D) 授乳上よくない病氣 母體が急性傳染病、重症の腎臟病、糖尿病、心臓病、高度の貧血症、脚氣、衰弱、結核、精神病などのときは、たとへ母乳の分泌があるにしても、授乳を禁じ、乳母を備入れるか、または人工榮養を行はなければならぬ。

(E) 乳母の選定 乳母を備入れるときは、その精神及び身體の兩方面に注意し、併せてその生活状態をも考慮しなければならぬ。身體的の條件としては、強健なこと、乳汁分泌の十分なこと、乳母の性格が善良なことなどである。就中最も重要なのは健康の點であるから、醫師の身體検査を受けさせ、急性傳染病、結核性疾患、皮膚病、傳染性眼疾、微毒、貧血症、心臓病、腎臟病、糖尿病に罹つてゐる者や



4 哺乳上の注意を述べよ。

傳染病保菌者などは避けなければならぬ。そして年齢は二十歳から三十歳位までの人がよい。

(F) 哺乳上の注意 乳兒が安らかに飲み得るやう、靜かな場所へへるがよい。乳房は常に清潔を保ち、哺乳の前後には微温湯で清



乳の飲みませ方



搾乳器

め、座つて乳兒を膝に載せ、圖の如く乳房を手で支へ、鼻孔を塞がぬやうにし、出過ぎるときは調節してやる。

房に移らせる。飲み残したときは人に吸はせるか、搾乳器で搾りとする。さもないと次第に乳汁の分泌量が減ずることがある。

(G) 授乳者の攝生 授乳者の心身の健否は、乳汁の分泌を左右すること極めて大きいから、十分な榮養をとり、運動を怠らず、過勞と睡

眠の不足を戒めると共に、精神の平靜に努めることが肝要である。

人工榮養

5 人工榮養と母乳榮養との異なる點を述べよ。

(A) 牛乳 人工榮養品として最も普通のもは牛乳であつて、これは數多い食品中殆んど完全に近い食物である。しかし、人乳に

種類	成分			
	蛋白質	脂肪	乳糖	無機質
牛乳	三・五	三・〇	四・五	〇・七五
人乳	一・五	四・〇	七・〇	〇・二五

比べて蛋白質、無機質は多いが脂肪、乳糖が少い。蛋白質及び無機質は主として身體の組織を作るもので、かゝる成分が牛乳に多い所以は、牛は人間よりも短期間に成長發育を遂げること、密接な關係がある。

牛乳は人乳よりも消化し難いから薄めて用ひる。この場合、蛋白質、無機質は薄められて人乳に近づくが、脂肪と乳糖とは益、少くな

④ 人乳の消化は二時間半であるが牛乳は三時間を要する。従つて授乳間隔は人乳の場合より長い方がよい。



⑤ 粉乳は大體一〇—一四%の溶液とすれば全乳と略、均しくなる。  
 煉乳は六一〇倍位の溶液をつくり、重湯を以て薄めるがよい。

⑥ 牛乳の薄め方は如何にすべきか。

⑦ 牛乳を薄めることによつて、その栄養量が減ぜられるから、これを補ふため通常砂糖を加へる。これには蔗糖を用ひ、その量は乳兒の月齡の進むに従つて少量づつ増すが、普通乳兒期一箇年を通じて

る。ビタミンは人乳牛乳ともに元來大差ないが、牛乳はその消毒殺菌中に損失することが多いから、適當にこれを補ふ必要がある。牛乳の外に人工栄養品としては、種々の牛乳加工品<sup>⑧</sup>(粉乳・煉乳など)や山羊乳などがある。

(B) 牛乳の薄め方 薄め方としては、最初から牛乳と水を等量に混ぜる方法もあるが、乳兒が牛乳に慣れる時期として、最初の二週間は牛乳一、水二の割合に薄めるのが普通である。これを三分の一牛乳といひ、牛乳二、水一の割合のものを三分の二牛乳といふ。即ち生後二週間までは三分の一牛乳、第三週から第三月まで二分の一牛乳(牛乳二、水一)、第四月から第六月までは三分の二牛乳(牛乳二、水一)七月以後は全乳とする。  
 重湯は第四月頃から牛乳と共に用ひてもよく、牛乳を水で薄める<sup>⑨</sup>。代りに重湯を用ひるのである。

牛乳量の五—七%位加へる。  
 c.c.は立方厘の略字である。

生 後	授乳度數	牛乳の薄め方割合	牛乳の一回量 c.c.	牛乳の一日全量 c.c.
一 日	〇—二	(牛乳) (水) 一と二	五	一〇—六〇
二 日	三—五	(牛乳) (水) 一と二	一五	二〇—一六〇
三 日	三—五	(牛乳) (水) 一と二	二〇	一六〇—二二〇
四 日	三—五	(牛乳) (水) 一と二	二五	二〇〇—二六〇
五 日	三—五	(牛乳) (水) 一と二	三〇	二四〇—三〇〇
六 日	三—五	(牛乳) (水) 一と二	四〇	三〇〇—三六〇
七 日	三—五	(牛乳) (水) 一と二	五〇	四〇〇—四六〇
一 箇 月	六	一と一	六〇—八〇	五〇〇—六〇〇
二—三 箇 月	六	一と一	一〇〇—一三〇	七〇〇—八〇〇
四—六 箇 月	五(四時間置き)	二と一	一三〇—一五〇	八〇〇—九〇〇
七 箇 月 以上	五(四時間置き)	全乳	一八〇—二〇〇	一、〇〇〇—一、一〇〇

(表發局生衛省務内は合割乳調  
 案考士博川瀬員委會査調健保)



① 乳児の栄養必要量

年齢	體重一疋に對する
第一月	二〇—二〇〇
第六月	一〇〇—一五〇
第一年	一〇〇—一五〇

7 牛乳の貯藏上の注意を述べよ。

(C) 牛乳の必要量 牛乳は母乳の代りに用ひるのであるから、その必要量及び栄養價値は、母乳栄養に近似させるがよい。そしてその栄養に要する分量は、乳児の體重に適應しなければならぬ。乳児の栄養必要量は、その成育に連れ體重の割合には増加しないものである。そして乳児期一箇年を通じて、體重一疋に對して毎日一〇〇カロリー(牛乳及び牛乳中に添へたものを加へて)を與へるのが普通である。



冷庫の内の場合

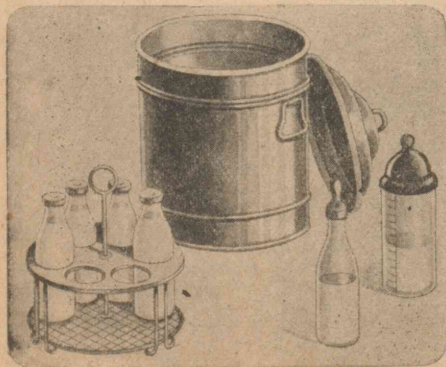
布の下端が水に浸るやうにせよ。(b) 牛乳の調合は冷蔵庫のある場合は、一日の必要な分量を作り貯へて置くのが便利であるが、冷

(D) 牛乳の貯藏と調合 (a) 家庭に配達された牛乳は直ちに冷い清潔な場所に置き、夏冷蔵庫の設備のない場合は、圖のやうに水を入れた容器中に牛乳瓶を立て、その上から晒布を二重にして掛け、

藏庫のない場合は、その都度一瓶づつ調合するがよい。

牛乳中には本来總べての必要なビタミンが含まれてゐるが、消毒殺菌の際に一部或は大牛破壊損失するものであり、特にビタミンCはこの性質が著しいから、牛乳栄養の場合にはビタミンCを補ふことが必要である。このためには蜜柑汁トマト汁または大根汁を季節に應じて用ひればよく、最初數滴から順次増加して第六月頃には三十瓦とする。水で薄めて砂糖を加へ、授乳時の間を選んで與へる。

(E) 牛乳の消毒 市販の牛乳は總べて消毒殺菌の後配達されるのであるが、使用までには相當の時間を経るから、一應消毒するが理想的である。消毒には必要以上に加熱しないがよく、この目的に副ふものにソックスレー消毒器がある。しかし、一般家庭で簡易に行ふには、牛乳その他必要な食品(重湯、砂糖)、一回分を哺乳瓶、



ソックスレー牛乳消毒器

② 長時間の煮沸はビタミンを破壊し、また蛋白質の消化が悪くなる。  
③ 白砂糖一瓦は四カロリー。  
④ 茶匙一杯は三瓦である。



人工榮養に於ける授乳回数と授乳量につき記せ。

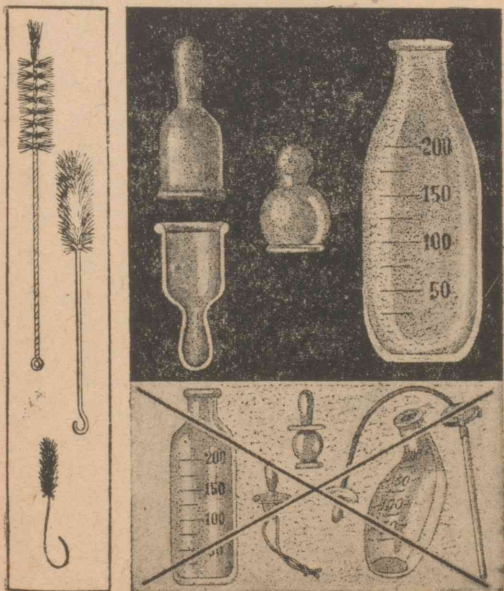
消毒済の牛乳を直ぐに使用しないときは、前述の方法に依り貯へて腐敗を防ぐがよい。

て調合し、これを湯沸に入れ、五六分間煮沸して後哺乳瓶を取出し、體溫位の溫度にまで冷まして用ひる。

(F) 授乳回数 これは大體母乳と同一でよい。

(G) 哺乳器具 哺乳瓶は隅々まで簡易に十分な掃除や消毒の出来るもので、質の堅牢なものがよい。乳首はゴム製で裏返してよく洗ひ得るもの、直接哺乳瓶につける短いものがよい。瓶及び乳首の消毒は怠らず、殊に夏は一層嚴重に行はなければならぬ。

混合榮養



器除掃と瓶乳哺

混合榮養は如何なる場合に行ふべきか。

母乳分泌が不十分でなくとも母親が或る仕事に就いてゐて十分に母乳を與へることの出来ない場合には一日のうち何回か他の榮養品で補給せられ混合榮養を行ふことになる。

(A) 混合榮養の必要 母乳の分泌が十分であれば、これから漸次に離乳に入るのが、乳兒榮養上最も好ましいことである。しかし、母乳を必要とする時期に、その分泌が不十分のときは、これ以外のものを補はなければならぬ。母乳とその他のもの、混合によつて、乳兒の榮養を圖ることを混合榮養といふ。離乳準備期に母乳以外のものを與へるのは混合榮養ではない。

(B) 混合榮養品 人工榮養品としては最上の牛乳がよいとは謂へ、

成分種類	人乳	牛乳	粉乳	粉七倍半液乳	煉乳	煉乳十倍溶液
水分	八七・七三	八七・六	三六・七	八七・一九	二二・七〇	九二・三七
脂肪	二・九七	三・六	二・三五〇	三・二	一・〇〇	一・一〇
乳糖	七・六一	四・九四	四・五〇	五・七九	一四・六〇	一四・六
蛋白質	一・五	三・三	二・四・五	三・三	九・七〇	〇・九七
無機質	〇・一六	〇・七三	五・一八	〇・六	二・三〇	〇・三三
蔗糖	—	—	—	—	三・七〇	三・八七
合計	一〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇



場合に依つては粉乳や煉乳なども用ひられる。

(C) 混合栄養法 混合栄養を行ふに當つては、先づ母乳の不足量を知り、これを他の栄養品によつて補ふことになる。これには哺乳前後に赤兒の體重を數回繰返して測定すれば大體得られる。乳兒の一日の必要乳量は人工栄養の項に於て述べた如く、體重一匁に對するカロリーによつて定めるがよい。

(D) 授乳方法 これは、母乳が不足しても、ある時間の間隔を置けば一回の哺乳量に達するときは、母乳と補助栄養品とを交互に與へるやうにするがよい。長時間の間隔を置いても母乳分泌が十分でない場合は、まづ母乳を與へ、次に引續いて、一回分に不足する乳量を他のもので補ふやうにする。

四 離 乳

(A) 離 乳 乳兒は生後或時期までは、乳のやうな流動物が絶対に

必要であるが、その後は諸種の混食が必要となるのであつて、これは乳兒の身體の自然の要求である。授乳をやめてこの要求を適當に充すことを離乳といふ。

(B) 離乳の時期 離乳の時期が餘りに遅れると、乳兒は貧血を起すやうになり、發育を阻害する。それは乳の中に血液をつくる成分が多量に含まれてゐないからである。

離乳には或準備期間を置きこの時期に乳汁以外のものを與へて、乳兒がその消化に堪へ得るか否かを觀察する。離乳準備の時期は、母乳栄養の場合と人工栄養の場合とで多少異なり、人工栄養の場合は、牛乳や重湯などの食物に十分慣れてゐる譯である。一般には何れの場合に於ても第八月頃より準備に入り、滿一年で略完成し、一年三箇月で全く完了して幼兒期の食物に入るのである。但し乳兒の發育が甚だしく遅れた場合や、離乳が夏季に當る場合

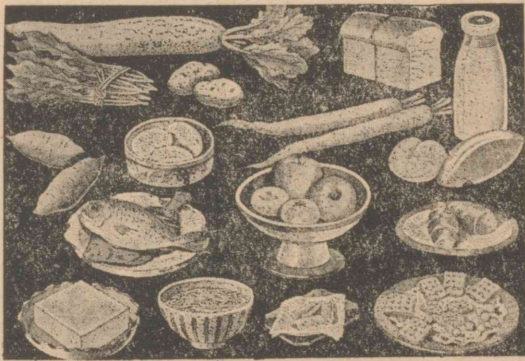
10 離乳の時期は何時が最も適當か。



11 離乳期の食物につき述べよ。

には適宜その時期を遅らせるがよい。

(C) 離乳期の食物 母乳栄養の場合には従来は専ら「おまじり」または粥を與へたが、最近では最初に穀粉を



離乳期に與へて良い食物

與へる方法や、一部では牛乳を與へる方法が行はれてゐる、穀粉を與へる方法としては準備期に於てビスケットまたはカルケットの如き精製せる小麦粉を原料とする菓子を與へ、初め一個一回より二個二回とする。第八月よりは米粉・重湯を與へ、順次濃くして「おまじり」に移り、次いで粥と爲し、副食物を與へる。副食物は最初野菜裏漉スープとし、次いで魚肉・鶏卵から獸肉に至る。魚肉は煮たもの、鶏卵は半熟、獸肉は最初挽肉がよい。

第五課 幼兒の養護

幼兒の衣食

(A) 幼兒 離乳してから五六歳までの間を幼兒期といひ、この時期には幼兒の諸器官が著しく發達する。

(B) 幼兒の衣服 幼兒期は最も活潑に活動するものであるから、その服装もこれに適するやう作らなければならぬ。冬季に綿入の重ね着などをさせるときは、皮膚の抵抗力が弱くなり、かつ運動の妨げとなるからこれを避け、よろしく下着の構造に工夫を加へて成るべく、輕快にし、活動を容易にするやうにしたものである。下着は丈夫で耐洗濯性のあるものを選び、及ぶ限り清潔にする。また夏には寝冷えし易く、これが病氣の原因となるのであるから、腹巻または「寝冷え知らず」を用ひるがよい。

〔設問〕

1 幼兒の衣服に就いて注意すべき點あらば述べよ。



2 幼児の榮養に就いて概説せよ。

(C) 幼児の食物 幼児期は前述の如く發育の旺盛な時期であるから、これに適した食物の質や分量及び食べ方を心がけなければならぬ。

先づ質に就いて謂へば、蛋白質は筋肉その他の組織を作るに必要な成分であるから、幼児期には成長發育に効果の大きな動物性蛋白質が必要である。また無機質のうち、磷・カルシウムなどの如き骨成分無機質は骨及び歯をつくる爲に、鐵・銅などの如き造血無機質は血液を作る爲に必要である。ビタミンは各種共に必要であるが、ビタミンBは發育を助け、ビタミンDは骨成分無機質をよく體內で利用し、また疾病に對する抵抗力を有つから特に必要である。その他一般に消化し易い食品を選ぶことが大切である。

分量に就いて謂へば、幼児は盛な發育と活動のため特に多くのエネルギーが必要であり、従つて多量の食物を攝らなければならぬ。

幼児の食物  
必要量  
(シヤーマン  
氏による)  
年齢 カロリー  
(体重一磅)  
一二歳 一〇〇—九〇  
三五歳 九〇—八〇  
八九歳 八〇—七〇

ない。もしこの時期に食物の分量が不足すれば、發育が阻害され成長も遅れる。

かやうに幼児は多量の食物を要するにも拘らず、未だ消化器は十分に發達せず、咀嚼力も弱く、これに加ふるに節制力がないから、自然消化し易い物を選んで與へるやうにしなければならぬ。

(D) 幼児と水分 子供は成人に比べてよく活動し、體內に於ける新陳代謝が盛であるから、比較的によく多くの水分を要求する。これは年齢や季節その他の環境によつて多少異なるが、成人の約二倍の分量(體重當り)を要するものと考へるがよい。そして特に水を飲ませる場合は、その清淨なものを選ばなければならぬ。これは子供にとつて特に大切なことである。

(E) 間食と食事回数 幼児には三度の食事以外に間食を與へるがよい。蓋し成人に比べて比較的によく多量の食物を要するに拘らず

3 間食の可否について述べよ。



三回食で満足させやうとすれば、食べ過ぎとなつて失敗し、適當に攝らせるときは食間に空腹を感じずるからである。  
間。食の成分は水分炭水化物を主とし、脂肪、蛋白質の比較的少ないものを與へるやうにする。脂肪や蛋白質を多量に含む食品は、胃内に停留する時間が長く、次の食事に影響するからである。  
分量は習慣上大體一日の所要カロリーの一割内外とし、食間空腹時を選んで與へる。それは午前十時、午後三時が普通である。

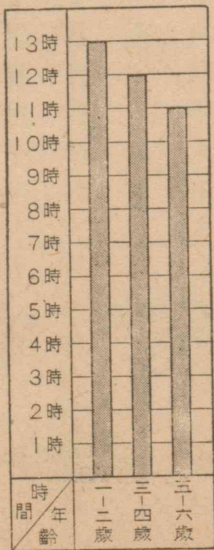
運動と睡眠

(A) 運動 自然の發育に任せるのがよろしく、十分歩行の出來ない幼児を無理に手を引いて歩ませるなどは宜しくない。稍長じて自由に歩けるやうになれば、出來るだけ戶外で太陽と土とに親しませるがよい。但し強烈な日光の下に長く曝すことは、種々な弊害を伴ふものであるから、監視者はこの點特に注意しなければ

4 幼児の睡眠時間は幾何が標準か。

ならないが、危険のない限りは幼児の欲するがまゝに遊ばせるがよく、干渉や束縛は宜しくない。

(B) 睡眠 良く遊ぶ兒は能く眠るものである。幼兒は年齢により多少の相違はあるが、出來るだけ長時間安眠させるがよい。睡眠が不足すれば神經過敏となり、或は榮養不良となつて心身の發育を阻害するものである。大體幼兒の睡眠時間は下表の通りである。



(生後七八箇月間の睡眠時間はこの表示よりもつと長い。)

間時眠睡の兒幼

幼兒と齒

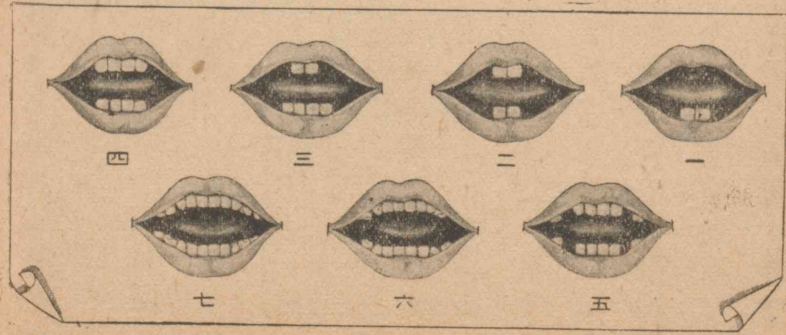
乳齒は上下を合せて二十本あり、その發生の時期は子供によつて必ずしも一定して居らない。通例生後六―八箇月頃から圖の如き順序に従つて早きは二歳、遅きも四五歳で發生し終る。齒が生



5 乳齒の發生順序を問ふ。

へる前兆として涎を出し、唾液を吐き、乳房を噛み、場合によつては不眠發熱などの異常を呈することもある。

幼兒の乳齒は六七歳からその發生した順序に従つて脱け始め、その跡に三十二本の永久齒が生へ代る。かくして乳齒はやがて生え代るものとして輕視する風習があるが、齒が損ずれば咀嚼作用を害することは成人の場合と違ひなく、また次に生える永久齒の齒列びを悪くするものであるから、齒の掃除には注意しなければならぬ。尙「むし」齒の發生は常に齒の掃除が十分でない場合ばかりでなく、食物中にビタミン



乳齒發生の順序

Dが不足するか、または胎内にある頃母親の食物中に燐カルシウム及びビタミンDが不足することによつても、影響するものである。

第六課 乳・幼兒の教育

乳・幼兒の教育と母の任務

人間の教育は早くも母の胎内に在るときから始まるのであつて、これは胎教と呼ばれてゐる。乳兒期から幼兒期に入るに及んで身體の發育と共に智能も益發達するのであつて、人格の基礎は主としてこの期間に築かれ、これが人の一生を支配することになるのであるから、この時代の教育は一層注意しなければならぬ。そしてこの任務に當る者は母であるから、その責任は頗る重い。「搖籃を動かす手は世界を動かす手である」といふのは、或外國の詩

【設問】  
1 乳・幼兒の教育  
上注意すべき事項を述べよ。



① ウォレス（一八一九—一八八一年）といふアメリカの詩人の詩の中にある言葉。

人がナポレオンの母を讚美した言葉であるが、母の任務とその教育の力とを竭して餘蘊がない。

三 言語

乳幼児は物を理會する力が出來ると他人の言語を理會するやうになり、次いで徐々に言語を發するものである。言語は周圍の者から學ぶのであつて、生後十八箇月から、二十三箇月の間に基本的の言語を覺える。この期間には不正確な言語や、意味を取り違へた言語を使ふものであるから、これらを正確な發音や語法を使ふやうに導き、國語を正しく自由に語るやうに修練させなければならぬ。

四 お話と童話

幼兒は少しく知識が進み、理會力、想像力が出來ると、お話や童話を喜んで聞き、自分も亦話したり歌つたりする。これらは幼兒が言

2 お話や童話は如何なるものを選び、如何なるものを忌避すべきか。

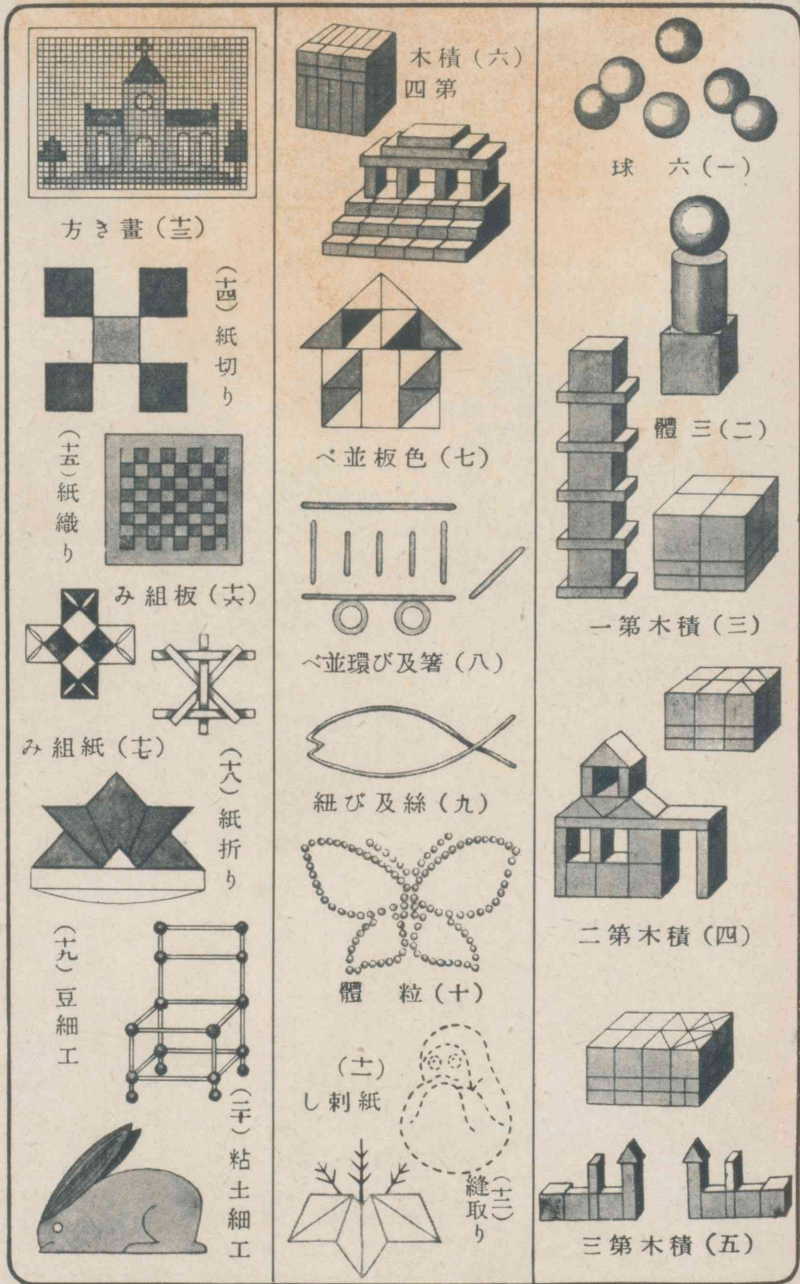
語を練習し、知識を増し、想像力を練り、情操を陶冶し、かつ徳性を涵養するのに多大の効果があるのであるから、細心の注意を拂はなければならぬ。殊に童話は情操を陶冶する上に絶大の力がある。お話や童話は幼兒が理會し得られる程度を考慮して最も効果的のものを選び、その質疑に對しては正しくかつ懇切に説明し、野卑な話怖ろしい話、残忍な話、餘りに悲哀な話は避けなければならぬ。日本民族の特性を現はすやうなお話や童話は、國民性を陶冶する上に必要であるから、これらを話したり、歌つたりする間に良い日本人を育成することを念としなければならぬ。

四 遊 戲

子供は遊戯に依つて諸種の本能を満足させるのであつて、その生活の大部分は遊戯であるといつてもよい。玩具を弄び、手細工を爲し、歌をうたひ、または運動をするのも總べて遊戯である。子供

3 子供の遊戯の指導につきて述べよ。





物恩十二ルベール

4 玩具選擇上の注意について述べよ。

玩具

(A) 價値 玩具は子供の本能的生活を満足させると同時に、その種類に依つては子供の活動を促し、理會力、想像力、判斷力を増し、知

うに注意し、獨りて遊ばせないやうにするがよい。



邊 海

はこれに依つて心身の發達を遂げ、情  
 操を陶冶し、知徳を養ひ、知らず識らず  
 の間に社會人として必要な訓練を受  
 けるのである。それ故遊戯は一方に  
 偏せぬやう、また野卑に陥らぬやうに  
 指導し、晴天の日には戸外で遊ばせ、な  
 るべく伸びゆくした氣分を養はなけ  
 ればならない。四五歳にもなれば友  
 を呼ぶやうになるから、良友を選ぶや



夏季の水遊び玩具は子供の喜ぶものであるが、身体を冷却し、汚れた水を口にすることがあるから、成るべく避けるがよい。



玩具の種類

的、美的、道徳的の情操を涵養する効果がある。

(B) 選擇 玩具は以上の如く有益なものであるが、一度その選擇を誤れば却つて有害になるから、次の諸條件に注意しなければならぬ。

(1) 身體に危険な物を選ばぬこと。(a) 小さいゴム玉などの如く呑込み易い物、(b) 有毒の色素や塗料を以て塗つた物、(c) 硝子やブリキを材料とした怪我をさせ易い物、(d) 引火し易い物、(e) 光線が強きに過ぎ、て眼に有害な物、(f) その他健康上の有害物などは與へてはならぬ。

(2) 教育上効果あるものを選ぶこと。(a) 視覺を練る効果を有する風船、風車や、聽覺を練る効果を有する「がら〜」笛、(b) 筋肉運動を助ける効果を有するお手玉、風車、三輪車、(c) 思考力を練る効果を有する積木、折り紙や、(d) 情操を練る効果を有する人形、ま〜と道具などは好



③ 蛇や百足の如く恐怖心や憎悪の心を起させるものなどは悪い。

④ 玩具遊びの際にも物を大切にすることを十分に養はせる必要がある。しかし、求知本能の發露として玩具を破壊する場合は、叱らず、これを善導しなければならぬ。これは、力が培ふことになるのである。

⑤ 使用後は放縱に陥らぬやう一定の容器に入れ、規律正しくこれを定めた場所に納めるやうな習慣を養ふがよい。

ましい。そしてなほ子供の氣質を參酌し、内氣な者には風三輪車の如き元氣な氣象を養ふに足るものを選び、亂暴な者には樂器などの如く特に心を落付け、優雅な心を養ふに足るものを選び、ことに留意し、長所をのぼし短所を矯正するやうに努めなければならぬ。

繪本

繪本の選擇に當つては、その内容の(A)恐怖慘忍野卑哀愁などの心情を起す物や、(B)餘りに濃い色彩を施した物は不適當である。(C)また餘りに程度の高い物もいけない。(D)學校に通ふやうになつて與へる繪本は文字が大きく、その色は黒色またはこれに近い



外 野

色の物を選ぶがよい。赤地に黄色の文字を現はしたものなどは衛生上に最も悪い。

躑方法

幼兒期の習慣は成人になつても改めにくいものであるから、この時期の躑方に就いては周到の注意を要する。そのうち特に心掛けるべき點を述べよう。

(A) 躑の方法

(1) 環境と示範 環境が悪いときは教育上の効果は擧らない。これは孟母三遷の教がよくこれを物語つてゐる。それ故圓滿で秩序の立つたなごやかな家庭生活を營み、子供に躬を以て範を示すやうに心掛けなければならぬ。

(2) 命令と禁止 子供は未だ自ら善惡是非を十分に判斷する能力を有たないのであるから、命令と禁止とに依り、行ふべきこと、行つ

5 幼兒の躑方には如何なる注意が必要か。



てはならないことを識別する能力を養ふ。稍事理を解するやうになれば、禁止する場合にも命令する場合にも高壓的にせず、理非を謂ひ聴かせ、能く反省させつゝ、自發的に實行に導くがよい。

(3) 賞 罰 命令・禁止を聴かぬ場合には、已むなく懲罰を加へなければならぬ。しかし、この場合にも十分に愛情が溢れ、これを子供に感じさせることが肝要である。そして少しでも善行があれば、これを褒め勵まし、子供の努力で躰の効果を擧げるがよい。

(B) 生活指導

(1) 衛生を重んずること 衣服は清潔に保ち、食前には必ず手を洗ひ、外出より歸れば含嗽を、就床前・起床後には齒の掃除をなすやうな習慣を養ふがよい。

(2) 規律正しい生活をさせること 起床・就床・食事の時間などは略一定し、玩具などは定まつた場所に納めさせるやうに指導するがよ

い。

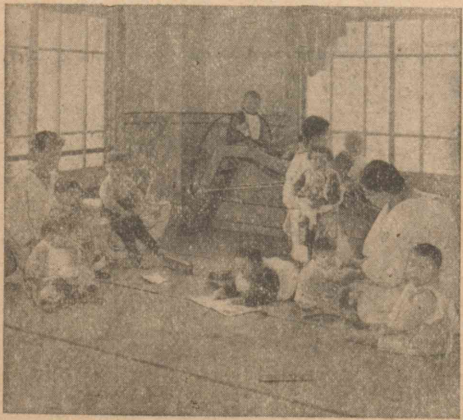
(3) 自活の精神と責任の心とを涵養すること 自分の所有品や使用品は必ず自ら整理に當らせるがよい。 自分の所有品や使用品

(4) 禮儀を重んずる習慣を養ふこと 禮儀は秩序の基であるから、幼少のときからこれを重んずる習慣を養ふことが肝要である。起床・就床の挨拶、食事の仕方、他人に對する禮儀、長上に對する禮儀などにつき訓練し、常に實行させるがよい。

託兒所と幼稚園

託兒所は晝間種々な職業に従事する家庭の幼兒を預り、育兒に教養ある専任の婦人がその心身の圓滿なる發達を圖り、兩親が安んじて職業に

6 託兒所・幼稚園は幼兒の教育上に如何なる効果があるか。



託兒所



従事し得るやうにする施設であり、幼稚園は幼児を預つて同じく育兒や訓育につき、教養の深い嫁母がその心身を圓滿に發達させる施設である。かくて幼稚園の保育は、家庭教育の延長であるから、保護者はこれと連絡を密にして、保育上に齟齬を來さぬやうに心掛けなければならぬ。

四 就 學

(A) 義務教育 兒童が滿六歳に達した日の翌日から、滿十四歳までの八箇年を學齡と稱へる。學齡兒童の保護者は、新學年の始から兒童を尋常小學校に於て就學させる義務があり、不具・廢疾そのほか已むを得ない事由がなければ、免除または猶豫されない。故に



圖 稚 幼

これを義務教育といふ。これは尋常小學校の課程を終了するかまたは滿十四歳に達したときは終了する。

7 學校と家庭との連絡上の心得を述べよ。  
8 兒童の學習指導法を問ふ。

(B) 學校と家庭との連絡 兒童は學校に居る間よりも家庭に居る間が長いのであり、また學校では數十人を一室に集めて教育し、個別教育は行ひ難いのである。殊に校内での兒童の行動には凡そ一定の範圍があるので、その個性の最もよく現はれるのは家庭である。従つて家庭と學校とが互に連絡をとり、提携しなければ教育の十分な効果を收めることは出来ない。依つて家庭では學校の主義方針を能く理解し、兒童が歸宅したときはその日の成績品を調べて良いところは褒め、悪いところは勵はげますやうにし、かつ學習したことや教師から教へられたことを話させ、豫習・復習の指導を爲すと共に、學校に於ける訓育の効果を擧げるやうに努めなければならぬ。家庭での學習時間は入學當初は半時間内外とし、學



年の進むにつれ漸次に時間を増すがよい。長時間連続的に學習させるのは保健上有害なばかりでなく、精神が疲労する爲に効果が擧らない。幼時に精神を過勞させるときは終生回復することが困難となる。

母親は學校の保護者會などに出席するは勿論、時々學校を訪れて我が兒の學習狀況を參觀し、受持教師の意見や注意を聞き、またこちらからも教師の参考事項を述べるがよい。家庭ではかりそめにも兒童の面前で受持教師を批評したり、兒童の信賴を裏切るやうな言動をしてはならない。

第七課 小兒の養護

■ 小兒の衣服

小兒<sup>①</sup>の衣服は幼兒のそれと同様で、(1)地質は丈夫で保温性に富み、洗濯が容易で、かつこれに耐へるもの、(2)作り方は自由な活動を妨げないもので、和服ならば筒袖洋服ならば簡單で寛かなものを選び、(3)着せ方は身體各部の保温に心がけることは素よりであつて、特に腹部を冷さないやうにし、また厚着をさけ、帯や紐で強く縛らないやうにすることなどが大切である。

■ 小兒の食物

(A)食物の質 既に幼兒の食物の項でも述べたが、小兒は發育期にあるのであるから、その食物は大人のそれとは質的に異なるのが當然である。それ故良質の蛋白質炭水化物脂肪無機質及びビタ

① 幼兒期を過ぎ、十四五歳頃までの者を小兒といふ。

〔設問〕  
1 小兒の食物は大人のそれと質及び量に於て如何に相異なるか。



ミンを攝るべきは言ふを俟たないが特に身體組織の主要な成分をなす蛋白質並に、發育助長の爲に動物性食品が必要であり、かつ骨や齒の健全な發育の爲に骨成分無機質を、血液増加の爲に造血成分無機質を、また疾病に對する抵抗力助長、發育促進、旺盛な活動力の保持、その他の目的の爲にビタミンA・B・Cを攝らなければならぬ。

なほ大人のやうに、香辛料を用ひることは努めて避けた方がよい。

(B) 食物の量 幼兒と同様發育の爲には、大人に比べて多量の食物を要すると同時に活動が盛な爲、これに要するエネルギーは大人よりも比較的に多いから、體重に對し熱量は一・五乃至二倍を要する。また蛋白質の如きも、大人は最低量體重一疋當り一瓦であるが、小兒は一・五乃至二瓦を要する。その他脂肪、無機質及びビタミンの必要なことは言ふを俟たない。

かく多量の食物を要するに對して、小兒の消化器は大人の如く強大でないから、自然こゝに三食以外に間食を必要とし、また比較的消化の容易なものを要する譯である。

(C) 食物の用ひ方 幼兒と同じく小兒の食物及び味は、成るべく變化を工夫して何でも食べる習慣を養ふべきである。さもなければやゝもすれば偏食となり易く、これは延ひて種々な營養障害を起し易い。

食べ方としてはよく咀嚼する習慣を養ひ、登校前食事を急いで呑みにするやうなことがあつてはならない。また美味に食べられるやう調理をなし、かつ一家團欒して愉快に食べるやうにすることが大切である。蓋し、精神作用と消化作用とは密接な關係にあるからである。

2 小兒の間食は必要なりや。

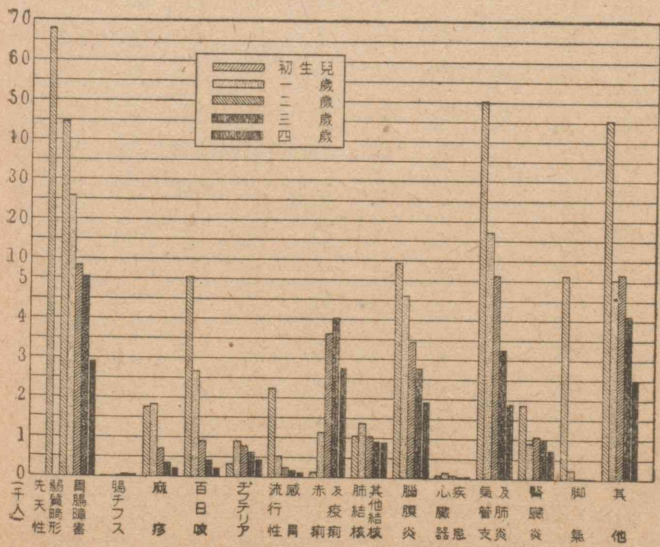
3 小兒の偏食矯正法につき述べよ。



【設問】  
1 子供が罹り易い疾病を擧げよ。

子供の疾病

子供は大人に比べて身體の抵抗力が劣つてゐるから疾病に罹り易い。また病氣になつても大人のやうにその症状を正確に訴へないから、保護者は平素子供の動靜顔貌などに注意を拂ひ、異常の點を認めたときは直ちに相當の手当をしなければならぬ。以下子供の罹り易き



(均平の間年箇四年六和昭自 年九和昭至) 査調局計統閣内 因原亡死の供子

疾病につき述べるが、赤痢、ジフテリア、猩紅熱、痘瘡及び結核に就いては既に傳染病として學んだから、茲ではこれらを省略する。

消化不良

2 消化不良の豫防と手當法を述べよ。

(A) 原因 消化不良は授乳の規則的でない爲に、胃腸を害することから起ることがあり、食事の不注意により、または感冒や咽喉力タルなどの後に起ることもある。  
(B) 症状 症状としては便の色が變り、粘液や泡を混へ、酸臭ある水様便を下痢し、時に發熱する。また便秘の場合は硬い兔糞狀の便を、苦痛を伴つて排泄する。  
(C) 手當 下痢の場合は腹部を温め、かつ授乳の分量及び回数減じ、一方症状に應じて醫師の手當を受ける。

疫 痢

(A) 原因 疫痢は三歳から六七歳までの子供が最も罹り易い病



3-疫痢の豫防と應  
急手當は如何に  
すればよいか。

疫痢の死亡率<sup>①</sup>  
その日のうちに四五%  
死亡するもの  
二日以内に 三三%  
死亡するもの  
二日以上で 三〇%  
死亡するもの  
四五日を經過す  
れば一命は助か  
るものが多い。

氣で、法定傳染病の一種であつて、不  
消化物や腐敗した食物を食べるか、  
食べ過ぎ、寝冷えなどで身體の弱つ  
たときに罹り易い。

(B) 症 状 これに罹れば健康な子  
供が急に元氣を失ひ、倦怠の様子で  
ゴロ／＼轉がり、或は頭痛を訴へ、嘔  
吐、腹痛を起し、下痢する。三十八度

乃至四十度の高熱を發し、痙攣に次いで昏睡に陥り、罹病後一、二日  
で死亡するものが相當にある。

(C) 手 當 本病に對しては豫防に注意し、食べ過ぎ、寝冷えを戒め  
て胃腸の健全を圖り、もし罹つた場合には一刻を争うてヒマシ油  
を飲ませ、或は灌腸を行つて腸の内容物排除に努め、また頭部や心

臟部を冷やし、腹部や手足は温め、直ちに醫師の來診を求めなければならぬ。

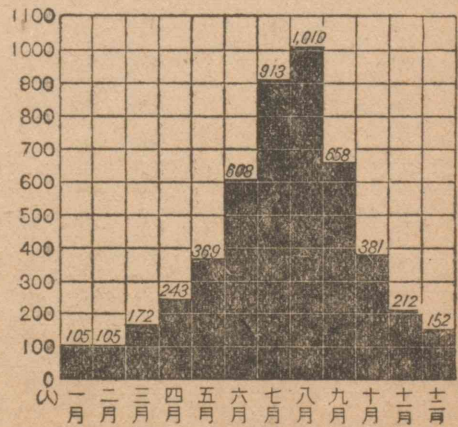
四 麻 疹

(A) 原 因 麻疹は子供の罹り易い傳染性の疾病で、病原體は不明  
であるが一度罹れば多くは免疫性となる。

(B) 症 状 この病氣は約十日間の潜伏期を経て、最初は感冒の如  
く眼は赤く充血し、くさめ、咳嗽を發し、三十八九度の發熱がある。

更に熱が上り、發病後三四日目に赤色の發疹が顔面に現はれ、一日  
位で全身に及ぶ。かくして順調に進めば、一週間位で解熱と同時に  
に發疹は次第に褐色となり、次いで皮膚が脱落して恢復期に入り、  
普通二週間位で全快する。

(C) 手當としては部屋を温くし(十八度位)、水蒸氣を盛んに立て、隙間風の  
入らぬやう、また餘り明るきに過ぎないやうにすると共に、強い光



表別月生發者患痢疫

4 麻疹の症状と手  
當法を述べよ。



線を避け、消化の良い食物を與へて安靜に保つことである。恢復期に入つても屢、氣管支カタル肺炎中耳炎などを起し易いから、十分の注意が肝要である。三四週間にもなれば室外に出てもよいが、風邪をひかぬやう注意しなければならぬ。また家族中はこの病人あれば他の子供は近付けないがよい。

四 百日咳

5 百日咳の症状と手當法について述べよ。

(A) 原因 百日咳は百日咳菌の飛沫傳染、直接間接の接觸傳染に依つて起る病氣であつて、麻疹の後などに罹ることが多い。  
(B) 症状 これに罹ると初め一二週間は軽い咳嗽と熱を出し、その後、犬の遠吠えの如き特有のあとを引く咳嗽の發作を起し、これが一日十數回以上にも及んで病人を苦しめる。發作のない時は少しも平生と異ならないが、一度これが起れば顔を眞赤にして屢、嘔吐を起し、この経過が凡そ百日も續くところから百日咳の名が

出たものである。

(C) 手當 本病には特別の手當法はないが、一般に榮養が衰へるから消化の容易な食物を與へて榮養補給に努め、暖い日には戸外で日光浴をさせ、新鮮な空氣を吸はせることであり、この意味で海岸などへ轉地するのもよい。

四 感冒

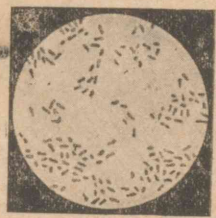
(A) 原因 感冒は氣候の激變、寝冷え湯ざめ、便秘などが主因となつて起る。  
(B) 症状 輕症のものは、くさめ、軽い咳嗽をなし、鼻水を出す位であるが、重くなれば發熱甚だしく、咳嗽も激しくなり、咽喉の痛むことがある。  
(C) 手當 この病氣は餘病を併發することがあるから、適宜醫師の診察を受けることが必要であるが、手當としては部屋を温めて



水蒸氣を立たせ、咽喉の痛みに對しては濕布を爲し、咳嗽が激しければ吸入を行ふとよい。

**七 肺炎**

(A) 原因 肺炎にはクルップ性肺炎とカタル性肺炎の二種あり、子供が百日咳、麻疹などに引續いて起し易いのはカタル性肺炎で、死亡率が高い。

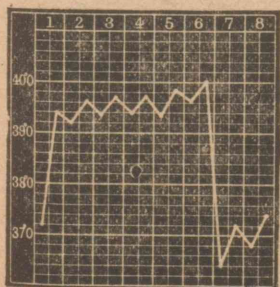


肺炎菌

(B) 症状 これに罹ると體温は四十度以上になり、特異の熱型を表はして脈搏は増し、悪寒を

催し、咳嗽は激しく時に呼吸困難に陥ることもある。

(C) 手當 本病に罹れば醫師の指圖を仰ぐこと勿論であるが、空氣の流通よき部屋に水蒸氣を立て、乾燥を防ぎ、絶對安靜を



肺炎の熱型

保たせて頭部、心臓部には水囊を當て、胸部には溫罨法または芥子泥濕布を施し、呼吸困難の場合には酸素吸入を行ふ。

**八 中耳炎**

(A) 原因 中耳炎は感冒から引き起すことが多い。  
(B) 症状 初期には發熱して耳鳴り、耳痛などを訴へる。



肺炎に罹つた子供をかき方

(C) 手當 手當が早ければ比較的簡単に治癒するが、時期を失すると大事に至ることがあるから、速かに専門醫の診斷を受けるがよい。豫防としては感冒に罹らぬやうに注意し、また餘り強く鼻をかまぬやう心掛けることである。

**九 驚口瘡**



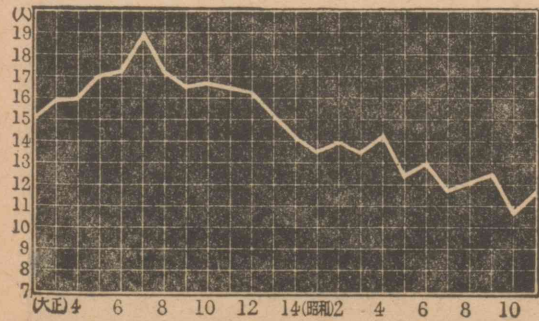
(A) 原因 驚口瘡は俗に「しろした」などと稱し、一種の黴菌の作用であつて、乳兒の口内・乳房・哺乳器の不潔不良牛乳などから起るが、誘因となるものは榮養不良である。

(B) 症状 最初は乳兒の口腔粘膜や舌に白い斑點が出来、腫れ痛み次第に口腔から咽頭・氣管まで侵されて哺乳困難となり、遂には食道胃にまで蔓延して危険に陥ることがある。

(C) 手當 これに罹れば口中を重曹水・硼砂またはグリセリンで拭ひ、豫防としては授乳後薄い重曹水で口中を拭ひ、口腔内を清潔に保つ必要がある。

### 扁桃腺炎

(A) 原因 扁桃腺炎は口腔の奥及び舌の



(發局計統閣内) 率に百にきつに人百表

兩側が腫れ上り、炎症を起す病氣で感冒の際に起し易い。

(B) 症状 急に三十九度内外の高熱を發し、惡寒を催し、頭痛・全身倦怠などを覺え、唾液を飲み込むときに痛む。

この病氣には腎臓炎・中耳炎などの餘病を續發することがある。またこの病氣を反覆して居ると、扁桃腺肥大症や腺樣増殖症に罹り、食物の嚥下呼吸聽力などに障礙が起つて、心身の發育を害するやうになる。

(C) 手當 本病に對しては安靜を守り、食鹽水・硼酸水・オキシフルなどの含嗽を行ひ、咽喉にはルゴール氏液などを塗り、顎下部に冷罨法を施す。勿論醫師の診察を乞ひ治療を受けるがよい。

### 痙攣

(A) 原因 痙攣は神經質または虚弱な五六歳までの子供が、烈しい精神感動や強い刺戟のあつたときに起すこともあり、また一般



の子供としては消化不良、疫痢熱病に罹つたときに起すこともある。

(B) 症狀手當  これは第一篇第四課に述べてある。

### 四 腦膜炎

(A) 原  因  腦膜炎は五六歳までの幼兒に多い恐ろしい病氣であつて、これに罹れば大抵死亡し、辛うじて一命を取止めても腦に故障を生じ、或は白痴、聾啞などになることがある。

慢性のものは多くは結核菌により、急性のものは肺炎流行性感胃、中耳炎などから來る場合が多い。

(B) 症  狀  食慾不振、全身倦怠、烈しい頭痛、嘔吐、便秘などを催し、意識が不明瞭となり、痙攣を起し、病勢が進めば昏睡状態に陥り、感覺もなく、ただ昏々として眠り續け、遂に死に到るものである。急性のものは突然發熱して惡寒、頭痛を催し、「めまひ」を起し、「うはごと」を

9 腦膜炎の症狀を述べよ。

發し、遂に烈しい痙攣を起して死に至る。

(C) 手  當  子供が急激に發熱して或は吐乳し、または青い下痢便を伴ひ、頭痛を訴へるなど容態の疑はしい場合には速かに醫師の來診を求め、適當の手當を受けることが必要である。

### 四 寄生蟲

(A) 蛔  蟲  これは蚯蚓に似た長さ十七八糎乃至二十七八糎位の灰白色または黄赤色の蟲で、大人にも寄生するが、四五歳から十二三歳位までの子供に寄生することが多い。蛔蟲が寄生すると食慾が減り、嘔吐や腹痛があり、鼻の孔が痒く感ずる。榮養状態は悪くなり、時に高熱を發し、失神、痙攣などを起すことがある。

以上のやうな症狀が現はれなくとも、子供の六十%位はこの蟲が寄生してゐると謂はれてゐるから、常に注意しなければならぬ。寄生蟲の有無は糞便の検査を行へば分るから検査の結果、もしあ

10 子供に寄生し易い寄生蟲につき述べよ。



れば醫師と相談して驅除方法を講じなければならぬ。

(B) 蟻 蟲 これは白い絹絲のやうな長さ一糵内外の小さな蟲で大腸に寄生する。産卵の爲夜間に肛門から出て來るので、その際痒みの爲眠り得ず、時に神経質になることもある。

手當としては子供が寝ついてから、肛門の周圍をよく調べ、附着してゐる蟲は取除く。そして蟲卵が直接に指や爪につかぬやうにする爲、寝るときは必ず猿又や手袋をはかせ、毎日これを熱湯につけてよく洗濯すると共に、肛門の周圍や手は成るべく清潔にするやうに心がけ、醫療を受けて適當な驅除法を講ずる。

## 第四篇 家庭管理

### 第一課 家務の處理

#### ■ 家務の整理

(A) 家務整理の順序方法 家庭日常の仕事は多いから、これを合理的・能率的に秩序を立て、處理すると否とは、時間の經濟・家務の整頓の上に著しい影響がある。能く整頓した家庭は見るからに氣持よく、何となく奥ゆかしく感ぜられて、家風のほどもしのばれるが、かやうな環境に成育する子女は自らその感化を受けて、品格がそれだけ高尚になる。家務は毎年殆んど同一のことが繰返されるもので、豫定が立つのであるから、凡そ次の方法に依るがよい。

#### 【設問】

- 1 家庭の作業能率増進法を問ふ。
- 2 家務の整理と家庭秩序との關係につきて述べよ。



3 各目的家庭の年中行事表を作れ。

(1) 毎日毎週毎月の常務は仕事の順序と時刻とを定め、家族の分擔を定めて實行すること。

(2) 年中行事は一覽表を作成し、見易いところに貼つて置くこと、これに記入すべき事項の大綱は凡そ次の通りである。

(a) 記念日・祝祭日 國の祝祭日・氏神祭禮日・家の記念日・祖先の祭日・忌日・家族の誕生日など。

(b) 社會的行事 年末年始の行事・雛祭・端午・盂蘭盆・彼岸・クリスマスなど。

(c) 衣類・家具の手入 衣類・書畫の蟲干・更衣期に於ける衣類の準備、例へば蚊帳干・洗濯など。

(d) 住居の修繕・掃除 家屋その他定期の破損調・修繕・疊替・障子張替・大掃除など。

(e) 園藝 庭の手入・種蒔・根分け・植替・果樹の剪定・施肥など。

(f) 飲食・食物・燃料の仕込 梅漬・澤庵漬その他漬物の漬込・味噌の製造・薪炭の購入など。

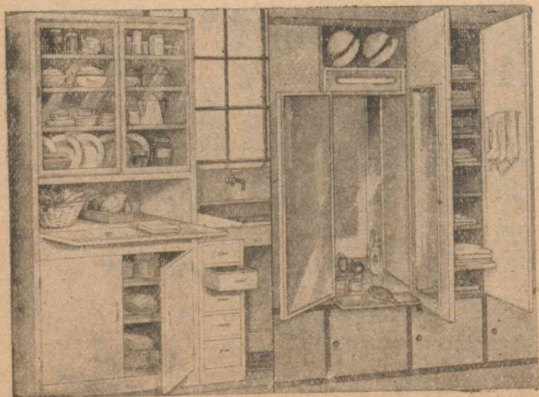
(g) 主要な家務 租税の納期・會費の納期・保険料拂込期など。

(h) 交際上の家務 近親者の米壽古稀還曆祝・近親の祭日・忌日など。

(B) 家具の整理 家具を仕舞ふときは常に使用するときのことを考へ、その仕舞場所は一定し置き、假令暗中に於ても取出し得るやうに整頓させて置かなければならない。

(C) 主婦の責任 家務は主婦が主宰者となるのであるから、戸締火の元は就床前に一應自ら檢べ、炊事や食事獻立・食事の後片づけなどは自ら責任者と

4 家務整理に關する主婦の心掛を問ふ。



棚整理と箱整理



なる。また變災に遭つて主人不在のときは自ら家族を指圖し、平素定めある通り實行させる。なほ主婦が外出する場合は代つて家を預る者を定めなければならぬ。

目傭人

家務は家族が協同して處理し、成るべく他人を傭はないのが子女の教育上からも、一家の取締や經濟上からも望ましいことである。もし已むを得ず使用する場合は、本人の性質や病氣の有無を調べなければならぬ。從來婢僕に對して人格を無視したやうな待遇を爲す者が多いが、成るべく家族の一人として取扱ひ、月に何回と日を極めて休暇を與へることが出来れば一層よい。それが出来なくても夜分は成るべく自由の時間とし、年若の女中は指導して修養させ、技藝などを授けるやうにありたい。

目家庭日記

家庭の出來事や、その日々の感想は毎日就床前に日記に書き留めるがよい。一日でも怠ると段々に廢れ勝ちになる。日記は過去の出來事をたどり、先例を確めるに便宜でもあり、また貴重な我が家の歴史にもなる意義深いものである。

第二課 交際

目交際

人に社會的接觸があると必ず交際が起る。殊に親族近隣朋友乃至職業上の交際は忽せにすることが出來ない。交際が圓滑に行はれると艱難相助け、喜憂を共にし、一家の幸福を増進することが出来る。しかし、交際が派手になると多くの費用を徒費し、無益に時間をつぶすことになる。一家の主婦は主人の交際を助けなければならぬが、社交に没頭すると家務は亂れ勝になるから注意

5 傭人の待遇法を問ふ。

6 家庭日記の必要につきて述べよ。

〔設問〕  
1 有益な交際と無益な交際なるものありや。



するがよい。交際に巧言令色を用ひ、表裏があつてはならない。餘りに行き過ぎた交際をして禮讓を失ふやうになれば破れる基になる。

㊦ 訪問

2 訪問に對する心得を問ふ。

人を訪問するときには時刻に注意し、豫め日時を打合はすことが出来ればお互に都合がよい。地位の高い人を訪問する場合は成るべく夜間を避けるがよい。長座を戒め用談は先にするがよい。遊びに行く場合は差支の有無を尋ねなければならぬ。

㊧ 饗應と贈答

3 客の招待には何故その趣旨・相客を通知する必要があるか。

客を招待するときは趣旨、あひきやく相客、日時場所を通知し、成るべく出席の有無につき回答を乞ふがよい。儀式的の意味を有する招待で略服を欲する場合はそのことを書添へる例である。特に世話になつた場合などに贈物をするのは避け難いが、虚禮に

4 如何なる贈答を廢すべきか。

互る贈答は廢しなければならぬ。贈答品は自己の地位相當の物にし、先方の地位・趣味・生活の模様などを斟酌し、有用なものを選ぶがよい。



## 第五篇 家事經濟

### 第一課 家事の基本

#### ■ 家庭生活の安定

家庭生活に於ける經濟的方面を家事經濟または家計といふ。家事經濟では主として一家の主人が中心になつて収入を得、主婦が中心になつて消費することになるのである。それ故主人と主婦とが力を協せなければ、家事經濟を改善し、家庭生活の安定を得ることは出来ない。家の榮えも、國の榮えも、家庭生活の安定が基になるのである。

家庭生活の安定と謂つても、たゞ日常雨露を凌ぎ、衣食に事缺かないことに甘んずべきではなく、常にこれを向上發展させ、生き甲斐

ある生活を營むやうにしなければならぬ。

#### ■ 家事經濟の鐵則

2 家事經濟の鐵則を理由を附して説明せよ。

堅實な家事經濟を立て、家庭生活の安定を圖るには次の原則を守らなければならない。

- (A) 収入は勤勞や財産に依り永續的に得ること。
- (B) 豫め計畫を立て、入るを計りて出づるを制すること。
- (C) 消費を合理化し、貯蓄の増加に努めること。

### 第二課 収入

#### ■ 臨時収入と經常収入

収入には臨時収入と經常収入との區別がある。臨時収入は臨時または偶然に入り来る金錢その他の財貨であつて、例へば官公吏の退職賜金、土地家屋の賣拂代などはこれに屬する。經常収入は

#### 【設問】

1 主人と主婦とが力を協せなければ何故家事經濟が改善されないか。

#### 【設問】

1 所得とは何ぞや。これを例示せよ。



2 所得が家事經濟の基礎たる所以を説明せよ。

所得とも稱へ、或一定の期間内に定まつて入り來る金銭、その他の財貨であつて、例へば官公吏の俸給、會社員の給料、労働者の賃金、醫業收入、資本利子、貸家收入、貸地收入などはこれに屬する。この種の收入は何れも勤勞や財産から永續的に得られるもので、その額も豫定し得るから、これを基にして消費計畫を立てるときは家事經濟の亂れることがない。

### ㊦ 金銭收入と實物收入

收入は臨時のものでも經常のものでも、金銭の形で收入する場合と、實物のまゝで收入する場合とがある。經濟生活の未だ幼稚な自給自足の時代には、收入は總べて實物であつたが、人々が分業に依つて國民生活を營むやうになつてから、收入は金銭の形で受けるものが多くなつた。現今でも農家では米、麥、野菜を初めとして、薪炭、味噌などに至るまで自家で生産した物を消費する有様であ

3 本書に示す以外實物收入を擧げよ。

つて、收入は實物が相當多額に上つてゐる。

金銭收入では、物價の高低が家事經濟に大きな影響を及ぼし、生活に動搖を來す虞が多いけれども、實物收入はこの虞が比較的少ない。殊に自給自足には家族の労働が與つて力が多く、これが一家の經濟を助けることにもなるのである。

### ㊧ 積極的所得と消極的所得

所得と謂へば通常積極的に金銭や實物を得ることを意味するのであるが、これらを消費せずして濟む方法を講ずるときは、經濟上所得を擧げると略同様の利益を收めることが出来るから、これを結果から見て消極的所得といふことがある。例へば自宅で裁縫や洗濯を行ひ、味噌、醬油を造れば少くとも労働賃だけは儲けたと同じ結果になる。積極的所得には限りがあるから、主婦は成るべく消極的所得に依つて餘裕の生ずるやう努めなければならぬ。

4 實物收入の利不利につきて述べよ。



### 四 企業收入と家計收入

5 企業收入と家計收入との混同は何故家事經濟を紊亂するか。

農工商のやうな企業を営む者は、企業上の總收入から、これに關係する總支出を差引いた餘剰が、家計上の收入となるのであるから、企業上の收入と家計上の收入とは明確に區別しなければならぬ。もしこれを混同するときには企業上の收支損益計算を不明瞭にし、知らず識らずの間に家事經濟の紊亂を來すことになるであらう。

### 第三課 收入の安定

#### 一 收入を安定させる手段

一家の收入はその生活を維持するに要する費用に充當する爲に得るのであるから、繼續性を有すると共に、その額にも大きな變動があつてはならない。收入を安定させるには貯蓄を爲し、保險に

#### 〔設問〕

1 一家の收入の安定を圖るには如何なる工夫を要するか。

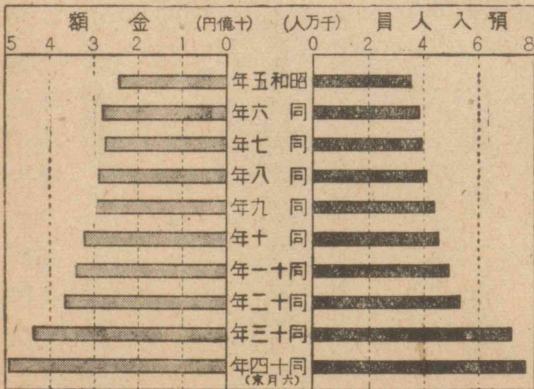
加入し、かつ收入上に危険分散方法を採用するがよい。次に少しくその所以を述べよう。

#### 二 貯蓄

(A) 貯蓄の方法 貯蓄は個人的には財産所得を増加し、社會的には生産資本が蓄積することになつて、一國の生産力を増大させ、國家を富強にする。

殊に勤勞收入に頼つて生活してゐる者が、平素貯蓄に心掛けないときは、一家を支へる者の疾病、死亡、失業などの場合、生計に大動搖を來すことになる。貯蓄の方法は種々あるが、その主要なものは郵便貯金、銀行の預金、貯金、信託

2 貯蓄の眞義を問ふ。



郵便貯金累年比較



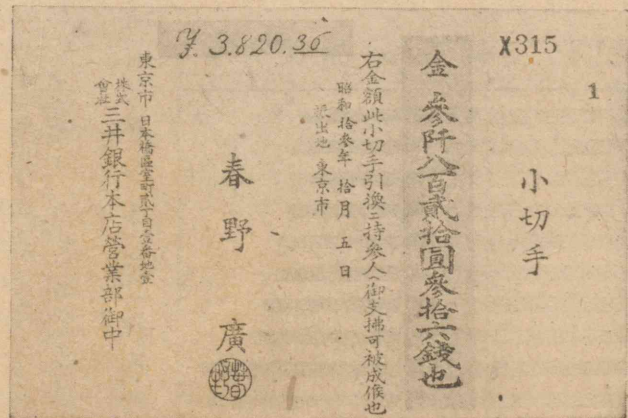
① 有價證券とは證券自体が社会から恰も有價物のやうに認められるもので、公債・社債券などはこれである。

會社に對する金錢有價證券の信託、公債證書、社債券の取得、株式會社の株式の取得、不動産(土地、家屋)の取得などである。

(B) 郵便貯金 これは各地の郵便局で取扱ふから至便で、その利子には免税の特典がある。利廻りは一流銀行の定期預金と略同じである。

(C) 銀行の預金貯金 銀行預金には、(1) 當座預金、(2) 特別當座預金、(3) 定期預金、(4) 通知預金の如き種類がある。

(1) 當座預金 これは請求のあり次第支拂つてくれるもので、利殖を目的とせず、保管その他の便宜上預入れるのであるから利率は低い。



預金者は支拂の請求に小切手を使用する。

(2) 特別當座預金 これは請求のあり次第支拂つてくれるもので、利殖と保管とを目的とするから、利率は當座預金よりも高い。

(3) 定期預金 これは利殖を目的とし、六箇月または一箇年といふやうに比較的長い期間を豫め定めて預入れるもので、銀行ではその期間安心してこれを他に融通することが出来る。従つて利率は預金中で最も高い。

(4) 通知預金 これは豫め通知して後に支拂を受けるもので、利殖と保管とを目的とし、比較的多額の預金に利用される。利率は定期預金よりも低く、特別當座預金よりも高い。

(5) 貯蓄預金 これは貯蓄と利殖とを目的とし、貯蓄銀行に幾回にも互り預入れるもので、一回の預入額は十圓未満をも扱ふ。利率は高く、複利計算に依る。この種の銀行は貯蓄者保護の爲、貯蓄銀



3 利殖に適する預金・貯蓄方法を述べよ。

4 銀行選擇上の心得を述べよ。

5 株式會社に對する投資の心得を述べよ。

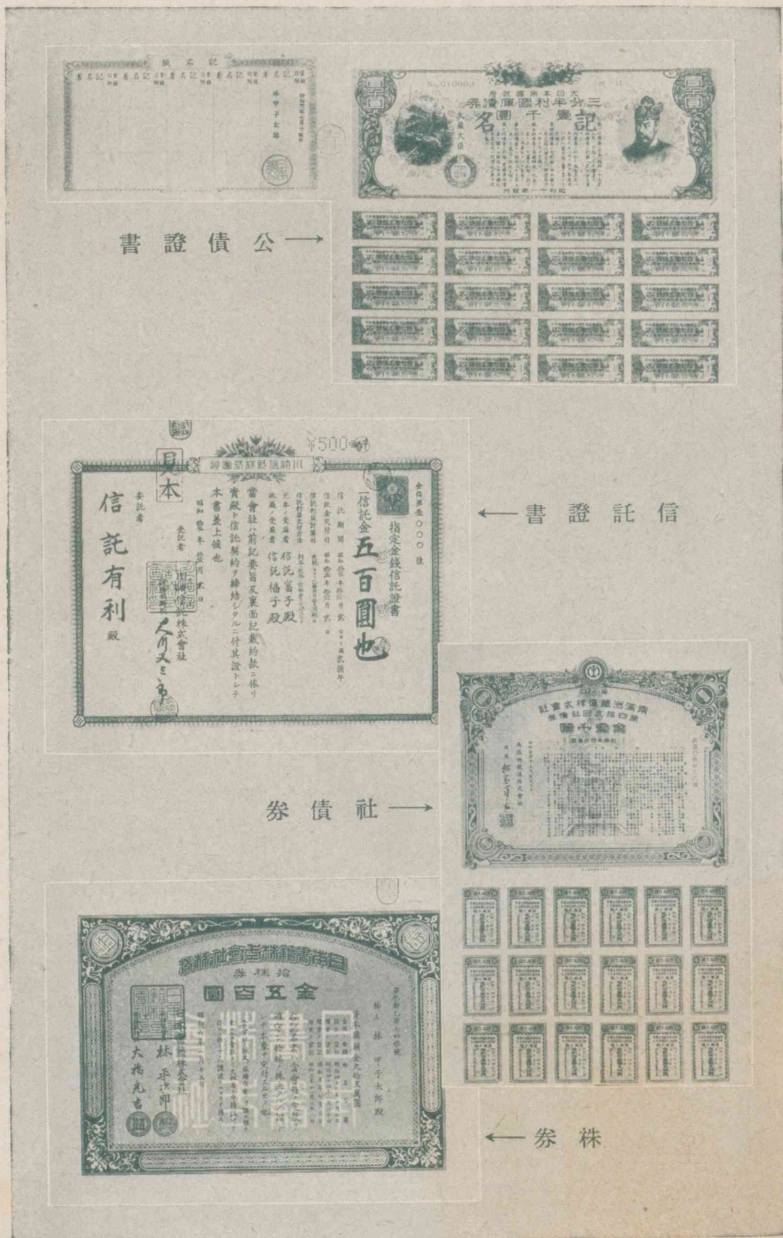
行法に依り銀行資金の運用に特別の制限が設けられ、また取締役には重大な責任が課せられてゐる。

銀行預金は成るべく確實な銀行を選ばなければならない。徒らに高い利率で預る銀行は確實とは認められない。

(D) 金銭有價證券信託　これは資本の運用期間を定めて信託會社に運用を託する方法であつて、信託者は會社から運用に依つて得た利益の配當を受ける。信託期間は二箇年以上の例である。

(E) 公債社債　公債は政府または地方團體(道・府縣・市町村など)の募集する借入金であつて、政府の借入れるものを國債、地方團體の借入れるものを地方債といふ。社債は會社が資金借入の爲募集するものである。公債社債の募集に對しては公債證書社債證券を發行する。

(F) 株式　株式會社では資本を株式に分ち、株主が資本主となる。株式に對しては株券が發行される。これには通例株主の氏名が



類種の券證



⑤ 登記は管轄區裁判所またはその出張所（即ち登記所）に願出て請けるのである。  
⑥ 保險は何故に必要か。

記載される。それ故他人から株式を譲受けたときは名義の書換を行はなければならぬ。會社の利益配當は名義人に交付される。配當率の多い會社が必ずしも優良安全であるとは限らない。

(G) 土地家屋 土地を求め、家屋を建築するのは貯蓄の一方法である。しかし、家屋は年を経るに従ひ、漸次朽ちるから、その壽命を豫定して年々償却金を積立てなければならぬ。家屋を新築したときは登記所に於て保存登記を請け、土地家屋を求めたときも亦所有權移轉の登記を請けなければならぬ。

### 目 保 險

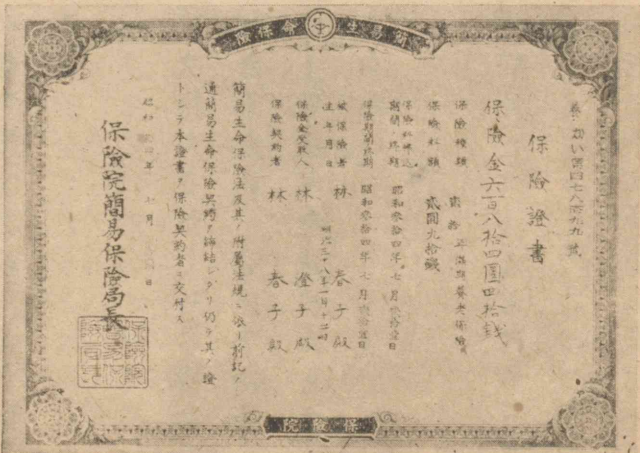
(A) 保險の效用 保險は水火災傷、疾病、死亡、老衰などに備へる爲、同憂の人が豫め一定の金額を出し合つて、罹災その他豫想した事件に逢着した場合に相互に救濟する性質を有する施設である。社會生活の複雑化や生活の向上に伴ひ、かうした事件の爲に生活



の安定を缺く危険は益増大する傾向があるから貯蓄の外に保険の加入は極めて必要なことと謂はなければならぬ。また保険の中には相互救済と共に貯蓄の意義を有するものもある。次に家計上特に必要な保険につき述べることにしよう。

(B) 人事保険

(1) 生命保険 これに會社經營の養老保険・終身保険と政府經營の簡易生命保険とがある。養老保険は一定の期間、時期を定めて保險會社に約定の保険料を掛け、被保險者が所定の老齡に達



保 險 證 書

③ 養老保険の如きはこれである。

④ 加入の際重大な疾病を隠秘して結んだ保険契約は無効になるかまたは取消されることがある。

⑤ 簡易生命保険では加入の際身體検査を行はな

するか、またはその以前に死亡したとき、保險加入者もしくはその指定人が保險金の支拂を受けるものである。終身保険は被保險者が死亡したとき、保險加入者もしくはその指定人が保險金の支拂を受ける点だけが、養老保険と異なつてゐる。簡易生命保険は一種の養老保険であつて、保險金の最高限度は七百圓である。

(2) 國民健康保險 これは國民健康保險組合の經營であつて、被保險者となる者は組合員及びこれと同一世帯の者に限られ、平素保險組合員から掛金を徴收し、これらの者が疾病分婉死亡の場合に療養費・手當金・葬祭費などの給與を受ける制度である。

(3) 傷害保險 これは會社の經營であつて、被保險者が保險會社に約定の保険料を掛け、身體に豫め定めた通りの傷害を受けたとき、保險金の支拂を受けるものである。



(C) 財産保險

(1) 火災保險　これは會社の經營であつて、一定の家屋、物品、森林などの爲に約定の保險料を掛け置き、目的物が火災に罹つたとき保險金の支拂を受けるものである。

(2) 盜難保險　これも會社の經營であつて、一定の動産を目當に約定の保險料を掛け置き、その盜難に罹つたとき保險金の支拂を受けるものである。

四 危險分散方法

經濟上の被害が一時に一つのものに集中することを避け、これを多數のものに分擔させることを危險分散方法といふ。これは家庭生活の安定上極めて大切なことである。勤勞收入に依つて家計を立てる場合に、所得を受け取る者が一人の場合は失業、疾病、死亡などに遇ふと生活の途が絶えるが、二人以上の共稼ぎで收入の途

① 火災保險は家屋の所在、周囲の状況、建築材料及び用途に依り保險料の率に差異がある。  
火災保險申込の際、重要事項につき事實と異なる申告を爲すときは契約は取消されることある。

7 所得を得る上に危險分散方法を採用する必要がある。

を圖れば一人の負擔は大いに輕減される。財産收入に依つて家計を立てる場合も、或一銀行だけに預金して置くか、一株式會社だけの株主となつて居れば、その銀行または會社が破綻すれば收入の途が絶える。土地家屋などに就いても亦罹災の危險がある。それ故収入源を多種多様にして置けば被害があつても分散される。勤勞と財産との兩方面から所得を擧げるのも亦一種の危險分散方法である。

第四課 生計費

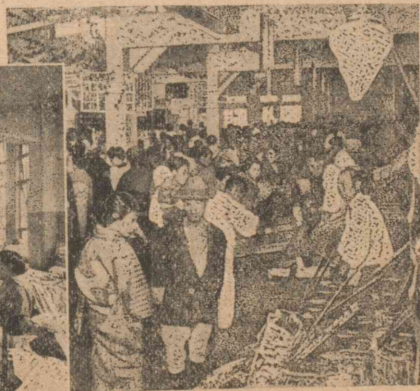
一 生計費

(A) 生計費の三様相　一家の生活には家族の爲に衣食住を整へ、子女を教育し、健康を保持し、公共費を負擔するなど幾多の費用を要する。

〔設問〕  
1 生活必需費、公共費・文化費を例示せよ。



そして衣食住及び健康保持に關する費用は、最低の生活にも缺くことの出來ないものであるから、これを生活必需費といひ、教育修養、研究、趣味、向上慰安などに要する費用は、人生を意義あるものにするものであるから、これを文化費といふ。以上述べた生活必需費及び文化費は、個人的の生計費であるが、人間は國家社會生活を營むものであるから、國家公共團體などの費用を分擔し、かつ社會に奉仕しなければならぬのであつて、これらに要する費用を公共費といふ。



公 設 市 場

市 立 庶 民 病 院



2 經常費と臨時費とを區別する實益を問ふ。

(B) 經常費と臨時費 収入に經常収入と臨時収入とがあるやうに生計費にも經常費と臨時費との區別がある。經常費は日常生活の爲に毎年繼續的に要する費用であり、臨時費はこれと異なり、婚姻、出産、疾病、住家大修繕などのやうな臨時または不時の費用である。經常費は概ね豫定し得るが、臨時費には豫め出費の豫定し得るものもあり、また豫定し得ないものもある。家計の常道は經常収入から經常費、臨時費を共に支出するか、または臨時収入から臨時費の一部または全部を支出することであつて、入るを計りて出づるを制するの原則は正さしくこゝに適用されなければならぬ。

四 豫算生活

(A) 豫算 家計を合理化するには豫算生活をする事が肝要である。豫算生活とは年の始月の始に、収入に應じ適當に支出計畫

3 豫算生活は何故必要なりや。



4 豫算の効用を問ふ。

を立て、これに従つて消費を行ふ生活法をいふ。豫算は一定期間内に於ける収入の見積と、この支出計畫に外ならない。

豫算を立てるには次の方法に依る。

① 東京に於ける給料生活者の生計費であつて、内閣統計局の調査(自大正十五年九月至昭和二年八月)にかゝる。

② 農業生活者の全国平均の生活費であつて、内閣統計局の調査にかゝる。

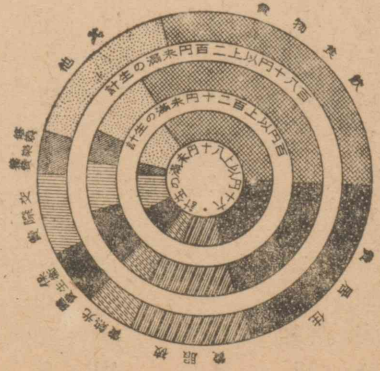
(1) 収入・支出を分類し、収入科目・支出科目をつくる。収入科目は職業収入・財産収入などに區別し、必要に応じてこれを更に細分する。支出科目の區分は細に過ぎれば煩雜となり、粗に過ぎれば融通がきゝ過ぎて、豫算の効用を没却する。それ故これは家計の大小と家族の生活状態に應じ、實效を収めることを旨とし、次の例を斟酌して定めるがよい。

支出科目區分例(一)

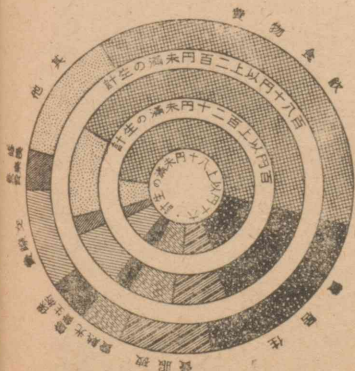
- ① 飲食費
  - 食料費……主食物、副食物、調味料、燃料の費用など。
  - 嗜好品費……酒、煙草、菓子、果物代など。
- ② 住居費
  - 住宅費……家賃、地代、疊替、その他の小修繕費、火災保険料、調光熱費、照明、煖房費など。
- ③ 被服費
  - 衣服、寢具、身の廻り品、洗濯の費用など。
- ④ 保健費
  - 醫藥、入浴、化粧、石鹼、齒磨の費用など。
- ⑤ 教育費
  - 子女の教育費……授業料、學用品代、修學旅行費、通學費など。
- ⑥ 負擔費
  - 租稅、會費、寄附金、生命保險料など、已むを得ない負擔。
- ⑦ 修養娛樂費
  - 書籍、新聞雜誌、家族慰安費など。

〔註〕(他地方に遊學せしめるときは學費全額をこの項で整理する)

〔註〕(瓦斯料などは大體の見込に依り飲食費と住居費とに分別する。)



表費活生の者活生料給①



表費活生の者活生業農②



- ⑧ 交際小遣費〔贈答宴會その他交際費・通信交通費など。〕
- ⑨ 非常準備費〔傷痍疾病・婚姻・死亡・家屋大修繕などの臨時支出の爲に設け、期末に剩餘を生じたときは別途に積立てる。〕

支出科目區分例(二)

- ① 飲食費〔主副食物・飲料・調味料・燃料の費用など。〕
- ② 住居費〔家賃・地代・壘替代・火災保険料・調度品費・傭人料など。〕  
〔註〕傭人料は別科目にしてもよいが、これには庭園の手入・人夫費なども含み毎年殆んど一定してゐるからこの科目で整理してもよい。
- ③ 被服費〔衣服・寢具・身の廻り品・洗濯の費用など。〕
- ④ 負擔費〔租税・公益團體の會費・生命保険料など。〕
- ⑤ 家族雜費〔家族の教育費・修養費・娛樂費・乗物代・交際費・通信交通費・外出の際の小遣など。〕  
〔註〕これは家族共同費と長男費・次男費・長女費・次女費などに區別し、共同費以外は月極めに依り、相當年齢の子女に渡切りの上で使用させてもよい。

尤も授業料・修學旅行費などは留置きにする。

- ⑥ 非常準備費〔傷痍疾病・婚姻・死亡・家屋大修繕の費用など。〕  
〔註〕臨時出費の爲に設け、期末に剩餘を生じたときは別途に積立てる。

(2) 一箇年を一期間となし、各月の収入・支出の見積計算を立てる。収入・支出の見積計畫は、既往の實績と將來の見込とを基礎としなければならぬ。支出金額は収入金額の内輪に置き、差額を貯蓄に當てる。また非常準備費だけは月割にしても無意味であるから、一箇年分を計上する。

(B) 豫算の執行 豫算を立てた以上は紊りに各支出科目の流用を行つて、その執行を誤つてはならない。収入が激減したときは豫算を適宜修正する。しかし、収入が増加したときに豫算を修正するやうなことは避けなければならぬ。また非常準備費は成るべく年初から使用しないやうにするがよい。

5 豫算執行上の心得を述べよ。



同数の世帯人員を有する収入階級別一箇月平均實支出調(一世帯)内閣統計局調査 (自大正十五年九月) (至昭和二年八月)

種別	所得者		勤勞所得者(給料生活者)		給料生活者		勞働者		農業者	
	六十圓以上	六十圓未満	六十圓以上	六十圓未満	六十圓以上	六十圓未満	六十圓以上	六十圓未満	六十圓以上	六十圓未満
世帯人員	五人	三人	同	同	同	同	同	同	同	同
消費單位	四・五・九三	三・二七	三・三六	三・五	三・三九	三・三三	三・三六	三・三六	三・三六	三・三六
食物費	二・一九一	一・五八二	一・五八二	一・五八二	一・五八二	一・五八二	一・五八二	一・五八二	一・五八二	一・五八二
嗜好品	六・六八	六・六八	六・六八	六・六八	六・六八	六・六八	六・六八	六・六八	六・六八	六・六八
住居費	一・四四	一・四四	一・四四	一・四四	一・四四	一・四四	一・四四	一・四四	一・四四	一・四四
被服費	一・一六	一・一六	一・一六	一・一六	一・一六	一・一六	一・一六	一・一六	一・一六	一・一六
保健衛生費	六・五五	六・五五	六・五五	六・五五	六・五五	六・五五	六・五五	六・五五	六・五五	六・五五
教育費	三・〇八	三・〇八	三・〇八	三・〇八	三・〇八	三・〇八	三・〇八	三・〇八	三・〇八	三・〇八
交通費	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇	〇・八〇
通信運搬費	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五
文房具費	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五	〇・一五
交際費	〇・五五	〇・五五	〇・五五	〇・五五	〇・五五	〇・五五	〇・五五	〇・五五	〇・五五	〇・五五
修養娛樂費	二・四四	二・四四	二・四四	二・四四	二・四四	二・四四	二・四四	二・四四	二・四四	二・四四
旅行費	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七
備入料	〇・九	〇・九	〇・九	〇・九	〇・九	〇・九	〇・九	〇・九	〇・九	〇・九
其他	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五

備考 農業者中百圓以上二百二十圓未満の所得者の世帯人員は夫婦に一兒の者と夫婦に四兒以上の者ととの二例があるだけであるから兩者の平均に依つて掲げることとした。農業者中百圓以上二百二十圓未満の所得者は該當するものが無い。飲食料費は主食品・副食品・酒・茶・菓子等の副食外嗜好品の三から成立してゐる。(本表は%を以て示す。)

収入階級別一箇月平均實支出調(一世帯)内閣統計局調査 (自大正十五年九月) (至昭和二年八月)

種別	所得者		勤勞所得者		農業者		業者	
	六十圓以上	六十圓未満	六十圓以上	六十圓未満	六十圓以上	六十圓未満	六十圓以上	六十圓未満
調査世帯數	七三三	九二二	一六	一九	一七	一七	五	一五
消費單位	二・八八	二・一五	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
食物費	一・六六	一・四	一・六六	一・六六	一・六六	一・六六	一・六六	一・六六
嗜好品	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇
住居費	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
被服費	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
保健衛生費	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
教育費	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
交通費	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
通信運搬費	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
文房具費	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
交際費	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
修養娛樂費	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
旅行費	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
備入料	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一
其他	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一

備考 消費單位は次の基礎に依り算出する。(本表は%を以て示す。)

年齢	0-1	2-4	5-7	8-10	11-14	15-20	21-
男	3	4	5	7	8	9	10
女	3	4	5	7	8	9	9



6 収入が不足して  
も支出しなければ  
ならない場合  
を述べよ。

7 消費合理化とは  
何ぞや。

8 物の購入につき  
個人的立場と社  
會的立場と相反  
することなきか  
相反することあ  
りすれば如何  
にすべきか。

9 廢物利用とは何  
ぞや。

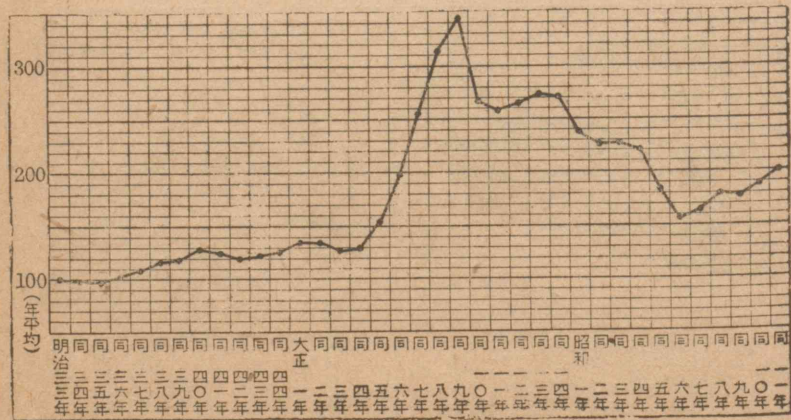
(C) 収入不足 引續く収入不足の爲に如何に節約しても收支の均衡が得られないときは、臨機の處置として、先づ収益を生じない財産例へば書畫骨董のやうな物を賣拂つて一時凌ぎを爲しつゝ所得を擧げる方法を講ずるの外はない。

(D) 決算 一箇月の終には收支の月計を爲し、一箇年の豫算の執行を終れば豫算に對照して決算を行ふ。決算表には収入額未収入額・支拂額未拂額を計上する。かうして豫算に剩餘を生じたときはその金額は貯蓄し、支出超過となつたときは不足として補ふ方法を考へる。

目 消費合理化

(A) 家計と消費合理化 家計は消費經濟であるから、消費を合理化しなければ家計を合理化することは出来ない。消費合理化とは消費物の効用を極度まで發揮させることに外ならない。

- (1) 消費物を求める際價格の割合には用途上効用多きものを選ぶこと。物の價格の廉不廉は効用に比べて考へるべきことを忘れてはならない。そして價格の低い物が經濟的で、高い物が不經濟であるといふことは出来ない。
- (2) 消費や消費物の選擇に科學を應用すること。理化學などの知識を應用しなければ消費合理化は十分に行はれない。
- (3) 消費物は經濟的に見て全く廢物となるまで利用すること。物は一用途に使用することが出来なくなつても、加工す



(のりため定と百を年三十三治明) 表數指價物査調行銀本日



10 廢物利用の心がけと工夫につき述べよ。

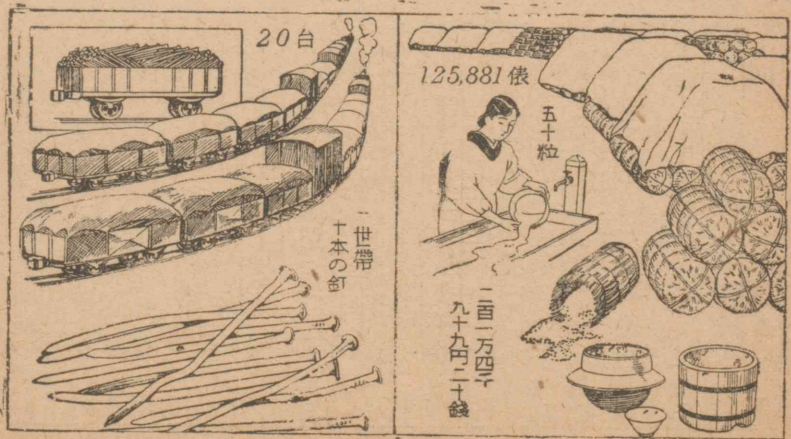
11 物を粗末にするなどいふ言葉の眞の意義を明らかにせよ。

① 假に一世帯で、一日五十粒づつの米を無駄にするにすれば、全國では一箇年に約十二萬五千八百八十一俵(四斗入)となり、この代金は一升四十錢として實に二百一萬四千九百九十四圓二十錢で、これだけ水に流してしまふことになる。

② 一世帯につき十本の古釘を集めるとすれば、全

れば他の用途に使用することの出来る場合が少くない。更生利用が經濟上却つて不利益となつたとき始めて消費經濟上の廢物となるのである。しかし、これも社會上絶対無價値物であるとは限らない。特に現今のやうに物資不足の時代には、廢物でも無價値でない限り棄却せず、素材別に分類して取纏め賣却譲與その他の適當の處置を講ずるがよい。

(4) 適當の節約を圖ること。消費の節約と謂へば物を無駄にせず最も有効に使用し、消費しないで済む場合はこれ



① 計 統 續 ②

國では約三十萬圓(百八十四圓)となり、十五噸の貨車二十臺に滿載出来る。

(1) 消費は必要的消費といつて、保健上必要なだけの消費と(2) 地位的消費といつて社會上の地位及び身分を保つ爲に必要なだけの消費と(3) 享樂的消費といつて、慰安を求め、休養を得る爲の消費と(4) 奢侈的消費といつて、地位身分不相應な消費と(5) 浪費といつて、物資を無益に消費するものがある。奢侈と浪費とは吝嗇と同様に良くない行爲である。

を消費しないやうにすることである。吝嗇は地位身分道義社會人たる立場健康などを無視して消費を押しへること、卑しむべき行爲である。

(B) 生活改善 我が國の風俗習慣には消費生活の上に改善すべきことが少くない。そのうち主要なものにつき述べて見よう。

(1) 生活様式を改善すること。歐米の風俗が輸入されてから和洋兩様の生活様式が採用され、被服などに二重の消費をする者も少なくない。これらは職業上の必要を斟酌し、成るべく生活様式の單一化を圖らなければならぬ。

(2) 社交儀禮を改善すること。別段の意味なき盆暮の贈答新年の回禮年賀狀發送などは長年月の傳統であるが、無益の陋習であるから、申合はせて改善するがよい。

(3) 婚禮費を節約すること。我が國ほどに婚禮の仕度や式典に費用

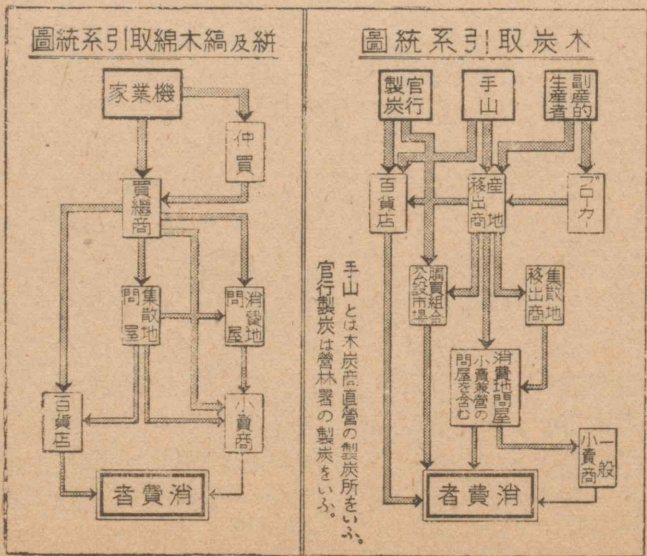


をかける國は稀である。成るべく申合はせて虚榮虚飾を避けるやうにするがよい。

(4) 掛買の習慣を廢し、現金買主義に改めること。掛買を行へば品物の賣價が自然に高くなり、不急の品物をも買うやうになつて不經濟である。

(5) 當座不用の品を買溜すれば自然に物を贅澤ぜいたくに使用するやうになり、月々それだけの費用を節約することも容易に行ひ難いこととて、結局不利益になり易い。またもし

12 買溜の利害を問ふ。



圖統系引取の來從

市場しやばに品不足を來すときはそれだけ社會に迷惑をかけることになる。

(6) 成るべく消費の協同を行ふこと。品物を購入する際に多數人が協同すれば數量が纏るから、直接生産者と取引することが出來て、廉價になる。消費組合の如きは、この組織化されたものである。

(7) 家庭に計量器を備付けること。購入品の重量や容量をはかるときは不正商人を排除することが出来る。

四 生産と消費

財貨の生産は總べて消費を終局の目的とするから、消費は自然に生産を誘導する。されば消費者は生産の間接命令者となつて或程度に國民經濟を支配し、これが國運の消長に至大の影響を及ぼすことになる。例へば奢侈品の消費が多いときは生産業者はその生産に力を注ぐから、限りある國內の資本や勞力は無益に使は

13 生活改善を要すると思ふ事項につき述べて見よ。

14 生産と消費との關係を述べ消費者の心掛につき反省せよ。



れ、國家社會を裨益することにならない。然るに消費者が多少の不便を忍んでも、國産の實用品を使用するやうになれば、奢侈品は驅逐され、國內の資本や勞力は有益に使はれて、産業は勃興し、生産品の品質は益、優良廉價になり、輸出貿易は振興するやうになる。家庭は終局の消費場であつて、主婦は消費の主宰者であるから、家庭の爲に消費を行ふとはいへ、常に國民たる立場を忘れず、國運隆昌の爲に寄與しなければならぬ。

### 第五課 家計簿

#### ■ 家計簿の備付

④ 賃金・消費物代立替金・動産の損料などの受領證は一年間、請負工事・製造人に注文した仕事の代金の受領證は二年間は保存する必要がある。

豫算生活を営む爲に收支を明らかに記帳することを家計簿記といひ、家計簿記に用ひる帳簿を家計簿といふ。⑤ 各家庭はそれ／＼經濟事情を異にし、收支に繁簡の別があるから、如何なる家計簿が最

③ 當座入用金と非常準備金の一定額の外は手許に現金を置かないがよい。

も適當であるか一概には謂ひ難いが、毎日記帳を要するのであるから、成るべく簡單で整備したものがよい。次にこれを例示しよう。

#### (例の 一)

出納簿 (この帳簿は收支の極めて簡単な家庭に於て用ひる。

#### (例の 二)

収入票 (または収入簿)  
支出票 (または支出簿)

#### (例の 三)

収入票 (または収入簿)  
支出票 (または支出簿)  
日記帳 (支出の多い家庭では記帳洩れの出來ないやうにこの種の



# 出 納 簿

10月

日付	摘 要	科目	經 臨	收 入	支 出	備 考
	豫 算 額		經常	80 00	72 00	飲食費(圓)
	前月繰越(又ハ不足)額				2 50	被服費(圓)
	差引本月支出豫算額				74 50	負担費50銭
1	米 14キロ	飲食			3 80	
	何銀行預金利息		經常	1 00		
	鮫 2尾	飲食			1 6	支拂未済のもの あらばこの欄に 附記する。
	こんにやく	"			0 5	特別の出費も参 考の爲事由をこ の欄に附記する。
	野菜	"			2 0	
	太郎授業料	家族雑			5 00	
	太郎半紙 1帖	"			1 0	
	花子おもちゃ	"			3 0	
	葉書 10枚	"			2 0	
	主人下駄	被服			1 50	
	氏神様月掛	負担			1 0	
	草蓆 1本	住居			2 0	
	日 計		經常	1 00	11 61	
				臨時 ある は書 く	収入 とき に行 に	

## 家計簿のつけ方

家計簿の記入は毎夜の日課としてその日の收支を怠りなく實行し、各科目毎に豫算日計、累日計をつくり、残額の對照に便利なやうにしなければならぬ。かうして一箇月の終りには各科目毎に月計及び累月計をつくる。

一箇月の経費は月割豫算額の範圍に止めるのが原則であるが、月割額は弾力性に乏しい爲往々過不足を生ずることがある。故にもし月割豫算額に残餘を生じたときは、これを繰越して翌月の豫算に加へ、已むを得ない事由で不足となつたときはその額を翌月

帳簿を設け、支出の都度記帳する。  
 賄 帳 〔家族の多い家庭では毎日飲食物代の支拂が多いから、日記帳の外にこの帳簿を設ける。〕  
 決算票 (または決算簿)



















の豫算から差引くやうにする。また非常準備費は月割豫算額の内に加へないで一箇年分を纏め置き、もしこれを支出したときはその月の月計に加へ、それだけ非常準備費豫算額を減じて置く。一箇年の豫算の執行を終れば豫算に對照して決算を行ふ。支出票の外に日記帳賄帳を設けるときは、支出をする都度これに記帳し置き、夜に入りて支出票に記入する。

新日本家事教科書(下卷)終



昭和十三年十一月二十八日  
 昭和十四年一月二十八日  
 昭和十四年二月二十八日  
 昭和十八年六月二十六日  
 昭和十八年六月三十日

印刷  
 發行  
 訂正再版發行  
 訂正再版發行  
 訂正再版發行



著者

山崎 犀二郎

發行者

東京都神田區岩本町三番地  
 中等學校教科書株式會社

印刷者

東京都神田區神保町三丁目十番地  
 春山治部左衛門

新日本事教科書下  
 定價金九拾九錢

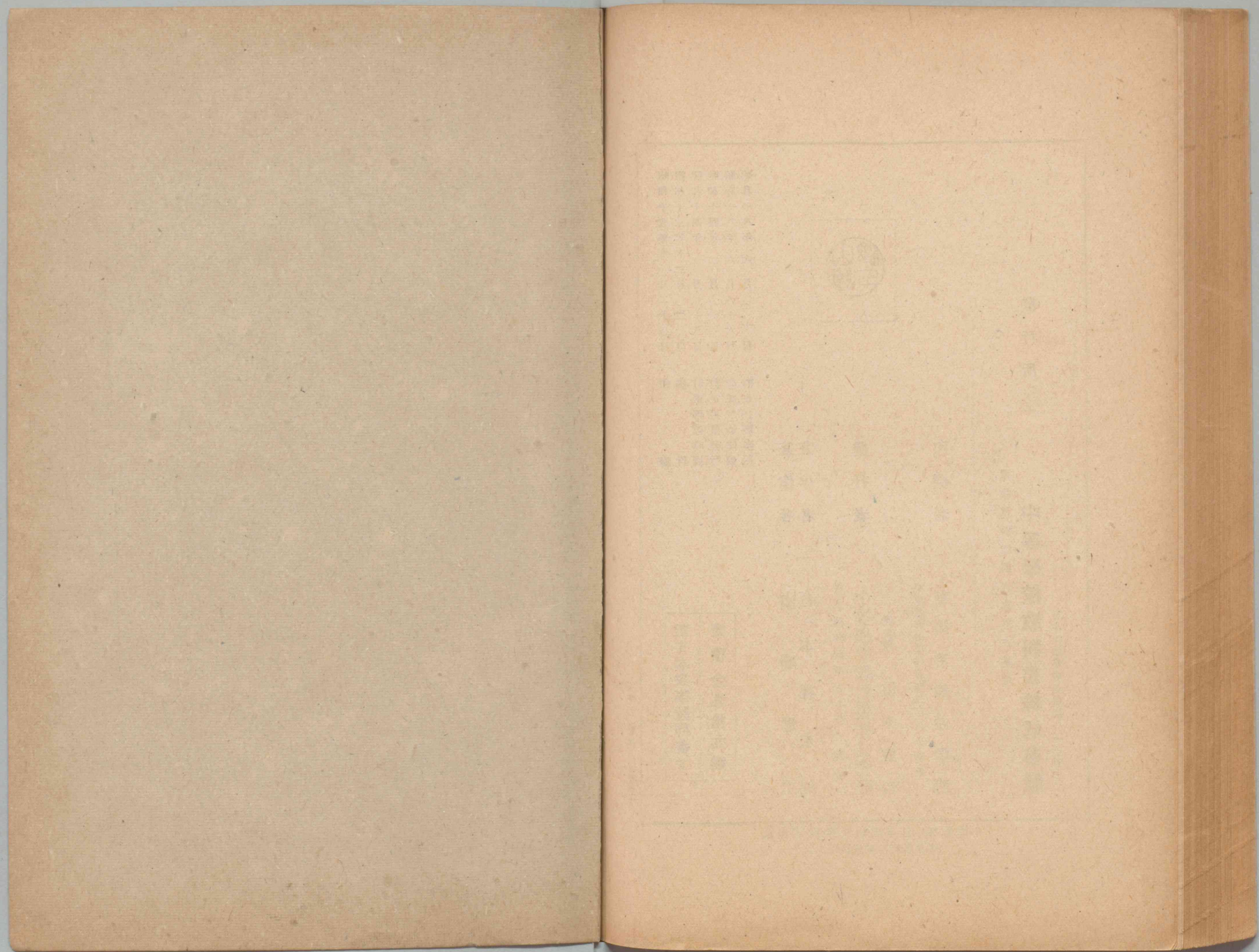
(略名) 盛林山崎家書下

發行所

東京都神田區岩本町三番地  
 中等學校教科書株式會社  
 日本出版會會員番號一七五二二

配給元 日本出版配給株式會社  
 東京都神田區淡路町二ノ九









広島大学図書

2000080802

